

IRIS Powerscan 10.5

ユーザガイド

目次

本資料について.....	1
用語.....	2
法定通知.....	3
1. IRIS Powerscan について.....	4
1.1 IRIS Powerscan とは?.....	4
1.1.1 一般的な機能.....	4
1.1.2 IRIS Powerscan のコンポーネント.....	5
1.2 IRIS Powerscan 10.....	6
1.3 IRIS Powerscan 10.2.....	8
1.4 IRIS Powerscan 10.2.2.....	9
1.5 IRIS Powerscan 10.3.....	10
1.6 IRIS Powerscan 10.4.....	11
1.7 IRIS Powerscan 10.5.....	13
1.8 IRIS Powerscan Add-ons.....	15
1.8.1 iHQC Add-on.....	16
1.8.2 IRIS Fingerprint Add-on.....	17
1.8.3 ISIS Driver Add-on.....	18
1.8.4 Central Management Add-on.....	19
1.8.5 Background Processing Add-on.....	20
1.8.6 IRIS Powerscan.....	21
1.8.7 Canon Barcode Module.....	22
2. インストールとアクティベーション.....	24
2.1 システムの要件.....	24
2.2 サポートされるスキャナ.....	25
2.3 IRIS Powerscan.....	26
2.4 IRIS Powerscan.....	27
2.5 Add-ons のアクティベーション.....	29
2.6 ウィルス対策ソフトウェアを設定する.....	30
2.7 IRIS Powerscan.....	31
2.8 プロダクトサポート.....	32
3. はじめに.....	33
3.1 IRIS Powerscan.....	33
3.2 デモ用プロジェクトを試用する.....	34
3.2.1 デモ用プロジェクトにアクセスする.....	34
3.2.2 デモ用プロジェクトを試用する.....	34
4. プロジェクトを作成する.....	37
4.1 ウィザードテンプレート.....	40
4.2 自動検出テンプレート.....	43
5. IRIS Powerscan のインターフェース.....	45
インターフェース言語を変更する.....	46
5.1 アプリケーションメニュー.....	47
5.2 ナビゲーションモード.....	50
5.2.1 クイックアクセスツールバー.....	52
5.2.2 メインツールバー.....	53
5.2.3 ナビゲーションバー.....	59

5.2.4 ナビゲーションエクスプローラ	60
5.2.5 ビューアー	61
5.2.6 フィールドペイン	62
5.3. デザイナーモード	63
5.3.1 クイックアクセスツールバー	64
5.3.2 メインツールバー	65
5.3.3 デザイナーエクスプローラ	68
5.3.4 ビューアー	69
5.3.5 設定ペイン	70
6. ウィザードを使ってプロジェクトを設定する	77
6.1 考慮すべきパラメータ	78
6.2 サンプルに画像を追加する	79
6.3 操作を追加する	80
6.4 画像処理操作を追加する	81
6.5 ページタイプを追加する	82
6.6 文書タイプを追加する	84
6.7 バッチタイプを追加する	86
6.8 出力タイプを追加する	87
6.9 データ ソースを追加する	88
7. IRIS Powerscan 10 でドキュメントを処理する	89
7.1 グループとユーザーを管理する	93
8. ドキュメントをスキャンする	95
8.1 スキャナを使用する	97
8.2 フォルダからスキャンする	99
8.2.1 フォルダを監視フォルダとして使う	101
8.3 クラウドからスキャンする	103
8.4 XMailFetcher からスキャンする	104
9. 操作	107
9.1 画像処理	107
9.1.1 プロジェクトの作成中に操作を追加する	107
9.1.2 ナビゲーションモードの操作ペインを経由して画像処理操作を追加する	107
9.1.3 ウィザードを介して画像処理操作を追加する	108
9.1.4 デザイナーモードで画像処理操作を手動で追加する	108
9.1.5 画像処理操作の概要	110
9.2 データ抽出	114
9.2.1 データ抽出ゾーンを作成する	114
9.2.2 ゾーンのプロパティを定義する	115
9.2.3 データ抽出を識別の手法として使用する	121
9.3 白紙ページの検出	122
9.4 カラーの抽出	123
9.5 Fingerprint の検出	125
9.6 表裏交換	126
9.7 並べ替え	127
9.8 ページの削除	129
9.9 白紙ページの削除	130
9.10 画像の削除	131

9.11 空白画像の削除	132
9.12 ページ添付	133
9.13 変数への代入	134
9.14 カウンターの設定	135
9.15 バッチの名前付け	136
9.16 バッチの区切り	137
9.17 バッチ識別	138
9.18 ドキュメントのネーミング	139
9.19 文書区切り	140
9.20 ドキュメント識別	141
10. ページの識別	142
11. ドキュメントとバッチの区切り	143
11.1 文書区切りの例	145
12. スキャンしたドキュメントのチェックと再編成	147
12.1 スキャンしたドキュメントをチェックする	147
12.2 スキャンしたドキュメントを再編成する	148
13. スキャンしたドキュメントのインデックスを作成する	152
13.1 インデックスフィールドを作成する	153
13.1.1 インデックスフィールドのオプション	153
13.2 データ抽出ゾーンをインデックスフィールドにリンクする	155
13.3 インデックフィールドの正確度レベルを使用する	157
13.4 IRIS Powerscan のインデックスフィールドを DMS やクラウドシステムのフィールドにマッピングする	159
13.5 データソースを使用する	160
13.5.1 ODBC データソースを使用時に従属フィールドを作成する	162
13.5.2 リストデータソースの使用時に従属フィールドを作成する	165
13.6 インデックスフィールドを検証する	167
14. 出力を設定する	169
14.1 出力フォーマットを選択する	171
14.2 出力先を選択する	179
14.2.1 出力先の概要	179
15. 表現式とスクリプトを使用する	184
15.1 表現式を使用する	184
15.1.1 利用可能な変数の概要	185
15.1.2 利用可能な演算子の概要	189
15.1.3 変数の例	190
15.2 スクリプトを使用する	192
16. IRIS Powerscan Agent	193
17. ショートカットキー	194
18. IRIS Powerscan Server	197
19. 接続プロジェクトを使用する	200
20. Button Manager を使用する	202

本資料について

本資料の目的は、IRIS Powerscan 10.5 を使って、文書処理の高速化の実現に寄与することです。本資料は、IRIS Powerscan のインストールとセットアップ、基本的な処理手順やアプリケーションのコマンド、および作業エリアについて説明します。

本資料内の説明は、Windows® 7 オペレーティングシステムに基づいています。本資料内のすべての情報は、事前の通告なく変更されることがあります。

用語

この IRIS Powerscan ユーザーガイドをお読みいただく前に、IRIS Powerscan の最も重要な概念と用語について正しくご理解いただけるよう、以下の通り説明します。

- **プロジェクト**：プロジェクトは、IRIS Powerscan の核となるものです。それぞれのプロジェクトは、ドキュメントのスキャンおよびプロセスのための固有の設定を意味します。あるプロジェクトの中で、スキャンされたドキュメントは、常に、**バッチ > ドキュメント > ページ**という階層構造に展開されます。
- **バッチ**：バッチとは、複数のドキュメントの集まりです。
- **ドキュメント**：ドキュメントとは、複数のページの集まりです。
- **ページ**：1 ページが、**用紙の片面**と同等のものとして、または IRIS Powerscan にインポートされた **1 つの画像**と同等のものとしてスキャンされます。1 ページは表面または裏面のいずれかです。1 ページには、白黒、カラー、およびグレースケールなど、複数のストリームが含まれることがあります。

注意：IRIS Powerscan 10 の 10.3 バージョンでは、1 ページは、スキャンされた**用紙**と同等のものでした。即ち、表面と裏面の双方の面を含まれていました。

これは、Page.Index または Page.Count 変数がドキュメントまたはバッチを分けるために使用される両面スキャンプロジェクトを意味します。2 ページごとに新規のドキュメントを開始するプロジェクトを設定するとします：Page.Index>2。IRIS Powerscan では、新しいページ構造が使用されているため、この設定は Page.Index>4 に変更する必要があります。

- **識別**：識別とは、あるページをユニーク（唯一無二のもの）と特定することを意味します。
- **分類**：分類とは、ページをドキュメントとバッチの階層構造に分類する（区切る）ことを意味します。
- **表現式**：表現式は、リテラル値、変数、演算子、および関数で構成されます。
- **条件**：条件は、ブーリアン式で表現されます。ブーリアン式の値は、真または偽となります。条件は、ページの識別と分類の基準として使われます。

ヒント：詳しくは、[表現式の使い方](#)および[スクリプトの使い方](#)をご覧ください。

法定通知

IPS10.5_sjo_15012018_4

著作権

Copyrights ©2002-2018 I.R.I.S.無断複写・複製・転載を禁じます。

IRIS Powerscan のソフトウェア、オンラインヘルプシステム、および本出版物に関する著作権は、I.R.I.S.に帰属します。

本資料に記載される情報は、I.R.I.S.固有の財産です。その内容は、通告なく変更されることがありますが、I.R.I.S.に対して如何なる責務を課すものではありません。本資料に記載するソフトウェアは、本製品の使用条件を規定する使用許諾契約に基づいて提供されます。ソフトウェアの使用または複製は、同契約に従う場合にのみ、許諾されます。本書のいかなる部分も、I.R.I.S.の文書による事前承認なく、検索システムに複製、転送、保存、または他言語への翻訳を行ってはなりません。本マニュアルは、実演を行うために架空の名称を使用していますが、かかる名称と偶然一致する実在の人物、法人、組織に言及するものではありません。

商標

I.R.I.S.のロゴ、IRIS Powerscan および IRIS Powerscan Server、IRIS Xtract は、I.R.I.S.の商標です。

I.R.I.S.が本ユーザーマニュアルで参照する以下の技術、OCR（「光学式文字認識」）、原語技術、ICR（「知的文字認識」）技術、MICR（「磁気インキ文字読み取り」）技術、BCR（「バーコード読み取り」）技術、OMR（光学式マーク読み取り）技術、iHQC（「知的高品質圧縮」）技術、ドキュメント生成技術、クラウドへの送信技術、

および、その他参照するすべての製品は、それらを有する各企業の商標または登録商標です。

特許

IRIS Powerscan は、複数の特許で知財権を保護されています。詳細は、リリースノートを参照ください。

1. IRIS Powerscan について

1.1 IRIS Powerscan とは?

IRIS Powerscan は、文書の**大量スキャン**と**ドキュメント分類**の強力なソリューションです。IRIS Powerscan は、あらゆる高速スキャナや複合機から出力される膨大な量のドキュメント情報を処理することが可能です。

これらのドキュメントは、IRIS Powerscan により完全にインデックス化され、高効率圧縮され、さらに編集可能で且つテキストとして検索可能な様々な出力フォーマットに変換された後、DMS（文書管理システム）や ECM（エンタープライズコンテンツ管理）、或いはクラウドシステムなど既にお使いのシステムに送られます。言い換えれば、IRIS Powerscan は、紙文書を容易にアクセス可能な構造化情報に変えてくれます。

1.1.1 一般的な機能

高速スキャン

IRIS Powerscan は、コンピューター一台あたり、一日に最大 10,000 ページを読み取るスキャン能力があります。IRIS Powerscan 自体の走査処理速度は無限と言えるので、実際のスキャン速度は、お使いのスキャナのスキャン速度にのみ依存することになります。

IRIS Powerscan は、Twain 規格対応スキャナおよび各種複合機と互換性があります。IRIS Powerscan は、片面および両面スキャンに加え、マルチストリームスキャン（一度のスキャンでカラー画像と白黒画像を同時に生成する）機能も備えています。

IRIS Powerscan は、フォルダやクラウドからの読み込みスキャンにも対応します。

重要：ドキュメントを、Invoice Add-on（SPAP、Solution Package Accounts Payable）にスキャンする際は、スキャン設定の**強制片面オプション**を選択する必要があります。これは、Invoice モジュールでは奇数ページ以外は対応していないためです。

ページ ID およびドキュメント分類

IRIS Powerscan でスキャンされたすべての紙文書と電子ファイルは、**バッチ**、**ドキュメント**および**ページ**の論理構造に**分類**されます。これらの各要素について、異なるタイプを定義することができます。タイプごとの区別に、様々な分類基準を用いることが出来ます。例えば、白紙ページ、OCR ゾーン、バーコードゾーン、パッチコードといった区別です。実際に、IRIS Powerscan 10 で設定したそれぞれの条件は、タイプ別に区別する手法として使用することが可能です。

さらに、IRIS Powerscan には新たに**ページタイプを一意的に識別**できる機能も備わりました。この機能を使えば、必要とされるページに対してのみ（画像処理やデータ抽出、ページ削除といった）操作を施すことができます。一度 IRIS Powerscan によるページタイプの識別が完了すれば、ドキュメントをページタイプに従って、同じタイプのページごとに分解することが可能です。

画像処理

IRIS Powerscan の**画像処理**機能を使えば、スキャンされた画像を強化することができます。IRIS Powerscan では、画像の 2 値化、ノイズ除去、傾き補正、および回転が可能です。このような処理を通して強化されたスキャン画像は、認識精度を向上させると共に、より小さなサイズの、そして処理がより簡易なドキュメントを生成します。

IRIS Powerscan が画像処理を実行する際の操作手順は、もはや定型的なものではなく、ユーザーが定義できるものとなりました。また、これらの操作を特定のバッチ、ドキュメント、或いはページタイプを選んで適用することもできます。さらには、処理操作の対象をスキャンされたページの表面または裏面のみ、或いは両面ともといった選択も可能です。

データ抽出および文書のインデックス作成

IRIS Powerscan は、OCR（光学式文字認識）、BCR（バーコード認識）、PCR（パッチコード認識）、および ICR（インテリジェント文字認識）を通して、スキャンした文書からデータを取り出すことができる強力なデータ抽出機能を備えています。抽出されたデータは、ページ、ドキュメント、およびバッチのタイプを決める際の変数として、またはユーザー定義のインデックスフィールドに追加するなど、いくつかの用途があります。

IRIS Powerscan で作成したインデックスフィールドは、既存の DMS、ECM、またはクラウドシステムで使用中のインデックスフィールドにマッピングすることができます。こうしておけば、IRIS Powerscan は、完全インデックス化されたドキュメントをこれらのシステムにそのまま送出できます。

OCR 機能に関して、IRIS Powerscan は、最大 137 の言語の活字データを認識します。アメリカ大陸の言語および中央ヨーロッパ言語、ギリシャ語、トルコ語、キリル文字やバルト語を含むヨーロッパ言語は、すべてサポートされています。

IRIS Powerscan は、アジアの 4 か国語（日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語）に加え、ヘブライ語とアラビア語も認識します。

品質管理および検証

ドキュメントは、スキャンされると同時に、ナビゲーションモードで表示されます。このモードでは、スキャン後の操作に必要なあらゆるツールが利用可能です。これらのツールを使って、画像の再スキャンや回転、名前の変更の他、分割や統合、ドラッグ・アンド・ドロップやカット・アンド・ペースト（切り取りと張り付け）機能による再編成を行うことができます。

ナビゲーションモードでは、すべてのインデックスフィールドの検証と変更が可能です。

ドキュメントの書式設定と圧縮

IRIS Powerscan は、スキャンしたドキュメントを検索可能な PDF やワード（.docx 形式と .rtf 形式）をはじめ、様々な出力フォーマットに変換します。スキャンにより生成された PDF 形式のドキュメントは、I.R.I.S. が占有特許を有する圧縮技術、iHQC を使って高効率圧縮されます。

出力先

IRIS Powerscan は、処理済みのドキュメントをフォルダや電子メールのような標準的な出力先に送ります。また、Therefore、Microsoft SharePoint、IRISNext、IRISXtract、FileNet、CMIS、Google Drive、OneDrive、box、Dropbox、Evernote のような各種の DMS、ECM、そしてクラウドシステムにも出力可能です。IRISConnect を使えば、カスタマイズされた宛先を設定することもできます。

1.1.2 IRIS Powerscan のコンポーネント

IRIS Powerscan 10 は、次の 3 つのコンポーネントから構成されています。

- **IRIS Powerscan メインアプリケーション**：紙文書のバッチをスキャンし処理するプロジェクトを設定します。
- **IRIS Powerscan Agent**：新規バッチがユーザーのアクション待ち状態であることを知らせます。また、IRIS Powerscan を直ぐに開く時にも使用できます。このエージェントのアイコンは、デスクトップ上のシステムトレイの中に表示されます。
- **IRIS Powerscan Server**：複数のワークステーションの間でプロジェクトやバッチ、使用权、グループ、および権限を共有するためのサーバーです。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、**IRIS Powerscan Server** のアプリケーションを開き、**ファイル>ヘルプ**をクリックしてください。

注記：IRIS Powerscan で請求書の処理をしたい場合、**IRIS Powerscan Invoice Add-on** をインストールする必要があります。

1.2 IRIS Powerscan 10

以下に、IRIS Powerscan 10 に搭載された新機能と改良機能の概要をご覧ください。

- [全く新しいインターフェース](#)
- [新規ソフトウェアプロテクション](#)
- [改良版スキャン機能](#)
- [ユニークなページ ID](#)
- [改良版プロジェクトウィザード](#)
- [改良された画像処理](#)
- [改善された出力先](#)
- [IRIS Powerscan Server](#)

全く新しいインターフェース

IRIS Powerscan のインターフェースに対し徹底的な再検討が加えられました。新しいインターフェースは、次のパーツから構成されています。

- **アプリケーションメニュー**：このメニューから、プロジェクトを作成したり、開いたり、保存したりといったプロジェクトの操作に加え、一般設定の適用も行います。
- **ナビゲーションモード**：このモードでは、ドキュメントのスキャン、検証、処理、基本設定、およびドキュメント間の移動を行います。
- **デザイナーモード**：このモードでは、プロジェクトの上級設定や完全なカスタマイズを行います。

[IRIS Powerscan インターフェース](#)も参照してください。

新規ソフトウェアプロテクション

IRIS Powerscan 10 は、SafeNet のソフトウェアキーによって保護されています。もはやドングル機器によるプロテクションではありません。

改良版スキャン機能

IRIS Powerscan 10 を使えば、ドキュメントをスキャナで読み取るだけでなく、フォルダやクラウドからスキャンすることもできます。

ユニークなページ ID

個々のページを一枚ごとにユニークなものとして識別することが可能になりました。この機能を使えば、必要とされるページに対してのみ（画像処理やデータ抽出などの）操作を施すことができます。その結果、従来の IRIS Powerscan のバージョンのように、各ページに操作を行う必要がなくなりました。

ページ ID は、ドキュメントの区切りにも使用できません。その場合、ページ ID は、対応する文書タイプの検索に使用されます。

改良されたプロジェクト・テンプレート

IRIS Powerscan 10 には、使用者の要件に応じてプロジェクトをカスタマイズするために事前に定義する必要のあったクイックプロジェクトは、もはや存在しません。その代り、正に必要とするプロジェクトを作成できる便利なプロジェクト・テンプレートが用意されています。

- **ウィザード**は、その標準的なテンプレートです。
- **自動検出機能**は、スキャンしたドキュメント上で区切りとして使用できる要素の検出を行います。典型的な例は、白紙のページやバーコードなどです。

改良された画像処理

IRIS Powerscan 10 は、画像の 2 値化や、ノイズ除去、傾き補正、自動回転、暗境界除去など、強力な画像処理機能を備えています。特に新しくなったのは、画像処理モジュールを、違うページタイプなど異なるレベルで起動することが可能になった点です。さらに、それぞれの画像処理モジュールの中で、複数の画像処理操作を起動し、ユーザーが決めた順番にそれらの処理を実行できるようになりました。このように、IRIS Powerscan が実行する複数の異なる画像処理操作の順番は、もはや、決まった順序にする必要がなくなりました。

改善された出力先

IRIS Powerscan 10 は、ドキュメントを電子メール、フォルダ、プリンタに出力可能で、その他、Therefore、Microsoft SharePoint、IRISNext、IRISXtract、FileNet、CMIS、Google Drive、box、OneDrive、Dropbox、そして Evernote などのアプリケーションにもエクスポートできます。IRISConnect を使えば、ドキュメントの出力先を自由にカスタマイズ設定できます。

IRIS Powerscan Server

IRIS Powerscan Server は、複数のワークステーションの間でプロジェクトやバッチ、使用权、グループ、および権限を共有するためのサーバーです。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、**IRIS Powerscan Server** のアプリケーションを開き、**ファイル>ヘルプ** をクリックしてください。

1.3 IRIS Powerscan 10.2

以下に、IRIS Powerscan 10.2 に搭載された、新機能と改良機能の概要をご覧ください。

- 新規の請求書キャプチャモジュール
- 新規インストーラー
- XMail Fetcher からスキャンする
- スキャンした画像の分割と統合
- データ抽出ゾーンのプロップのフィルタリング条件
- バッチの再送信機能
- IRIS Powerscan Server
- 縮小操作
- データ抽出ゾーンウィザード
- 設定ペインのパラメータセクション
- ネットワークの認証情報で保護されたフォルダからのスキャン、または当該フォルダへのエクスポートの可能性
- 内臓の（パターン）マッチ演算子
- PDF セキュリティオプション
- 画像処理とデータ抽出操作の上級条件
- 改良版自動検出ウィザード
- 改良版操作ウィザード
- 改良版 QR コード認識
- 改良版ドキュメント作成
- IRIS Xtract 接続用改良コネクタ
- 改良版 ODBC データソース
- 更新済み資料

新機能に関する詳細は、リリースノートをご覧ください。

1.4 IRIS Powerscan 10.2.2

以下に、IRIS Powerscan 10.2.2 に搭載された、新機能と改良機能の概要をご覧ください。

- ドライバ ISIS のサポート
- 接続プロジェクト
- IRISXtract を使った分割と統合
- テキストセクタのダブルクリック
- 新規ゾーンプライオリティ： MinimumLineHeight
- PDF/A iHQC 出力
- Button Manager アプリケーション
- Data Editor アプリケーション
- Form Editor アプリケーション
- 新規操作： カウンターの設定
- 新規の電子メールオプション： Smtplib タイムアウト
- 印刷メニューの新規拡大縮小オプション
- IRIS Powerscan から IRISXtract へのアタッチメントの転送
- Canon Barcode Module
- 新規変数： Batch.IsExported および Document.IsExported
- 新規バーコード： AustralianPost
- 新規の配置オプション： 折り込みと分割 (ISP9)

新機能に関する詳細は、リリースノートをご覧ください。

1.5 IRIS Powerscan 10.3

以下に、IRIS Powerscan 10.3 に搭載された、新機能と改良機能の概要をご覧ください。

新機能

- アンカー点の検出
- チェックマークの検出
- Debookletting
- Document Generator ツール
- パンチ穴除去
- ディザー除去
- 画像スタンプ
- 新規の出力フォーマット
 - 画像のみの PDF iHQC
 - PDF/A iHQC
 - PDF/A-1a、PDF/A-1b、PDF/A-2a、PDF/A-2b
- 認識精度の正確度レベル
- 新規パラメータ
 - StrictIndexValidation
 - AllowSplitMergeInViewer
 - ScanAfterValidation

改善点

- バックグラウンド処理と中央管理を改善
- ゾーンタイプの定義を改善
- iDRS 15 の統合
- バーコードのサポートを拡張
- 表現式の評価法を改善
- マスクシンタックスの改善

新機能に関する詳細は、リリースノートをご覧ください。

1.6 IRIS Powerscan 10.4

以下に、IRIS Powerscan 10.4 に搭載された、新機能と改良機能の概要をご覧ください。

- [アクティベーションの機能向上](#)
- [ドッカルペイン](#)
- [ページ操作の機能向上](#)
- [インデックス作成機能の向上](#)
- [請求書サポート機能の向上](#)
- [進行状況バー](#)
- [新しいショートカット](#)
- [ナビゲーションエクスプローラにおける、すべて展開/すべて折り畳む](#)
- [面の入れ替え機能の向上](#)
- [分割および統合機能の向上](#)
- [各フィールドに基づいた、バッチおよびドキュメントの動的な名前変更](#)

アクティベーションの機能向上

アクティベーション手順が改善されました。アクティベーション・コードがシリアル番号に対応するようになり、**ファイル > 情報 > 一般 > シリアル番号**で確認できます。

各アドオンのアクティベーション・コードも、**ファイル > 情報 > 機能**で簡単に確認できます。カーソルをアドオンに合わせると、アクティベーション・コードが表示されます。すべてのアクティベーション・コードをクリップボードにコピーするには、**クリップボードにコピー** コピーをクリックします。これで、例えば電子メールに張り付けることができます。

ドッカルペイン

ナビゲーションエクスプローラとフィールドペインがドッカルになりました。これらをメインインターフェースから切り離して、フロート可能ペインとして異なる位置に移動させることができます。

ページ操作の機能向上

IRIS Powerscan 10.4 では、1 ページが、**用紙の片面**と同等のものとして、または IRIS Powerscan にインポートされた **1 つの画像**と同等のものとしてスキャンされます。1 ページは表面または裏面のいずれかです。

1 ページには、白黒、カラー、およびグレースケールなど、複数のストリームが含まれることがあります。

注意：IRIS Powerscan 10 の以前のバージョンでは、1 ページは、スキャンされた**用紙**と同等のものでした。即ち、表面と裏面の双方の面を含まれていました。

これは、Page.Index または Page.Count 変数がドキュメントまたはバッチを分けるために使用される両面スキャンプロジェクトを意味します。2 ページごとに新規のドキュメントを開始するプロジェクトを設定するとします：
Page.Index>2。IRIS Powerscan では、新しいページ構造が使用されているため、この設定は Page.Index>4 に変更する必要があります。

インデックス作成機能の向上

インデックス作成機能は、いくつかの点で改善されました。

- バッチおよびドキュメントレベルでのインデックスフィールドの作成に加え、ページタイプレベルでのインデックスフィールドが作成可能になりました。
- 異なるバッチ、ドキュメント、およびページのインデックスが、フィールドペインで同時に表示できます。
- new OnDownload() イベントを使用すれば、出力インデックスファイルにインデックスの名前を含めることができます。

請求書サポート機能の向上

請求書サポート機能は、いくつかの点で改善されました。

- WebVerify にローカライズされたインターフェースが備わりました。
- プロセスで WebVerify をスキップし、IRIS Powerscan 内部でインデックスフィールドを検証できます。
- 国パックを利用して、特定の国からの請求書を処理することが可能です。
- IRIS Powerscan の管理セクションからのバッチの削除では、WebVerify のジョブリストからもそれらのバッチを削除できるようになりました。

進行状況バー

バッチの処理中、進行状況バーで、エクスポートの進行状況が表示されます。

進行状況バーは、Invoice プロジェクトでバッチを読み込む場合にも表示されます。

新しいショートカット

キーボードの 1、2、4、および 8 のキーで、ビューアーに 1、2、4、および 8 ページがそれぞれ表示されます。表示を変更するには、ビューアー内部のページを選択し、これらのキーのいずれかを押します。

ナビゲーションエクスプローラにおける、すべて展開/すべて折り畳む

すべて展開およびすべて折り畳むコマンドが、ナビゲーションエクスプローラのコンテキストメニューに追加されました。これらのコマンドにより、ナビゲーションエクスプローラで、異なる要素の概要が把握しやすくなりました。

面の入れ替え機能の向上

面の入れ替えコマンドを使用して、ページを交換して面を裏返すことができます。ページの位置を交換するには、ページの対の番号を選択する必要があります。

例：1~4 ページを選択する場合、1 ページ目と 2 ページ目の位置が交換され、3 ページ目と 4 ページ目の位置が交換されます。これらのページの面も入れ替わります。つまり、表面が裏面になり、裏面が表面になります。

注記：5 ページ分選択した場合、5 ページ目の位置は変わりませんが、面は裏返されます。

分割および統合機能の向上

新しいパラメータの **ResetFieldsOnSplit** および **ResetTarget on Merge** を使用すれば、ドキュメントを分割および結合する場合の、IRIS Powerscan の標準の動作を変更できます。

標準設定では、ドキュメントが 2 つに分割される場合、新規ドキュメントのインデックスはリセットされます。また、ドキュメントの結合時の標準設定では、結合に先立って、前または次のドキュメントのインデックスが最初にリセットされます。

この動作を変更するには、以下の手順に従います。

- **ResetFieldsOnSplit** パラメータを「No」に設定します。この場合、既存フィールドの値が、新規ドキュメントにコピーされます。
- **ResetTargetOnMerge** パラメータを「No」に設定します。この場合、ターゲットドキュメントのフィールドは、結合前にはリセットされません。

各フィールドに基づいた、バッチおよびドキュメントの動的な名前変更

変数がデータソースの場合、変数または \$() 依存機能を使用して、バッチおよびドキュメントの名前を動的に変更できます。

例：バッチレベルで、名前付けフィールドに、?(IsNullOrEmpty(Batch.Name),"", Batch.Name + " " + Batch.FirstName) と入力します。

これは、この名前付けの式が、Batch.Name および Batch.FirstName の 2 つのフィールドに依存することを意味します。言い換えれば、Batch.Name または Batch.FirstName が手動で変更された直後に、名前付けの式は再評価される必要があるということです。

バッチ関連のフィールドのみがバッチ名の変更に使用できることと、ドキュメント関連のフィールドのみがドキュメント名の変更に使用できることに注意してください。

1.7 IRIS Powerscan 10.5

カスタム画像処理操作

カスタム画像処理操作は、ナビゲーションモードの操作タブを介して特定の画像に適用させることができます。こうすれば、アクティビティのスキャン後に、特定の画像で画像処理操作が求められる際に、バッチ全体を再スキャンする必要がありません。

[9.1 画像処理](#)を参照してください。

新規操作： バッチ識別、バッチの名前付け、バッチの区切り、ドキュメントのネーミング、文書区切り、ドキュメント識別
これらの新規操作で、バッチやドキュメントに対する操作のカスタムネーミング、識別、区切りを設定することができます。条件に基づいて、バッチとドキュメントの名前を変更したり、バッチとドキュメントを区切ったり、新しいタイプに変更したりすることができます。

9.を参照操作 > [バッチの名前付け](#)、[バッチの区切り](#)、[バッチ識別](#)、[ドキュメントのネーミング](#)、[文書区切り](#)ならびに[ドキュメント識別](#)を参照してください。

画像フィルタリングオプション

表示タブのチェックツールを使用して画像フィルタリングを適用し、画像ごとに表示およびエクスポートする必要があるカラーストリーム（カラー、グレースケールまたは白黒）を指定することができます。

5.2 ナビゲーションモード > メインツールバー > [表示タブ](#)を参照してください。

エラーメッセージ、報告中、トレース機能の改良

IRIS Powerscan が使用不能になった場合、詳細なエラーメッセージが表示されます。

[5.1 アプリケーションメニュー](#) > [報告中](#)を参照してください。

警告システム

プロジェクトやバッチでエラーが発生した際、メールを自動的に発信できます。すべての IRIS Powerscan アクティビティが、サービスとして実行するように設定されていると、これは非常に便利です。

[5.1 アプリケーションメニュー](#) > [報告中](#)を参照してください。

コネクタのアクティベーションウィザード

専門的なコネクタを持つ IRIS Powerscan 10.5 バージョンを入手している場合、IRIS Powerscan を起動すると、コネクタをアクティベートするよう指示されます。専門的なコネクタは、Toolbox、CMIS、ODBC、FTP、SharePoint、Therefore。

[2.4 IRIS Powerscan のアクティベーション](#)を参照してください。

プロジェクトのエクスポートおよびインポートの改良

IRIS Powerscan 10.5 では、一度に複数のプロジェクトをエクスポート、インポート、コピー/貼り付けすることが可能です。Ctrl キーを押しながら必要なプロジェクトをクリックし、必要とされる操作を行うだけです。

注記： 一度に複数のプロジェクトをエクスポートする場合、エクスポートする.zip ファイルには最初に選択したプロジェクトの名前が付けられます。

[4.プロジェクトを作成する](#)を参照してください。

新規ゾーンタイプ：アンカーポイント（形状）およびアンカーポイント（テキスト）

IRIS Powerscan 10.5 では、テキストを含むアンカーポイントとテキストを含まないアンカーポイントを区別します。テキストを含むアンカーポイントを正しく認識するには、対応するゾーンタイプを選択する必要があります。

9.2 データ抽出 > [ゾーンのプロパティを定義する](#)を参照してください。

XMailFetcher から、スキャンしたファイルを削除する

IRIS Powerscan 10.5 は、処理済みメールの信号ファイルが、「.scanned」という拡張子を取得すると、スキャンされたファイルを、XMailFetcher から削除することができます。

[8.4 XMailFetcher からスキャンする](#)を参照してください。

既存の出力ファイルに追加

PDF、PDF-iHQC、DOCX、XLSX、RTF または CSV ファイルを出力フォルダにエクスポートしたり、同じ名前のファイルが存在する場合、新しいコンテンツを既存のファイルに追加したりすることも可能です。

[14.2 出力先を選択する](#)を参照してください。

カスタムエラーメッセージ

IRIS Powerscan 10.5 では、フィールドにカスタムエラーメッセージを追加することができます。フィールドの条件が満たされていない場合、カスタムエラーメッセージが表示されます。

[5.3.5.10 パラメータ](#)を参照してください。

新規データソースタイプ：Excel

IRIS Powerscan では、Excel ファイルをデータソースとして取り扱えるようになりました。

[13.5 データソースを使用する](#)を参照してください。

新規出力タイプ：インデックス (.xlsx)

IRIS Powerscan では、Indexes (.xlsx) を出力ファイルとして取り扱えるようになりました。

[14.1 出力フォーマットを選択する](#)を参照してください。

1.8 IRIS Powerscan Add-ons

IRIS Powerscan 10.4 では、次のアドオンが利用可能です。

- [iHQC Add-on](#)
- [IRIS Fingerprint Add-on](#)
- [ISIS Driver Add-on](#)
- [Central Management Add-on](#)
- [Background Processing Add-on](#)
- [IRIS Powerscan](#)
- [Canon Barcode Module](#) (Canon ドライバと共にインストールされる)

IRIS Powerscan 10.5 では、次のアドオンが利用可能です。

- [iHQC Add-on](#) (ボリュームベース)
- [IRIS Powerscan](#) (ボリュームベース)

1.8.1 iHQC Add-on

iHQC は、**intelligent High-Quality Compression (知的高品質圧縮)** の略で、I.R.I.S. が独占所有権を有する圧縮技術です。iHQC は、一般的なドキュメントの画像を、画像品質を劣化させることなく、高度に圧縮されたカラー（または白黒）の PDF や XPS 形式のドキュメントに変換するために開発された圧縮技術で、ドキュメント共有を簡便にし、安価なデータ保存を実現します。

ボリュームライセンス

iHQC add-on には、数種類のボリュームライセンスが用意されています。どのアドオンを購入すべきかは、一年間に処理したいページ数が目安となります。

ボリュームライセンスは、毎年更新可能です。ライセンスは、最初の使用日から一年経つと自動的にリセットされます。

iHQC のライセンスをお求めの場合は、irispowerscan@iriscorporate.com のサイトから I.R.I.S. までご連絡ください。

iHQC のレベル

iHQC には、PDF のドキュメント用に四つのレベル、XPS のドキュメント用に一つのレベルがあります。

各レベルで、画質スライダを使用してサイズより画質を、またはその逆を、重視することができます。

レベル 1 は、標準装備ですので、アドオンは必要ありません。

利点

- 出力される画像のサイズが極めて小さいので、ディスクやサーバーの容量を大幅に節約します。

1.8.2 IRISFingerprint Add-on

(このアドオンは、IRIS Powerscan 10.5 の Corporate、Business、Enterprise、および Production のバージョンでは、標準設定で有効になっています。)

IRIS Powerscan は、Fingerprint add-on を追加することで、スキャンした画像のレイアウトを調べることが可能になります。レイアウトが解れば、ページを個々に識別できます。一度 IRIS Powerscan によるページタイプの識別が完了すれば、ドキュメントまたはバッチをページタイプに従って、同じタイプのページごとに区分けすることが可能です。

注記： Fingerprint の検出を使うには、IRIS Powerscan に Fingerprint の検出に使用する画像のサンプルを入力しなければなりません。

利点

- バッチやドキュメントの区分けが、非常に高速。
- セットアップが容易。
- バーコード、パッチコード、或いは OCR ゾーンに基づく区切りのページが不要。
- 品質の悪い OCR ドキュメントにも有効。

限界

- Fingerprint の認識では、幾何学的要素が一定していなければなりません。故に、手書き文字や、分離不能または重複アイテムの認識には不向きです。

1.8.3 ISISDriver Add-on

(このアドオンは、IRIS Powerscan 10.5 の全バージョンで、標準設定で有効になっています。)

IRIS Powerscan は、本来、TWAIN と TWAIN-VRS をサポートしています。しかし、**ISISDriver add-on** があれば、IRIS Powerscan、**ISIS スキャナ**を使うこともできます。

ISIS は、**Image and Scanner Interface Specification** (画像とスキャナインターフェースの仕様) の意味です。ISIS ドライバは、400 種類を超える ISIS 互換のスキャナをサポートします。

利点

TWAIN ドライバと比較した際の ISIS ドライバの主な利点は、次の通りです。

- ISIS ドライバは、最も堅固なスキャン機能をサポートする。
- ドライバのインターフェースは、スキャナごとに一貫性がある。この特長は、TWAIN ドライバには該当しない。
- ISIS ドライバは、スキャナのハードウェア性能を最適化し、スキャナが常に定格速度で動作することを可能にする。
- ISIS ドライバは、すべての ISIS スキャナに対して安定した相互作用を与える、そして逆もまた然りである。

1.8.4 Central Management Add-on

(このアドオンは、IRIS Powerscan 10.5 の Professional Production のバージョンでは、標準設定で有効になっています。)

Central Management Add-on を使用すると、IRIS Powerscan を IRIS Powerscan Server に接続できます。

IRIS Powerscan Server を導入することで、管理者は、同一の LAN ネットワーク上に IRIS Powerscan Server と複数の IRIS Powerscan ワークステーションやクライアントを結ぶ**クライアント・サーバー・アーキテクチャー**を構築することができます。こうすることで、IRIS Powerscan の**キャプチャ、検証、エクスポート**といった様々なアクティビティを異なるクライアントの間で分担し、全体のワークフロープロセスを確立できます。ユーザーの何人かはスキャンを行う一方、他のユーザーは、インデックスの検証やエクスポートを担当します。

IRIS Powerscan Client として使用したいコンピュータに IRIS Powerscan アプリケーションのインスタンスをインストールし、**Central Management Add-on** をアクティベーションする必要があることに注意してください。

利点

各 IRIS Powerscan ステーションを個別に設定する必要がない。IRIS Powerscan Server によって、各スキャンングステーションを自動的に同期させることができる。

詳細については、**IRIS Powerscan Server** のドキュメントをご覧ください。

1.8.5 Background Processing Add-on

(このアドオンは、IRIS Powerscan 10 の Corporate、Business、Enterprise、および Production のバージョンでは、標準設定で有効になっています。)

Background Processing Add-on を使用すると、IRIS Powerscan ではサービスによって、つまりバックグラウンドで、エクスポートを行うことが可能になります。こうして、今のバッチ処理が終わるのを待ってから、次のバッチのスキャンを始める必要はなくなりました。

注記 : Background Processing Add-on は、サービスによるキャプチャや検証を行うためには必須ではありません。

[IRIS Powerscan 10 のドキュメント処理](#)も参照してください。

利点

- スキャナの生産性の向上。

1.8.6 IRIS Powerscan

IRIS Powerscan のための Invoice Add-on を使用すると、IRIS Powerscan で請求書进行处理できます。
詳細については、**IRIS Powerscan のための Invoice Add-on** のドキュメントをご覧ください。

1.8.7 Canon Barcode Module

Canon Barcode Module (III) は、ISIS と TWAIN のドライバにバーコード読み取り機能を追加するアドオン・ソフトウェア・プログラムです。

利点

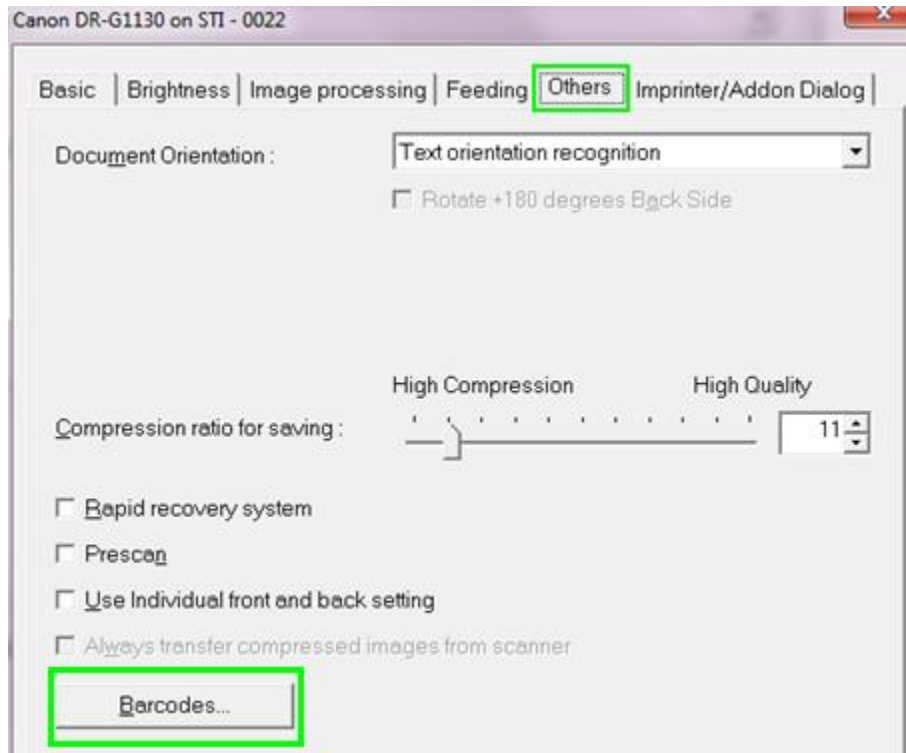
このオプションのバーコードソフトウェアは、インデックス作成、バッチ区切りなど、多くのワークフロープロセスを自動化することができます。

アクティベーション

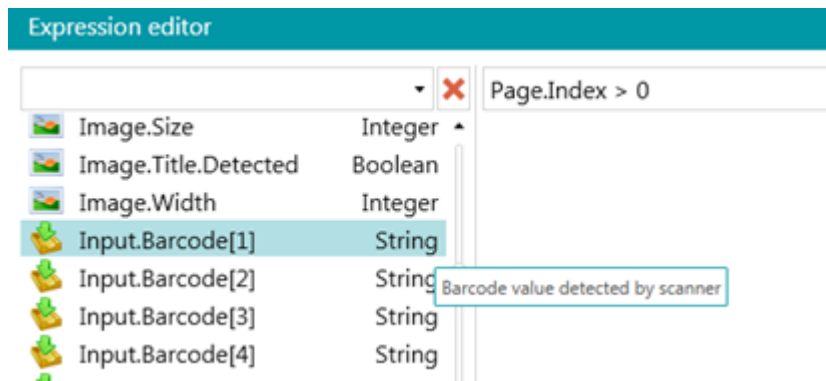
- このバーコードモジュールを入手するには、最寄りの Canon 代理店にご連絡ください。
- 同モジュールのインストールは、対応する **setup.exe** ファイルを実行します。

設定

- お持ちの ISIS/Twain スキャン機能を開きます。
- **その他の**タブをクリックします。
- **バーコード**のボタンをクリックします。



- 次に、**バーコード検出を有効にする**を選択し、**QR**、**PDF417** および **Data Matrix** といったモジュールが検出すべきバーコードのタイプを選びます。
- IRIS Powerscan Expression Editor では、新たに四つの対応する変数が利用可能になりました。これは、モジュールが1ページあたり、最大四つのバーコードの読み取りができることを意味します。



- これらの新しい変数は、他の変数同様、[表現式](#)の中で使用可能です。

2.インストールとアクティベーション

2.1 システムの要件

システムの最低要件

- 2.2 GHz プロセッサ（32 ビットまたは 64 ビット CPU）。
- 4 GB RAM。
- 5 GB のディスク空き容量。

システムの推奨要件

- Intel i5、i7 または同等のプロセッサ 2.6 GHz 以上（64 ビット）。2 コア以上。
- 8 GB RAM
- 10 GB のディスク空き容量。できれば、SSD ドライブ。
- インターネット接続

サーバーの最低限のシステム要件

- 8 GB RAM
- 10 GB のディスク空き容量。できれば、SSD ドライブ。
- 4 プロセッサ以上。

IRIS Powerscan は、利用可能なリソースをすべて使用します。リソースが多いほど、処理は速くなります。

- SSD ドライブを強くお勧めします。

サポートしているオペレーティングシステム

- Windows 7（32 および 64 ビット）
- Windows 8（32 および 64 ビット）
- Windows 8.1（32 および 64 ビット）** 推奨
- Windows 10（32 および 64 ビット）** 推奨
- Windows Server 2012 R2（64 ビット）
- Windows Server 2016（64 ビット）** 推奨

仮想マシンに関する重要事項： ノート型パソコンまたは小型コンピュータ上で稼働している仮想マシンは利用できない場合があります。ご使用の仮想マシンが最新の Windows アップデートに更新されていない場合、正しく認識されないスキャナがあり、IRIS Powerscan のインストールが失敗する可能性があります。また、仮想マシンには少なくとも 4 つの仮想コア（または vCPU）が必要となります。

ご使用の仮想マシンに vSocket および vCore がある場合、必要な vCPU を得られるよう、これらを増やす必要があります。

2.2 サポートされるスキャナ

- IRIS Powerscan は、事実上すべての Twain 仕様の Canon 製、および Kodak 製スキャナと互換性があります。また、HP 製スキャナも、ほとんどがサポートされています。
- IRIS Powerscan は、**ISIS ドライバのアドオン**を追加することにより、ISIS 仕様のスキャナとも組み合わせて使用できます。
- IRIS Powerscan は、複合機とも互換です。

注記： Twain 仕様のスキャナを使用する際は、最低でも **Twain バージョン 1.9**、またはそれ以上の機種が必要です。

2.3 IRIS Powerscan

Important : 以前のバージョンの IRIS Powerscan 10 からアップグレードする場合、インストールおよびアクティベーションガイドの指示に従います。

- IRIS Powerscan パッケージを、I.R.I.S. FTP、または www.irislink.com/downloadcenterpro からダウンロードします。
- **IRIS Powerscan 10.msi** を実行します。

注記 :

複数のワークステーションの間でプロジェクトやバッチ、使用权、グループ、および権限を共有したい場合には、IRIS Powerscan Server をインストールするための **IRIS Powerscan Server.msi** も実行します。
Central Management add-on も同様のインストールが必要であることにご留意ください。

IRIS Powerscan で請求書の処理をしたい場合、IRIS Powerscan のための Invoice Add-on をインストールする必要があります。インストールの方法については、**IRIS Powerscan のための Invoice Add-on** のドキュメントを別途ご覧ください。

重要 : IRIS Powerscan for Invoices はスタンドアロンソリューションです。クライアント/サーバーアーキテクチャでは使用できません。

- **次へ**をクリックし、画面上の指示に従います。
- **完了**をクリックし、インストールを終了します。



2.4 IRIS Powerscan

重要: IRIS Powerscan をアクティベーションする前に、コンピュータ上のウイルス対策ソフトウェアが無効になっていることを確かめてください。アクティベーションが完了したら、ウイルス対策ソフトウェアを再度有効にします。

- デスクトップ上にある IRIS Powerscan のショートカットをダブルクリックします。



- **アクティベーション・コード**を入力します。
アクティベーション・コードは、電子メールで予め送られています。もし、アクティベーション・コードをまだ受け取っていない場合、activation@iriscorporate.com のサイトから I.R.I.S. にご連絡ください。
- **アクティベーションする**をクリックします。
この時、インターネットへのアクセスが必要となります。もし、インターネットへアクセスできない場合には、手動アクティベーションを行ってください。

A screenshot of the 'Activation' dialog box. The title bar says 'アクティベーション' with a close button. The main area has 'アクティベーション' at the top left. On the right, there is a button labeled '手動アクティベーション'. Below that, there is a text input field for 'アクティベーション・コード' and a button labeled 'アクティベーションする'. At the bottom right, there is an 'OK' button.

- コードが許可されたら、**OK** をクリックします。

コネクタのアクティベーション

専門的なコネクタを持つ IRIS Powerscan 10.5 バージョンを入手している場合、選択したコネクタを選ぶよう指示されます。

注意:これが最後の選択となります。

A screenshot of the 'Select connector once' dialog box. The title bar says 'Select connector once' with a close button. On the left, there is a sidebar with 'Step 1 Connector' and 'Step 2'. The main area shows a list of connectors with blue puzzle-piece icons: CMIS, ODBC, FTP, SharePoint, Therefore, FileNet, iManage Work, ContentServer, and Toolbox. At the bottom, there are buttons for 'Back', 'Next', 'Finish', and 'Cancel'.

- 希望するコネクタを選択します。
- 次に、**Next (次へ)**および**完了**をクリックします。

注記： 誤って、間違ったコネクタを選択した場合、**方法ガイドのリセットコードの取得方法**のトピックを参照してください。

手動アクティベーション

- IRIS Powerscan をインストールしようとしているコンピュータがインターネットへアクセスできない場合、**手動アクティベーション**をクリックします。
- **コンピュータ ID** と電子メールで送られてきた**アクティベーション・コード**をインターネットアクセスが可能なコンピュータにコピーします。
- これらの両方のコードを activation@iriscorporate.com に送ります。すると、**ライセンスコード**が送られて来ます。

アクティベーション

アクティベーション 自動アクティベーション

コンピュータ ID *15PB2VZW6PGGPPV

ライセンスコード アクティベーションする

製品を手動でアクティベーションするには、以下宛に、アクティベーションコードとコンピュータ ID を送信してください: activation@iriscorporate.com. すると、製品のアクティベーションに必要なライセンス情報が送られてきます。

OK

- その**ライセンスコード**を入力し、**アクティベーションする**をクリックします。
- コードが許可されたら、**OK** をクリックします。

注記： IRIS Powerscan がアクティベーションされると、アプリケーションメニューに該当のシリアル番号が表示されます。**ファイル > 情報 > 一般**の順にクリックします。



2.5 Add-ons のアクティベーション

IRIS Powerscan 10 では、複数のアドオンが利用可能です。

重要： IRIS Powerscan の機能とアドオンをアクティベーションする前に、コンピュータ上のウイルス対策ソフトウェアが無効になっていることを確かめてください。アクティベーションが完了したら、ウイルス対策ソフトウェアを再度有効にします。

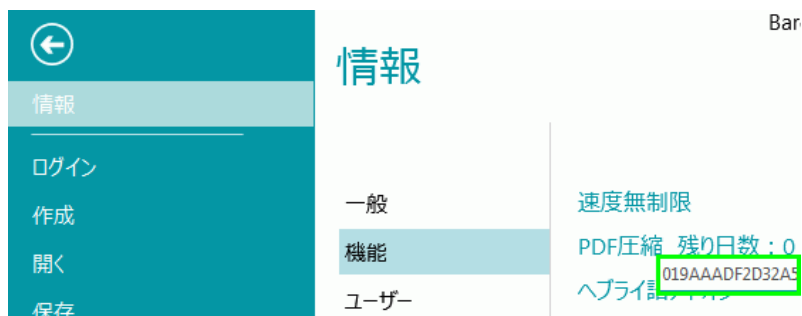
お持ちのアドオンのアクティベーションは、次の要領で行います。

- **ファイル > 情報 > 機能**の順にクリックします。
既に入手している機能が一覧表示されます。
- **アクティベーションする**をクリックします。
- **アクティベーション・コード**を入力して、アクティベーションします。
ヒント：アクティベーション・コードは、I.R.I.S. から電子メールで送られてきたパッキングスリップに記載されています。

手動アクティベーション

- IRIS Powerscan をインストールしようとしているコンピュータがインターネットへアクセスできない場合、**手動アクティベーション**をクリックします。
- **コンピュータ ID** と電子メールで送られてきた**アクティベーション・コード**をインターネットアクセスが可能なコンピュータにコピーします。
- これらの両方のコードを activation@iriscorporate.com に送ります。
すると、**ライセンスコード**が送られて来ます。
- その**ライセンスコード**を入力し、**アクティベーションする**をクリックします。
- コードが許可されたら、**OK** をクリックします。

注記： アドオンがアクティベーションされている場合、アプリケーションメニューのアクティベーション・コードを取り出すことができます。**ファイル > 情報 > 機能**の順にクリックします。次に、カーソルをアドオンに合わせてアクティベーション・コードを表示します。



2.6 ウィルス対策ソフトウェアを設定する

お使いの PC にインストールされたウィルス対策ソフトウェアにより、ハードディスクに書き込まれているすべてのファイルが精査されます。これにより、IRIS Powerscan でスキャン中の画像の書き込み速度が極端に遅くなるか、IRIS Powerscan が単純に動作しなくなることがあります。このため、目標の製造レベルに達しない可能性があります。

このような問題を回避するため、ウィルス対策ソフトウェアを正しく設定し、画像を配置中のフォルダのリストをプロセスから除外することが必要です。この設定は、使用するウィルス対策ソフトウェアにより異なります。ウィルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照して、必要な設定値を定義してください。

IRIS Powerscan では、除外対象のフォルダは以下の通りです。

- %appdata%\IPSx
- %programdata%\IPSx
- C:\Program Files (x86)\IRIS Powerscan 10

除外対象の実行ファイルは以下の通りです。

- C:\Program Files (x86)\IRIS Powerscan 10\IPSxConsole.exe
- C:\Program Files (x86)\IRIS Powerscan 10\IPSxService.exe
- C:\Program Files (x86)\IRIS Powerscan 10\IRIS Powerscan.exe

Watched Folder 機能を使用している場合、すべての監視フォルダを除外リストに追加する必要があります。

2.7 IRIS Powerscan

- IRIS Powerscan を終了します。
- コントロールパネル > プログラムと機能へ移動します。
- リストの中から **IRIS Powerscan** を選択し、**アンインストール**をクリックします。
以後は画面上の指示に従ってください。

2.8 プロダクトサポート

プロダクトサポートを受けるには、次の URL から弊社のウェブサイトへお越しください：www.irislink.com/support
または <https://supportcenter.iriscorporate.com>

3.はじめに

3.1 IRIS Powerscan

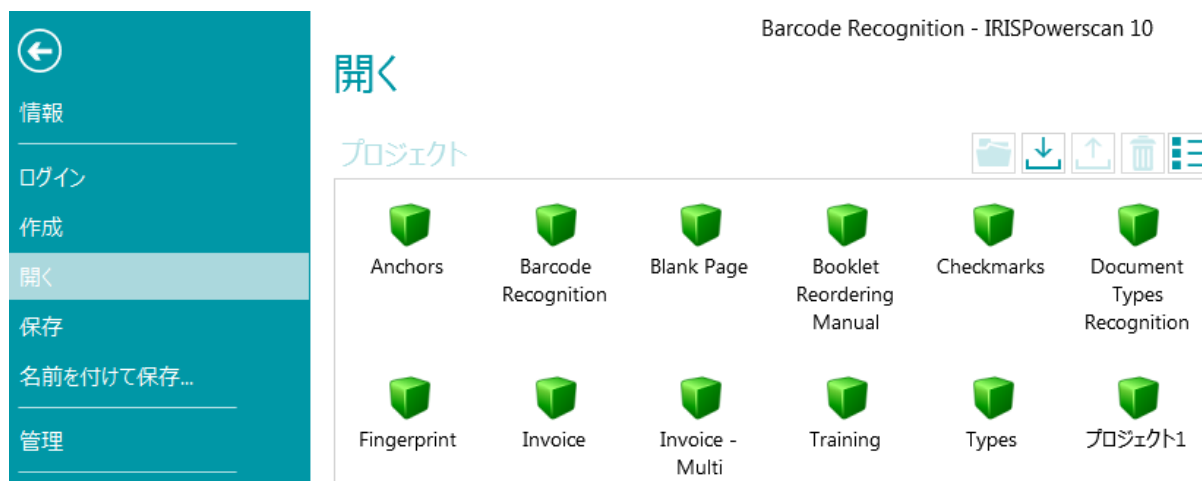
- デスクトップ上にある IRIS Powerscan のショートカットをダブルクリックします。



ヒント: システムトレイの中にある **IRIS Powerscan Agent** を使って、IRIS Powerscan を開始することも可能です。また、このツールは、パッチがユーザーのアクション待ち状態であることも警告してくれます。



- IRIS Powerscan を初めて起動すると、デモ用プロジェクトのいずれかを開くよう求められます。



重要: IRIS Powerscan 10 に慣れるには、まずこの **デモ用プロジェクト** を試しに使ってみることをお勧めします。

3.2 デモ用プロジェクトを試用する

IRIS Powerscan 10 に習熟するための最も易しい方法は、**デモ用プロジェクト**を試しに使うことです。デモ用プロジェクトは、サンプルフォルダから読みだした画像をスキャンし、ドキュメントを分類する各種の手法を例示するように、IRIS Powerscan 内で事前に設定されているプロジェクトです。

それぞれのデモ用プロジェクトには、サンプル画像から自動的に抽出したインデックスフィールドの例がいくつか含まれています。

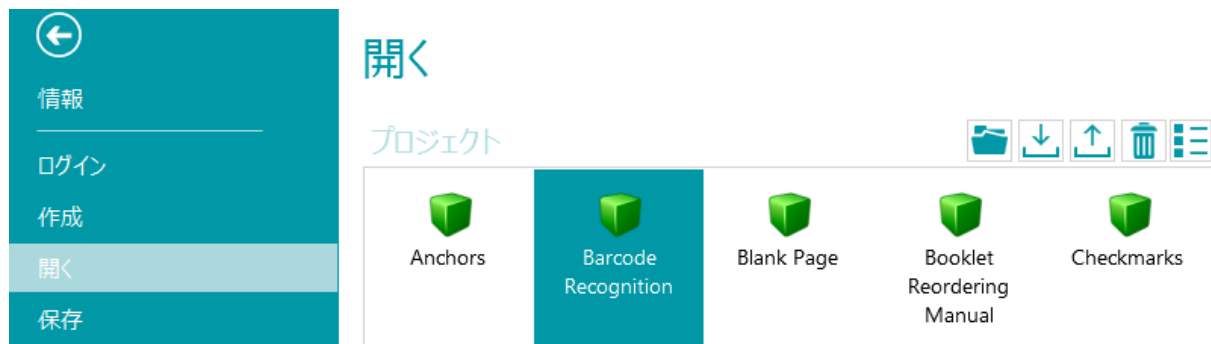
重要： デモ用プロジェクトは、IRIS Powerscan を使ってどのようなことができるかを理解いただくための単なる例にすぎません。故に、これらのデモ用プロジェクトは、実際のプロジェクトの設定を行う際の出発点として使用することを意図したものではありません。その代り、実際のプロジェクトの設定には、[プロジェクト・テンプレート](#)をご使用ください。

3.2.1 デモ用プロジェクトにアクセスする

- メインのツールバーの**ファイル**をクリックします。



- 次に、**開く**をクリックします。デモ用プロジェクトが表示されます。
ヒント： マウスのカーソルをそれぞれのプロジェクトの上にかざすと、そのプロジェクトについての短い説明文が現れます。



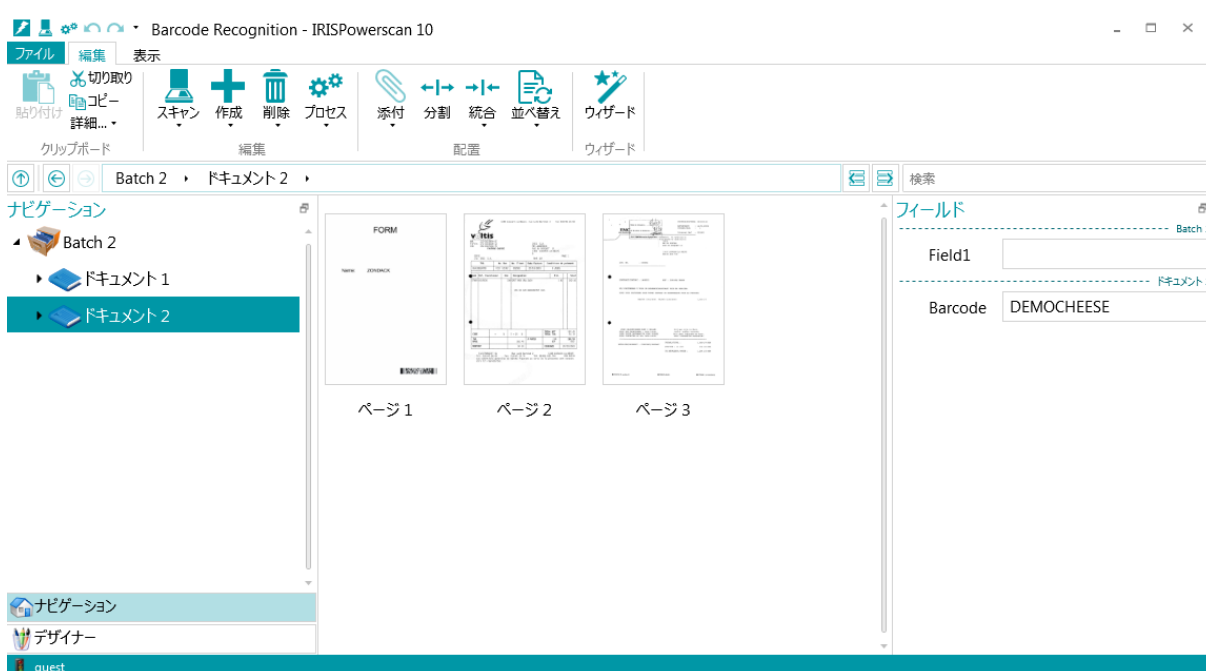
- 気に入ったデモ用プロジェクトを選択し、**開く**のアイコンをクリックします。

3.2.2 デモ用プロジェクトを試用する

- 選択したプロジェクトを開きます。
注記： ここでは **Barcode Recognition** のプロジェクトの例について説明します。
- プロジェクトが**ナビゲーションモード**で開きます。
ナビゲーションモードは、プロジェクトのメインとなる作業エリアです。ドキュメントのスキャンや処理に使用されます。



- **スキャン**をクリックし、サンプルドキュメントを何点かスキャンしてみます。
System.InputDirectoryのフォルダーからサンプルドキュメントが読み出されスキャンされます。
- ドキュメントは、例題プロジェクトの区切りモードに基づいて、**バッチ**、**ドキュメント**、および**ページ**に区別されます。



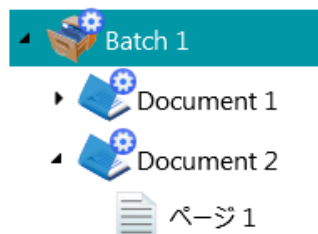
- ここで留意すべきは、何点かのサンプルの**バッチ**と**ドキュメント**レベルのインデックスフィールドが、既に入力されている点です。
ナビゲーションモードでは、**インデックスフィールド**の検証、編集、新規作成に加え、認識ゾーンへのリンク設定が可能です。
- スキャンを完了した時、既に必要な操作が全て実施されていれば、**プロセス**をクリックして、処理済みのドキュメントをエクスポートします。



- IRIS Powerscan は、ドキュメントのエクスポートを完了すると、スキャン・サマリーを表示します。
標準設定では、エクスポートされたドキュメントは、テキスト検索可能な PDF ファイルとして、ドキュメントフォルダに送られることに注意してください。

注記： ナビゲーションエクスプローラ内のアイコンは、どのエレメントが処理済みであることを示しています。

ナビゲーション



ナビゲーションモードでの設定

プロジェクトの設定変更も、以下のようにナビゲーションモードで行います。

- スキャン済みドキュメントの**再編成**やドキュメントの追加スキャン、スキャンの設定変更などが可能です。

- さらに、**編集**タブ上にある**ウィザード**を使えば、すべてのスキャン済み画像に対して実施しなければならない操作を追加することもできます。そのような操作の例として、画像処理とデータ抽出が挙げられます。デザイナーモードで追加の設定を行う必要があります。



- 実施した設定変更の効果を確認するには、**スキャン**の下にある下向き矢印をクリックし、続いて**再スキャン**をクリックします。すると、設定変更が既にスキャン済みのドキュメントに対して、そして以後スキャンするすべてのドキュメントについても適用されます。



4.プロジェクトを作成する

デモプロジェクトをいろいろ試して、IRIS Powerscan に慣れたら、プロジェクトの設定を始めることができます。プロジェクトは、IRIS Powerscan の核となるもので、ドキュメントをどのように分類し、処理するかを決定します。

プロジェクトを作成するために、次の二つのテンプレートが用意されています。

- [ウィザード](#)
- [自動検出](#)

注記： **Invoice add-on** がアクティベーションされていると、複数の Invoice テンプレートを利用できます。詳細については、別途 **IRIS Powerscan のための Invoice Add-on** のドキュメントをご覧ください。



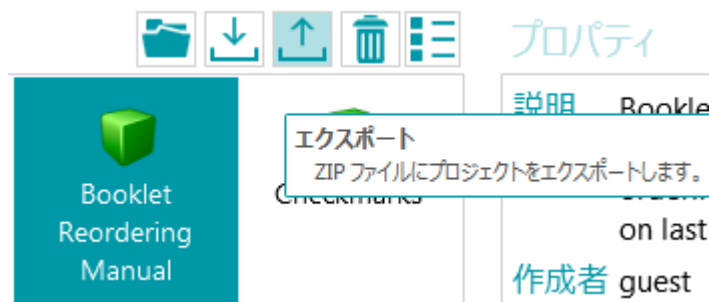
一度プロジェクトが作られると、あとは、**ナビゲーションモード**、または**デザイナーモード**で微調整が可能です。ウィザードは、設定を決める際の手助けとなります。IRIS Powerscan では、ナビゲーションモードで適用した設定は、すべて **デザイナーモード**にも保存されます。そこでは、プロジェクトの設定を完璧に仕上げることができます。

注記： プロジェクトの作成時、例えば、出力先として DMS を選んでその設定を行うと、そのインデックスフィールドが自動的に作成されます。標準設定では、常に、バッチレベルに一つと、ドキュメントレベルに一つのインデックスフィールドがあります。IRIS Powerscan でインデックスフィールドを作成し、使用方法は、[インデックスフィールドを作成する](#)をご覧ください。

プロジェクトのエクスポートとインポート

プロジェクトが作成されると、その設定をエクスポートすることができます。そうすれば、他の IRIS Powerscan ワークステーションや、IRIS Powerscan Server にもその設定をインポートできます。

- **ファイル > 開く**の順にクリックします。
- エクスポートしたいプロジェクトを選択します。
または、Ctrl キーを押しながら複数のプロジェクトをクリックして、同時に複数のプロジェクトをエクスポートします。
- 次に、上向き矢印をクリックして、プロジェクトを .zip ファイルとしてエクスポートします。
注記： 複数のプロジェクトを選択した場合、.zip ファイルには最初に選択したプロジェクトの名前が付けられます。



- プロジェクトを別の IRIS Powerscan ワークステーションにインポートする場合も、同じ手順を繰り返しますが、この時クリックする矢印は、インポートの場合、下向き矢印となります。
または、Ctrl キーを押しながら複数のプロジェクトをクリックして、同時に複数のプロジェクトをインポートします。

注記：複数のプロジェクトが含まれる.zip ファイルをインポートする場合、.zip ファイル内のすべてのプロジェクトはプロジェクトリストに個別に追加されます。同じ名前のプロジェクトが一つまたは複数、既に存在する場合、新しくインポートされるプロジェクトの名前が変更されます。

旧バージョンの IRIS Powerscan

プロジェクトは、IRIS Powerscan 10.2.2 以降と下位互換性があります。ただし、IRIS Powerscan 10.4 以降での新規ページアーキテクチャでは、使用しているプロジェクトで若干の変更が必要な場合があります。ページ数に基づく区切りを使用している場合、ページカウントを倍にする必要があります。これは、1 ページが用紙の両面に対応する以前のバージョンと異なり、10.3 以降からは 1 ページが片面に対応するようになったためです。そのため、IRIS Powerscan の以前のバージョンで作成されたプロジェクトを使用する場合、プロジェクトの設定を見直し、動作を検証することをお勧めします。

注記：サービスに設定されている場合、またはグループがターゲットシステムで不明な場合、キャプチャ、検証、およびエクスポートのアクティビティはインポートされません（[設定ペイン](#)を参照）。

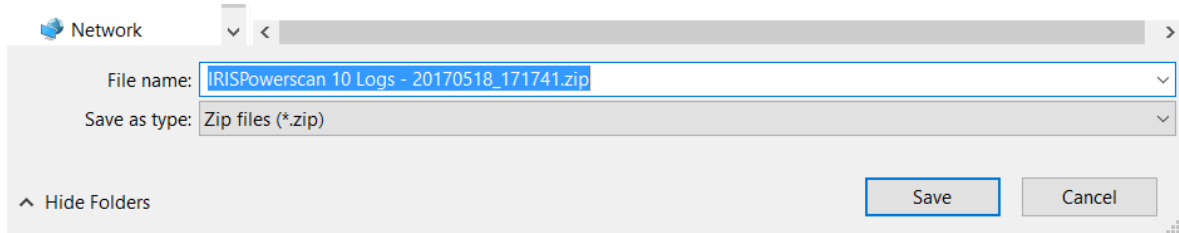
Activities	 Supervisors	Capture
	 Supervisors	Validation
	 Supervisors	Export

ログファイルと画像キャッシュをエクスポートする

プロジェクトのエクスポート以外に、対応するログファイルや画像キャッシュもエクスポートできます。

- エクスポートしたいプロジェクトを選択します。
または、Ctrl キーを押しながら複数のプロジェクトをクリックして、同時に複数のプロジェクトをエクスポートします。
- エクスポートを右クリックし、選択します。
- エクスポートしたいデータ、**画像キャッシュ**、**拡張済みログ**または両方を選択します。
- エクスポートウィンドウが開きます。
プロジェクトの名前を入力し、**保存**をクリックして、.zip ファイルとして保存します。

- 二番目のエクスポートウィンドウが開きます。ログファイルを保存します。
注記： **拡張済みログ**を選択した場合、すべてのデータを収集するまで、少し時間がかかることがあります。**拡張済みログ**を選択していない場合、基本ログファイルが保存されます。
 ログファイルの名前を入力し、**保存**をクリックします。



プロジェクトを複製する

一つまたは複数の既存プロジェクトを複製する

- プロジェクトを右クリックして、**コピー**を選択します。
- または、Ctrl キーを押しながら複数のプロジェクトをクリックしてから、**コピー**を右クリックし、選択します。
- プロジェクトリスト内で再度右クリックし、**貼り付け**をクリックします。



4.1 ウィザードテンプレート

ウィザードテンプレートを使えば、プロジェクトの設定を一つずつ確実に行うことができます。このウィザードの中で、プロジェクト名、入力ソース、適用すべき画像処理操作、バッチとドキュメントの区分け基準、そして出力フォーマットと宛先などのプロジェクトのプロパティを決定します。

注記：

このウィザードでは、全てのステップの入力が求められているわけではありません。どのステップで完了をクリックしてもかまいません。IRIS Powerscan は、入力されなかったステップに対し、標準設定を適用します。

ウィザードの入カステップ数は、選択したソースにより変わります。例えば、入力ソースにフォルダまたはクラウドを選んだ場合、ウィザードには追加の設定ステップが表示されます。

ウィザードを開始する

- ファイル > 作成の順にクリックします。
- ウィザードをダブルクリックします。



ステップ 1

- プロジェクトの**名前**と**説明**を入力します。ここで説明は何か意味のあるものにします。
- ソースを選択する：[スキャナ](#)、[フォルダ](#)、[XMailFetcher](#)、[Box](#)、[Dropbox](#)、[OneDrive](#) および [SharePoint](#) から選択できます。
- 次に、**カルチャ**を選択します。これは、良好な認識結果を得るための重要なオプションであり、OCR ゾーンの標準言語を指定して、インデックスフィールドには、確実に正しい通貨単位や数値、寸法などが使用されるようにします。


ステップ 2

[スキャナ](#)が、入力ソースとして選ばれた時、スキャナ設定を指定するよう求められます。

- 設定用アイコンをクリックして、スキャナドライバを選択します。
- **モデル**一覧から使用するスキャナの機種を選択します。
- **配置**のドロップダウンリストの中で、スキャナから出力されるドキュメントをどのように分割または統合したいかを選択します。
 - **無効**：ページは分割されません。
 - **長辺を分割**：ページをその長辺に沿って分割します。
 - **縦に分離**：ページを垂直に分割します。
 - **横に分離**：ページを水平に分割します。
 - **水平方向に折りたたんで分割 (IPS9)**：A3 サイズのページを水平に 2 枚の A4 サイズのページに折りたたんで分割します。

- **長辺を統合**：2枚の連続するページをそれらの長辺に沿って統合します。
- **垂直統合**：2枚の連続するページを垂直方向に統合します。
- **水平統合**：2枚の連続するページを水平方向に統合します。

フォルダが、入力ソースとして選ばれた時、**フォルダ**設定を指定するよう求められます。

- 参照アイコンをクリックし、入力フォルダを選択します。或いは、ペンシルアイコンをクリックして、標準入力フォルダの設定、System.InputDirectory を変更します。
 - スキャンしたいフォルダがパスワードで保護されている場合、南京錠のアイコン () をクリックします。
 - 自分の (ドメインの) **ユーザー名**を入力します。例えば、IRIS_DOM\MyName とします。
 - 続いて、**パスワード**を入力します。
 - パスワードの**確認**を行ったら、**OK** をクリックします。
- **ファイルフォーマットオプションの決定**：IRIS Powerscan は、標準設定により、*.jpg、*.jpeg、*.tif、*.tiff、*.png、*.bmp、および *.pdf の拡張子で終わるすべてのファイルを検索します。例えば、入力ソースの処理も .pdf 形式のドキュメントに限定したい場合は、その他の拡張子をこのフィールドからすべて削除します。
- 適用したい**並べ替え**の条件を次の中から選択します：**未整列**、**名前順**、**作成日順**、または**修正日順**。
- **配置**のドロップダウンリストの中で、画像をどのように分割または統合したいかを選択します。フォルダの場合も、スキャナを入力ソースとして使用する場合と同様のオプションが選択可能です (上記の説明を参照ください)。
- その他のオプションの設定を行います。
 - **両面**：IRIS Powerscan は、奇数ページを表面、そして偶数ページを裏面として処理します。両面モードでスキャンしている時は、このオプションを選択します。
 - **反復処理**：また、IRIS Powerscan は、選択された入力フォルダのサブフォルダにあるファイルの処理も行います。
 - **スキャン開始前にフォルダを参照** (フォルダを監視フォルダとして使用している場合は適用不可)：スキャンをクリックするたびに、入力フォルダを指示するよう求められます。
 - **スキャン開始前にファイルを参照** (フォルダを監視フォルダとして使用している場合は適用不可)：スキャンをクリックするたびに、一つまたは複数のファイルを選択するよう求められます。
 - **非表示ファイルを無視します**：このオプションが選択されている時、非表示ファイルはスキャンされません。
 - **スキャン後にファイルを削除する**：このオプションが選択されている時、ファイルは、スキャン後に削除されます。
- **解像度**：PDF ファイルをインポートする際、インポートされるファイルの**解像度**を選択できます。解像度は、100 DPI から 600 DPI の範囲から選べます。通常は、300 DPI をお勧めします。このオプションは画像ファイルに適用されることもなく、スキャナの解像度が変更されることもありません。
- **タイマー**：あと何秒後に IRIS Powerscan がフォルダ内の画像を処理しなければならないかを表示します。

注記：このオプションは、フォルダを**監視フォルダ**として使っている時だけ有効です。

- **信号**：信号オプションは、**接続プロジェクト**を使用している時に使われます。詳細は、**対応するトピック**を参照ください。
- **バックアップ**：ファイルのバックアップをとりたい時は、参照アイコンをクリックし、ファイルを保存するフォルダを選択します。または、ペンシルアイコンをクリックして、**表現式**を利用します。

これらの選択可能なオプションに関する詳しい情報は、[フォルダからスキャンする](#)をご覧ください。

[クラウド](#)を入力ソースとして選択した場合、ご自身のクラウドアカウントのユーザー名とパスワードを入力してください。

ステップ3

IRIS Powerscan が実行する [画像処理操作](#) を選択します。同時に複数の処理を選択するには、**Ctrl** キー押しながらそれらの処理を順次クリックしています。

ステップ4

バッチ区切り基準 を選択します。この基準は、IRIS Powerscan が、いつ新しいバッチを開始するかを決定します。

- **なし**：IRIS Powerscan は、入力されたすべてをスキャンし、一つの標準バッチとなります。
- **文書数に基づく**：ドキュメントが残りいくつになったら IRIS Powerscan が新規のバッチを開始すべきかを指示します。
- **空白ページに基づく**：IRIS Powerscan は、白紙ページを検出した時にバッチを開始します。
- **バーコードに基づく**：IRIS Powerscan は、スキャンした画像上にバーコードを検出した時、新規のバッチを開始します。
- **パッチコードに基づく**：IRIS Powerscan は、スキャンした画像上にパッチコードを検出した時、新規のバッチを開始します。
- **区切りを削除する**を選択すると、IRIS Powerscan は、白紙ページやバーコード、パッチコードを含むページを削除します。

明らかに、これで [バッチ区切り基準](#) は、クリアされ再設定可能なリファイン状態になりました。

ステップ5

文書区切り基準 を選択します。この基準は、IRIS Powerscan が、いつ新しいドキュメントを開始するかを決定します。

前述の通り、同様の区切り基準が、バッチ区切りについても使用できます。

[文書区切り基準](#) も、リファイン可能です。

ステップ6




次に、[出力フォーマット](#) および [出力先](#) の選択を行います。IRIS Powerscan は、多数の編集とテキスト検索が可能で、かつ圧縮出力のドキュメントを、様々なターゲットシステム向けに作ることができるのです。



ステップ7

ドキュメントの出力先に **フォルダ** を選択した場合、必要な **パス** を指定するよう求められます。標準パスは、System.OutputDirectory + "\ " + System.ProjectName + "\ " + Batch.Name です。これは、IRIS Powerscan が、ユーザーのドキュメントフォルダ内にフォルダ構造を作成できることを意味します。

標準構造は、ドキュメント > プロジェクト_n > バッチ_n です。


その他の変数を選ぶには、ドロップダウンリストをクリックします。この時、表現式エディタを使えば、変数をカスタマイズすることもできます。ペンシルアイコンをクリックし、[表現式エディタ](#) を開きます。

パス System.OutputDirectory + "\ " + System.ProjectName + "\ " + Batch.Name   

信号  

既存のファイルを上書きする

もし、変数を使わず、その代り決まったパスを使いたいのなら、参照のアイコンをクリックし、フォルダを選択します。或いは、パスをタイプ入力します。

スキャンしたいフォルダがパスワードで保護されている場合、南京錠のアイコン () をクリックします。

- 自分の (ドメインの) **ユーザー名** を入力します。例えば、IRIS_DOM\MyName とします。
- 続いて、**パスワード** を入力します。
- パスワードの **確認** を行ったら、**OK** をクリックします。

フォルダが [接続プロジェクト](#) の一部になっている場合、**信号** オプションを活用します。詳細は、[対応するトピック](#) を参照ください。

ステップ8

ウィザードの最終ステップで、これまでに選んだ設定の概要が表示されます。

プロジェクトの設定を終了する時は、**完了** をクリックして、そのプロジェクトをナビゲーションモードで開きます。これでプロジェクトを使う準備が整いましたが、ナビゲーションモードとデザイナーモードの双方で微調整を行うこともできます。

4.2 自動検出テンプレート

自動検出テンプレートは、ウィザードテンプレートと似ています。違いは、自動検出テンプレートが、スキャン画像上に発見した要素を基にバッチ区切りや文書区切りを示唆する点です。例えば、検出中に白紙ページ、バーコード、またはパッチコードに遭遇したとすると、自動検出テンプレートは、このような要素を区切りの基準として使用すべきかどうかを聞いてきます。

重要： 自動検出が作動するのは、（一つの要素について）一度だけなので、必ず正しい選択をするようにして下さい。もし、後で自動検出の設定を変えたいになったら、デザイナーモードで変更するか、または自動設定テンプレートを使って最初からやり直す必要があります。

自動検出を開始する

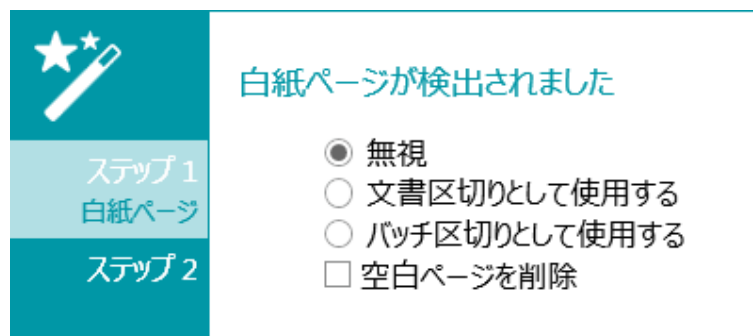
- ファイル > 作成の順にクリックします。
- 自動検出をダブルクリックします。



- 通常のウィザードと同様のステップを実行します。
- 終わったら、完了をクリックし、自動検出を開始します。

注意： 入力ソースとして **スキャナ** を選択すると、同時に、スキャナが起動しようとして動き出します。（もし、スキャナが反応しないなら）スキャナの電源は入っており、きちんと接続され、スキャナのドライバは、インストールされていることを確認して下さい。

- カラーまたはグレースケールの画像が検出されると、**2値化処理**を加えるかどうか、即ち、その画像を白黒画像に変換した上で処理を施すべきか、を聞いてきます。
- **白紙ページ**、**バーコード**、または**パスコード**が検出された場合、それらをドキュメントまたはバッチの区切り用として使用するか決めることができます。
ここで選択した設定は、今後スキャンして追加するすべてのバッチに適用されます。



既にスキャンを終えた最初のバッチに同じ設定を適用するには、ナビゲーションモードで**再スキャン**をクリックします。



注記： 異なるタイプのバーコードが検出される度に、区切りとして使うかどうかの判断を求められます。

- この段階で、ドキュメントの処理をナビゲーションモードで行うことができます。そして、もし必要ならば、プロジェクトの設定をナビゲーションモードとデザイナーモードの両方で続けます。

5.IRIS Powerscan のインターフェース

IRIS Powerscan のインターフェースは、二つのメインのモードとアプリケーションメニューで構成されています。下のリンクをクリックして概要をご覧ください。

1.アプリケーションメニュー

アプリケーションメニューを使えば、プロジェクトの管理や共有に関連する一般的なタスクに瞬時にアクセスしたり、ローカルユーザーやグループを設定したり、追加機能をアクティベーションするなどの操作が可能です。

2.ナビゲーションモード

ナビゲーションモードは、IRIS Powerscan の正にメインとなる作業エリアです。ナビゲーションモードは、ドキュメントのプロセスに必要なすべてのコマンドと管理を備えていて、ドキュメントのスキャンや再編成、インデックスフィールドの検証、さらに出力ファイルの生成と任意に選択した宛先への送信などの操作は、すべてナビゲーションモードで行います。あるプロジェクトが作成、または開かれた時、プロジェクトは、標準設定により、まずナビゲーションモードで表示されます。

3.デザイナーモード

デザイナーモードでは、プロジェクトを上級レベルでデザインすることが可能です。ナビゲーションモードで行うすべての設定は、さらに念入りの設定作業ができるように、デザイナーモード内にも保存されます。

インターフェース言語を変更する

インターフェースの言語は、ユーザーレベルで定義され、各ユーザーごとにカスタマイズすることができます。

インターフェース言語を変更するには、

- まず、プロジェクトを開きます。
- **ファイル > 情報 > ユーザー**の順にクリックします。
- インターフェース言語の変更を希望しているユーザーをダブルクリックします。
- **言語**の一覧から必要としている言語を選択し、**OK** をクリックします。
- 次回そのユーザーがログインした時、インターフェースは、選んだ言語で表示されます。



重要な注記： この設定変更は、同じコンピュータを使っているローカルユーザー全員に対してのみ有効となります。もし、別のコンピュータから IRIS Powerscan Server にログインしているユーザーの中にもインターフェース言語を変更したい人がいる場合、IRIS Powerscan の管理者は、**IRIS Powerscan Server** のインターフェースで各ユーザーごとにそのインターフェースの言語設定を変更しなければなりません。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、IRIS Powerscan Server のアプリケーションを開き、ファイル > ヘルプをクリックしてください。

5.1 アプリケーションメニュー

アプリケーションメニューを使えば、プロジェクトの管理や共有に関連する一般的なタスクに瞬時にアクセスしたり、ローカルユーザーやグループを設定したり、追加機能をアクティベーションするなどの操作が可能です。

アプリケーションメニューにアクセスするには、ナビゲーションモードまたはデザイナーモードのいずれかから、ファイルタブをクリックします。

アプリケーションメニューのオプションの概要

情報

情報タブでは、システムにインストールされた IRIS Powerscan に関する一般的な情報が見られます。情報タブは四つのセクションから構成されています。

一般

プログラムバージョン、登録ユーザー、ユーザーが完了したアクションなどを表示します。

IRIS Powerscan Server

ここで、[IRIS Powerscan Server](#) に接続できます（但し、[Central Management add-on](#) が起動している場合）。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、IRIS Powerscan Server のアプリケーションを開き、ファイル > ヘルプをクリックしてください。

報告中

IRIS Powerscan 10.5 では、設定に備えて、上級報告中 オプションが用意されています。

IRIS Powerscan で、Windows システムトレイ内に通知を表示させたい場合、**トレイアイコンを有効にする通知**を選択します。

標準設定では、IRIS Powerscan は、**エラーメッセージのみ**を、**アプリケーションログファイル**と、**サービスログファイル**に保管します。**エラーと警告メッセージの保管**や**すべてのメッセージの保管**を選択することも可能です。

詳細な報告が必要とされる場合、**アプリケーションのログイン**と**サービスのログイン**のドロップダウンリストにある**すべてのメッセージ**を選択します。

注記：サービスのログインドロップダウンリストで、すべてのメッセージを選択する際は、アプリケーションを再起動する必要があります。



Reporting

Enable tray icon notifications

Application logging Error messages only ▾

Service logging Error messages only ▾

Export diagnostic data

Send email on error

Batch on error

診断データをエクスポートするには、**診断データのエクスポート**ボタンをクリックして、エクスポートしたいデータを選択します。

- **プロジェクト**: プロジェクト設定をエクスポートします。
- **画像キャッシュ**: ビューアー内で表示可能な画像をエクスポートします。
- **拡張済みログ**: Windows のイベントログをエクスポートします。ログは、C:\ProgramData\IPsX\LocalProjects\Logs に保管されます。

注記: **診断データのエクスポート**をクリックした時点でプロジェクトが開かれていない場合、利用できるのは**拡張済みログ**オプションのみです。



Export diagnostic data

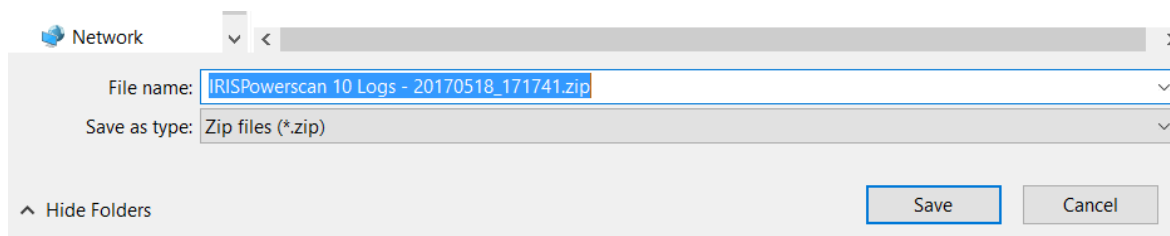
Export options

- Project
- Image cache
- Extended logs

OK

Cancel

- 完了したら、**OK** をクリックします。
- エクスポート**ウィンドウが開きます。
プロジェクトの名前を入力し、**保存**をクリックして、.zip ファイルとして保存します。
- 二番目の**エクスポート**ウィンドウが開きます。ログファイルを保存します。
注記： **拡張済みログ**を選択した場合、すべてのデータを収集するまで、少し時間がかかることがあります。**拡張済みログ**を選択していない場合、基本ログファイルが保存されます。
ログファイルの名前を入力し、**保存**をクリックします。



エラーメールを送信： プロジェクトでエラーが発生した際、自動構成でユーザーに警告メールを発信したい場合、このオプションを選択します。例えば、スキャン、検証、エクスポートはサービスまたはサーバーによって実行されます。

バッチエラーを送信： バッチでエラーが発生した際、同じユーザーに警告メールを発信したい場合、このオプションを選択します。

宛先フィールドに受信者を入力します。

ブラインドコピーで、**CC** フィールドに受信者を入力します。

ホスト名とポート番号を入力します。

IRIS Powerscan が送ろうとする電子メールの送信を断念する**タイムアウト**の時間を設定します。標準設定は、60 秒になっています。

必要ならば、**SSL を使用する**を選択し、セキュア・ソケット・レイヤーを使って暗号化します。

ユーザー名とパスワードを入力します。

入力したら、**テスト送信**をクリックしてテストメールを送信します。

注記： IRIS Powerscan Server を使用する場合、同じ報告設定が、IRIS Powerscan Server アプリケーション内で設定されている必要があります。

機能

現行バージョンでアクティベーションされている機能を表示します。

- 機能をさらに増やすには、**アクティベーションする**をクリックします。
- クリップボードにコピー**をクリックして、すべてのライセンス情報をクリップボードにコピーします。これで、メールに簡単に張り付けて、例えば**製品サポート**に連絡することができます。

ユーザー

IRIS Powerscan で**ユーザーの管理**を行うことができます。ユーザーを追加するには、プラスのサインをクリックし、既存のユーザーの編集を行うには、ペンシルアイコンをクリックします。

重要： ここで追加するユーザーは、ローカルユーザーであり、現行のマシンにのみログイン可能なユーザーです。複数のワークステーションの間で利用可能なユーザーのプロファイルの設定は、**IRIS Powerscan Server**で行います。

- グループ**： IRIS Powerscan で**ユーザーグループの管理**を行うことができます。ユーザーグループを追加するには、プラスのサインをクリックし、既存のグループの編集を行うには、ペンシルアイコンをクリックします。

重要： ここで追加するグループは、ローカルグループであり、現行のマシンについてのみ有効です。複数のワークステーションの間で利用可能なグループの設定は、**IRIS Powerscan Server**で行います。

- **成果**： 推奨されるアクションの一覧を表示します。
- **アップデート**： ソフトウェアのアップデートを確認できます。

ログイン

IRIS Powerscan には、個人の認証情報を使ってログインします。ログインしないで、IRIS Powerscan を使用する場合、使用者は、標準設定により「guest」ユーザーと見做されます。

特定のユーザーの権限が、そのユーザーの認証情報に帰属するものであった場合、その権限に関連するアクションを実行することが許されるのは、正規にログインした後だけです。[ユーザーとグループの管理](#)を参照ください。

作成

作成タブの上で、テンプレートの一つを使い、新規プロジェクトを作成できます。

また、はじめに > [プロジェクトの作成](#) もご覧ください。

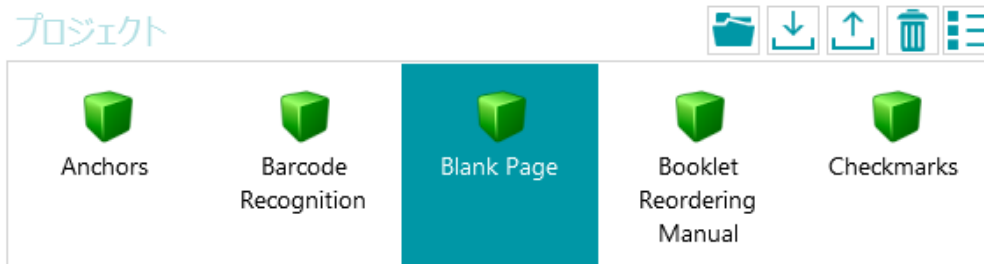
開く

開くのタブの上で、デモ用プロジェクトや作成済のプロジェクトを開くことができます。これらのプロジェクトは、アイコンや詳細一覧として表示できます。一覧のアイコンをクリックして、一覧表示に切り替えます。

プロジェクトは、.zip ファイルとしてエクスポート可能で、他の IRIS Powerscan のステーションが、これをインポートすることもできます。

プロジェクトは、右クリックで複製した後、コピーを貼り付けることも可能です。

開く



保存

すべてのプロジェクト設定を保存し、アプリケーションメニューを閉じて、プロジェクトに戻ります。

別名で保存

現在のプロジェクトのコピーに新しい名前をつけて保存します。

管理

[処理中のバッチ](#)の管理を行います。[IRIS Powerscan 10 における処理](#)をご覧ください。

注記： IRIS Powerscan 10.4 では、Invoice バッチをこのセクションから削除する場合に、WebVerify ジョブのリストからも削除することができます。

印刷プレビュー

選択したバッチまたはドキュメントがどのように印刷されるか、そのプレビューを表示します。

印刷プレビューのコマンドが実行できるように、表示するドキュメントかバッチを、ナビゲーションエクスプローラの中で選んでおく必要があります。

注記： 印刷プレビューのコマンドは、デザイナーモードではなく、ナビゲーションモードがアクティブである場合のみ使用可能です。

印刷

ドキュメントやバッチを印刷します。印刷のコマンドが実行できるように、印刷するドキュメントかバッチを、ナビゲーションエクスプローラの中で選んでおく必要があります。ページを個別に印刷することはできません。

注記： 印刷のコマンドは、デザイナーモードではなく、ナビゲーションモードがアクティブである場合のみ使用可能です。

ヘルプ

資料を開きます。

5.2. ナビゲーションモード

以下に、ナビゲーションモードの概要とそのコマンドについて説明します。

ヒント： 使うと便利な[ショートカット](#)が沢山あります。ショートカットキーのヒントをリボン上に表示するには、単に Alt キーを押すだけです。

ヒント： どのような変更でも、[クイックアクセスツールバー](#)の取り消しかやり直しボタンを使って、取り消し、またはやり直しをすることができます。

ナビゲーションモードの概要

ナビゲーションモードは次の要素で構成されています。

5.2.1 [クイックアクセスツールバー](#)

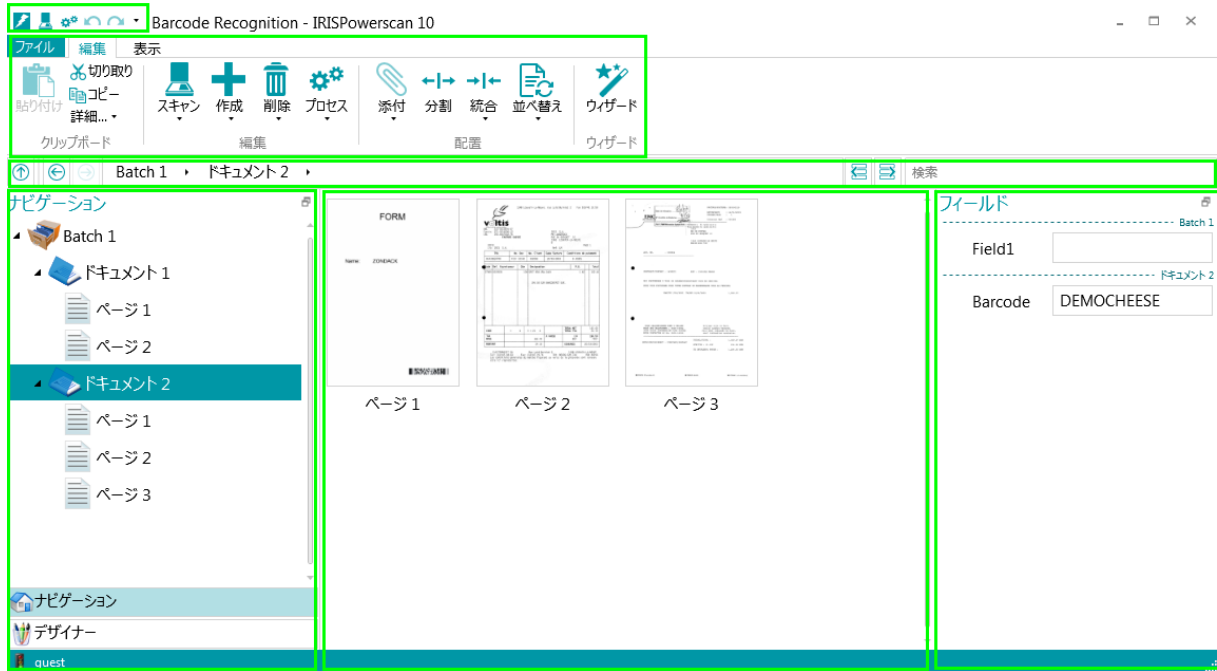
5.2.2 [メインツールバー](#)

5.2.3 [ナビゲーションバー](#)

5.2.4 [ナビゲーションエクスプローラ](#)

5.2.5 [ビューアー](#)

5.2.6 [フィールドペイン](#)



5.2.1 クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーの上では、次の操作が可能です。

- ドキュメントのスキャン
- ドキュメントの処理
- 操作を元に戻す
- 操作をやり直す

注記： それ以外のコマンドをこのツールバーに追加することも可能です。そのためには、追加したいコマンドを右クリックし、**クイックアクセスツールバーに追加**を選択します。

5.2.2 メインツールバー

メインツールバーは、ドキュメントのスキャンと処理に必要なすべてのコマンドを備えています。また、プロジェクトを設定することもできます。



メインツールバーは、以下のタブで構成されます。

- [ファイル](#)
- [編集](#)
- [表示](#)

5.2.2.1 ファイルタブ

ファイルタブは、[アプリケーションメニュー](#)を開きます。アプリケーションメニューを使えば、プロジェクトの管理や共有に関連する一般的なタスクに瞬時にアクセスしたり、ローカルユーザーやグループを設定したり、追加機能をアクティベーションなどの操作が可能です。

アプリケーションメニューは、ナビゲーションモードとデザイナーモードのいずれからでもアクセスできます。

5.2.2.2 編集タブ

編集タブは、ナビゲーションモードの中で最も重要なタブです。編集タブのコマンドを使って、ドキュメントのスキャンや再編成、スキャンの設定変更、バッチとドキュメントの新規作成、ウィザードを使った操作の追加、そして処理済みドキュメントのエクスポートなどの作業ができます。

編集タブは、次のグループで構成されます。

- クリップボード
- 編集
- 配置
- ウィザード








注記： 編集タブのコマンドは、キーボードのショートカットから使うこともできます。[ここ](#)をクリックするとその概略をご覧ください。

クリップボード


切り取り / コピー / 貼り付け	クリップボードには、標準的な切り取り、コピーそして貼り付けのコマンドがあります。ナビゲーションエクスプローラまたはビューアーから、ページやドキュメント、バッチをクリップボードに切り取り、別の場所に貼り付けることができます。
すべてを選択する	現在ビューアーに表示されているページ、ドキュメント、またはバッチをすべて選択します。
	最初または最後のページに、そして前のページまたは次のページに直接移動できます。

編集

編集グループのコマンドは、ドキュメントのスキャン、編集、および削除を行います。

 <p>スキャン</p>	<p>スキャンをクリックして、設定済みの入力ソースからドキュメントをスキャンします。入力ソースは、スキャナ、フォルダ、或いはクラウドのリポジトリ（保存場所）でも構いません。</p> <p>標準設定により、スキャンしたすべてのドキュメントは、最後のドキュメントの後ろに追加されます。</p> <p>ある特定の位置の前か後ろにドキュメントを挿入したい場合、その位置をナビゲーションエクスプローラの中で選び、スキャンのボタンの下にある下向き矢印をクリックして、前に挿入、または後に挿入を選択します。次に、スキャンをクリックします。</p> <p>既にスキャン済のドキュメントに対して何かの設定変更を適用する場合、スキャンボタンの下にある下向き矢印をクリックして、続けて再スキャンをクリックします。こうすれば、変更を適用するために、ドキュメントをわざわざスキャンし直すという手間を実際にかける必要がありません。</p> <p>注記：再スキャンを使うと、ドキュメントの名前とフィールドだけが再検証されます。バッチの名前とフィールドは、再検証されません。</p> <p>入力ソースを選択するには、スキャンボタンの下にある下向き矢印をクリックして、必要なソースを選択します。次に設定をクリックし、選択した入力ソースの設定を行います。</p>
 <p>開く</p>	<p>このコマンドは、入力ソースが Invoice プロジェクトの監視フォルダに設定されている場合のみ、有効なコマンドです。</p> <p>このコマンドを使えば、自動スキャンされたバッチ、または Web Verify を使って個々に検証されたバッチを開くことができます。</p>
 <p>作成</p>	<p>このコマンドは、バッチまたはドキュメントのいずれかを新規に作成します。</p> <p>新規のバッチまたはドキュメントの、ナビゲーションエクスプローラへの追加位置を指定します。次に、作成の下にある下向き矢印をクリックし、バッチまたはドキュメントを選択します。</p> <p>バッチ > ドキュメント > ページの構造は常に維持されることにご注意下さい。これは、ドキュメントやバッチが、二つのページの間には追加できないことを意味します。また、バッチを二つのドキュメントの間に追加することもできません。</p>
 <p>削除</p>	<p>ページやドキュメント、バッチも削除するには以下の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 削除する対象を選択し、次に、削除をクリックします。 ● または、対象を右クリックし、コンテキストメニューの削除をクリックします。 ● または、対象を選択し、Delete キーを押します。 <p>但し、ページは、直ぐには削除されません。その代り、「削除対象」であることを示す赤い x 印がつけられます。このようにして削除のフラグを立てておけば、間違っ削除しようとした時も、簡単に削除の取り消しをすることができます。削除のフラグの立ったページは、処理の対象となりません。</p> <p>ページを復元（削除のフラグを解除する）するには、まず、削除のフラグを立てられたページを選択します。次に、削除の下にある下向き矢印をクリックし、続いて復元をクリックします。</p>
 <p>並べ替え</p>	<p>この並べ替えツールは、Debookletting モードでスキャンされた画像の並び替え専用です。詳細は、操作 > 並べ替えをご覧ください。</p>
 <p>プロセス</p>	<p>プロセスをクリックして、IRIS Powerscan にドキュメントの処理を実行させ、その結果を設定した出力先に送信させます。</p>
 <p>Verify</p>	<p>このコマンドは Invoice プロジェクトにおいてのみ使用可能です。これは、デフォルトのインターネットブラウザの中で WebVerify モジュールを開きます。</p>


配置

 <p>添付</p>	<p>ページを添付としてマークするための手順は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ページを選択し、添付ボタンをクリックします。 ● または、ページを右クリックし、コンテキストメニューの添付をクリックします。 ● または、ページを選択し、Insert キーを押します。 <p>Page.IsAttached という変数が、分類、インデックス作成、エクスポートなどの条件として利用されます。</p>
---	---

	<p>ページを添付解除するための手順は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ページを選択してドロップダウンボタンをクリックし、未添付をクリックしてページの添付を解除します。 • または、ページを右クリックし、コンテキストメニューの未添付をクリックします。 • または、ページを選択し、Ctrl+Insert を押します。 <p>Page.IsAttached 変数が削除されます。</p>
 <p>分割</p>	<p>ドキュメントやバッチを分割するには、この分割をクリックします。</p> <p>重要: ドキュメントを分割する時は、ドキュメント内のページを一つ選んで分割をクリックします。バッチを分割する時は、その中のドキュメントの一つを選んで分割をクリックします。</p>
 <p>統合</p>	<p>統合をクリックして、二つのドキュメント、または二つのバッチを統合します。</p> <p>統合の下にある下向き矢印をクリックして、直前のバッチまたはドキュメントと統合するのか、若しくは直後のバッチまたはドキュメントと統合するかを指示します。</p>
 <p>並べ替え</p>	<p>並べ替え</p> <p>並べ替えツールを使用して、スキャンしたドキュメントを並べ替えることができます。</p> <p>ただし、最初の2つのコマンド(カバーが最初 および カバーが最後)は、Debookletting モードでスキャンされた画像の並べ替えにのみ使用してください。詳細は、操作 > 並べ替え をご覧ください。</p> <p>順序を逆転</p> <p>スキャンされたすべてのページの順序を逆転するには、以下の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 順序を逆転をクリックします。 <p>これは、ドキュメントレベルでのみ有効です。単一ドキュメント内のページの順序のみが逆転されます。</p> <p>面の入れ替え</p> <p>面の入れ替えコマンドを使用して、ページを交換して面を裏返すことができます。</p> <p>ページの位置を交換するには、ページの対の番号を選択する必要があります。</p> <p>例:</p> <p>1~4 ページを選択する場合、1 ページ目と 2 ページ目の位置が交換され、3 ページ目と 4 ページ目の位置が交換されます。これらのページの面も入れ替わります。つまり、表面が裏面になり、裏面が表面になります。</p> <p>注記: 5 ページ分選択した場合、5 ページ目の位置は変わりませんが、面は裏返されます。</p> <p>ヒント: カーソルをページに合わせると、表面か裏面かを確認できます。</p> 

	<p>注記：異なるドキュメントやバッチにまたがって複数のページを選択することができます。ただし、ページや面はそれぞれ元のドキュメントやバッチのままであることを注意してください。これらは、あるドキュメントやバッチから別のドキュメントやバッチに移動されることはありません。</p> <p>ページの面を裏返しただけの場合は、1 ページのみを選択し、面の入れ替えをクリックします。表面が裏面に、裏面が表面になります。これはページ単位で行う必要があります。</p> <p>ヒント：意図しない変更を元に戻すには、Ctrl-Z を使用します。</p>
--	---

ウィザード

 <p>ウィザード</p>	<p>ウィザードをクリックすると、設定ウィザードが始まります。</p> <p>このウィザードを通して、各種操作や、ページタイプ、文書タイプ、バッチタイプに加え、出力タイプとデータソースを追加できます。</p>
--	--

5.2.2.3 表示タブ


この表示タブでは、表示すべき画像の選択をはじめ、表示されたページのズーム調節や回転、データ抽出ゾーンの作成、ルーラー他レイアウトツールの表示と非表示設定を行うことができます。

表示タブは、次のグループから構成されます。

- 色
- ズーム
- ツール
- ゾーン
- 表示／非表示





注記：表示タブにあるコマンドは、キーボードのショートカットでも使えます。[ここ](#)をクリックするとその概略をご覧いただけます。

色

 <p>表示</p>	<p>表示ツールは、スキャン済み画像の使用可能なストリームを表示します。その際の表示様式を次の中から選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 色 • グレースケール • 白黒
 <p>Check</p>	<p>チェックツールを使用して、選択されている画像ストリームのうち、どれを表示およびエクスポートするか指定できます。</p> <p>表示ツールの下にある下向き矢印をクリックして、表示させる必要があるストリームを選択します。次に、表示およびエクスポートしたい別のストリームのページを1つまたは複数選択します。チェックの下にある下向き矢印をクリックして、選択した画像で使用する必要があるストリームを選択します。チェックマークアイコンが画像のサムネイルに追加されます。</p> <p>注記： 画像を右クリックして、[チェック]にポイントを合わせ、選択した画像で必要とされるストリームを選択することもできます。</p> <p>Navigation</p> <ul style="list-style-type: none"> Batch 1 <ul style="list-style-type: none"> Document 1 <ul style="list-style-type: none"> Page 1 Page 2 <p>Designer Explorer で、使用する 出力タイプ を開きます。 Image.IsBest を、 条件 フィールドに入力します。この条件は、対応する画像/ストリームにチェックが入っており、その特定ページにおいて、対応する画像/ストリームの1ピクセルごとのビット数が一番高い場合、真と評価されます。</p> <p>ヒント： 最良の画像だけをエクスポートしたい場合、 Image.IsChecked という条件を使います。または、 Image.IsVisible を使用して、表示可能な画像だけをエクスポートします。</p> <p>詳しくは、 方法ガイド の、 画像フィルタリングの適用方法 のトピックを参照してください。</p>




ズーム

(ページレベルでのみ使用可能)




 <p>調節</p>	<p>調節の下にある下向き矢印をクリックして、次の調節方法の中から一つ選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ページ全体をビューアーにフィットさせる。 • ページをビューアーの幅に合わせる。 • ページをビューアーの高さに合わせる。
 <p>実物大</p>	<p>等倍をクリックし、選択したページを実物大で表示します。</p>
 <p>拡大</p>	<p>拡大をクリックし、ページを拡大します。</p>
 <p>縮小</p>	<p>縮小をクリックし、ページを縮小します。</p>

ツール

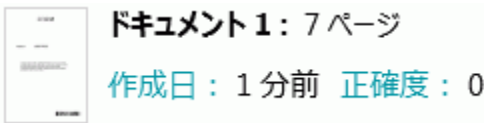
(ページレベルでのみ使用可能)

 左	クリックすると、ページが左に回転します。
 右	クリックすると、ページが右に回転します。
 自動	クリックすると、ページが自動回転します。

ゾーン

 キャプチャ	<p>キャプチャツールは、データ抽出ゾーンの作成に使用します。</p> <p>このツールを使うには、ページを一つ選択します。ビューアーの中で、捕らえたいゾーンの周りに枠を描きます。次に、キャプチャをクリックします。</p> <p>自動的にデータ抽出ゾーンの検出ができるように、キャプチャの下にある下向き矢印をクリックし、続いて分析をクリックします。</p>
 トリミング	<p>トリミングツールは、ページをトリミングして特定のサイズに切りそろえます。</p> <p>このツールを使うには、ページを一つ選択します。ビューアーの中で、ページの切り取らなければならないゾーンの周りに枠を描きます。次にトリミングをクリックします。</p>
 塗りつぶし	<p>塗りつぶしツールは、スキャンした画像の一部を隠す時、例えば機密情報を見えないようにする場合、に使用します。</p> <p>このツールを使うには、ページを一つ選択します。ビューアーの中で、隠したいゾーンの周りに枠を描きます。次に、塗りつぶしをクリックします。塗りつぶしには、複数の色が使えます。塗りつぶしの下にある下向き矢印をクリックして、色を一つ選びます。</p>

表示／非表示

ルーラー	ページレベルの画面上にルーラーを表示します。 (ページレベルでのみ使用可能)
サムネイル	スキャン済みのページのサムネイルをビューアーの左上隅に表示し、ページ間の移動を容易にします。 (ページレベルでのみ使用可能)
速度計	ドキュメントをスキャンしている時に、スキャン速度の指示器を表示します。
詳細	スキャン日など、スキャンした画像の詳細情報を、画面下部に表示します。 
ステータス	スキャンした画像のステータスを、画面下部に表示します。

5.2.3 ナビゲーションバー

ナビゲーションバーは、バッチ、ドキュメント、およびページ間の移動を容易にします。

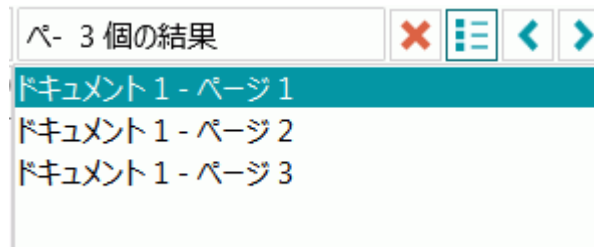


ナビゲーションバーの**検索**セクションでは、現在のプロジェクト内部のテキスト検索を行います。

IRIS Powerscan は、**ナビゲーションエクスプローラ**に表示されたバッチとドキュメントの中、および**インデックスフィールド**の中で一致する結果を検索することにご留意ください。スキャンされた画像の内部にあるテキストを検索することはできません。

検索は、次の要領で行います。

- **検索**フィールドの内側をクリックします。
- フィールド内に検索したい単語をタイプ入力し、**Enter** を押します。
- **検索**セクションに一致した数が表示されます。
- 一覧のアイコンをクリックして、検索結果をすべて表示します。
或いは、矢印のボタンで結果を順次切り替えて表示します。



- 赤いx印をクリックすると、現在の検索を終了し、新しい検索に備えます。

5.2.4 ナビゲーションエクスプローラ

ナビゲーションエクスプローラは、スキャン結果の階層構造（バッチ、ドキュメント、ページ）を表示します。

重要：IRIS Powerscan 10.4 では、1 ページがスキャンした用紙の片面に対応します。一つのページには、もう表面と裏面の双方の面が含まれません。表面か裏面のいずれかの面のみとなりました。これにより、表面と裏面を個別に削除することが非常に簡単になりました。

ナビゲーションエクスプローラでは、異なる要素にまたがって移動したり、切り取りおよび貼り付けやドラッグ・アンド・ドロップでその再編成を行ったり、分割や統合といった操作も可能です。

ヒント：ナビゲーションエクスプローラ内で右クリックして、コンテキストメニューを表示します。

ヒント：右クリックして**すべて展開**を選択して各要素を表示するか、**すべて折り畳む**を選択して全バッチの概要を表示します。

この内容の詳細については、[スキャンしたドキュメントを確認、再配置する](#)をご覧ください。

ナビゲーションエクスプローラは水平方向にサイズを変えることができ、さらにドッキングになりました。

ペインのサイズを変えるための手順は以下の通りです。

- デバイダを、異なる位置にドラッグします。

ペインを分離するための手順は以下の通りです。

- 右上隅にある Windows アイコンをクリックします。



- **未添付**をクリックします。
ナビゲーションエクスプローラペインが、異なる場所に移動可能になりました。
- 元の場所に戻すには、X アイコンをクリックします。

ペインを非表示にするための手順は以下の通りです。

- Windows アイコンをクリックし、**非表示**をクリックします。
- 再表示するには、Windows アイコンをクリックし、**表示**をクリックします。

注記：ナビゲーションエクスプローラ内の要素で、無効なインデックスフィールドを持つものは、警告サインにより示されません。

画面の下部にあるナビゲーションとデザイナーのボタンで、ナビゲーションモードとデザイナーモードを交互に切り替えることができます。

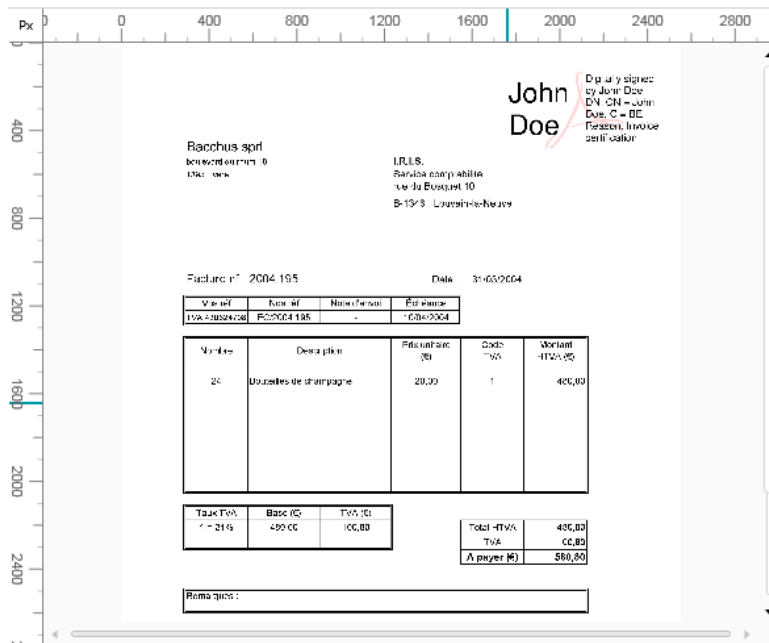


5.2.5 ビューアー

ビューアーは、スキャンしたバッチ、ドキュメント、ページをナビゲーションモード内で表示します。バッチを選択すると、その下の文書／ページは、サムネールで表示されます。



そして、ナビゲーションエクスプローラ内のページの一つを選ぶと、下図に示すようにページ全体が表示されます。この状態で、[表示タブ](#)のツールを使えば、画像を編集できます。



[スキャンされたドキュメントのチェックと再編成](#)も参照してください。

5.2.6 フィールドペイン

フィールドペインには、バッチ、ドキュメント、およびページレベルで作成されたインデックスフィールドが表示されます。IRIS Powerscan 10.4 では、バッチ、ドキュメント、ページレベルのインデックスフィールドは同時に表示されます。インデックスフィールドには、次のように特定の色が付けられています。

- 正しいインデックスフィールドは、白。
- 手で編集されたインデックスフィールドは、黄色。
- 誤りのあるインデックスフィールドは、赤。

検索機能は、すべてのインデックスフィールド内をテキスト検索することができます。

ドッカブルペイン

このフィールドは、ドッカブルになりました。

- 右上隅にある Windows アイコンをクリックします。



- **未添付**をクリックします。
このフィールドペインは、異なる場所に移動可能になりました。
- 元の場所に戻すには、X アイコンをクリックします。

フィールドペインを非表示にするには、Windows アイコンをクリックし、**非表示**をクリックします。再表示するには、Windows アイコンをクリックし、**表示**をクリックします。

5.3.デザイナーモード

以下に、デザイナーモードの概要とそのコマンドについて説明します。

ヒント： 使うと便利なショートカットが沢山あります。 [ここ](#)をクリックするとその概略をご覧いただけます。ショートカットキーのヒントをリボン上に表示するには、単に Alt キーを押すだけです。

ヒント： どのような変更でも、[クイックアクセスツールバー](#)の取り消しかやり直しボタンを使って、取り消し、またはやり直しをすることができます。

デザイナーモードの概要

デザイナーモードは次の要素で構成されています。

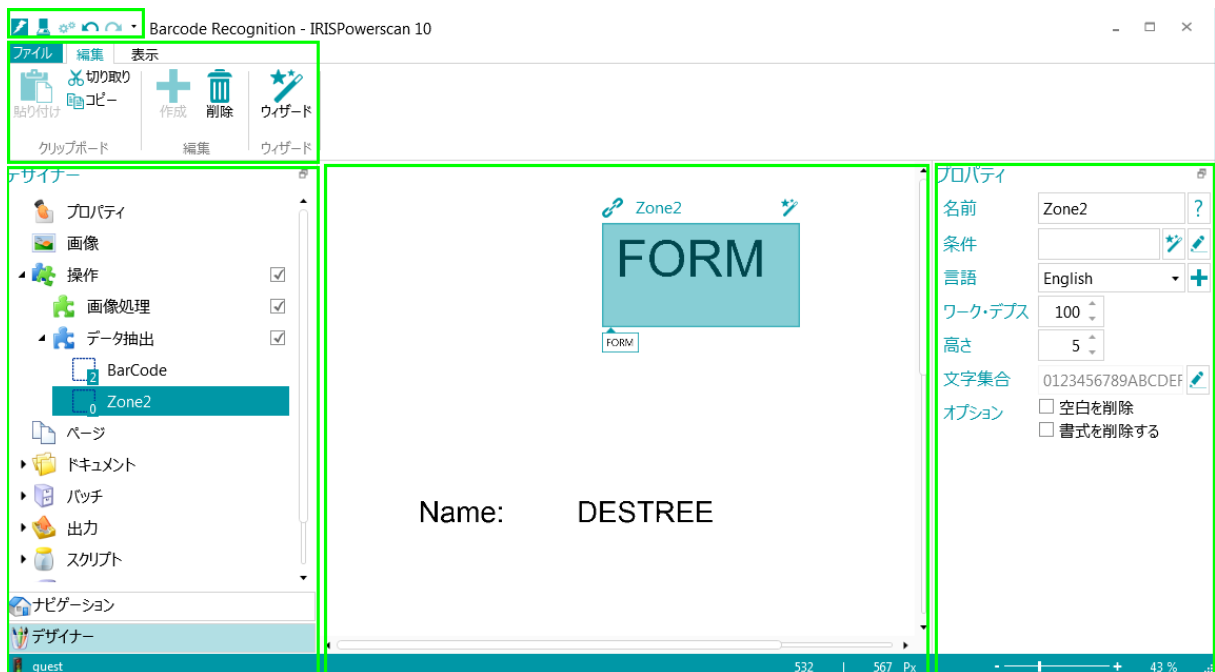
5.3.1 [クイックアクセスツールバー](#)

5.3.2 [メインツールバー](#)

5.3.3 [デザイナーエクスプローラ](#)

5.3.4 [ビューアー](#)

5.3.5 [設定ペイン](#)



5.3.1 クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーの上では、次の操作が可能です。

- ドキュメントのスキャン
- 操作を元に戻す
- 操作をやり直す

注記： それ以外のコマンドをこのツールバーに追加することも可能です。そのためには、追加したいコマンドを右クリックし、**クイックアクセスツールバーに追加**を選択します。

5.3.2 メインツールバー

メインツールバーには、設定項目の追加や変更に必要なコマンドがあります。



メインツールバーは、以下のタブで構成されます。

- [ファイル](#)
- [編集](#)
- [表示](#)

5.3.2.1 ファイルタブ

ファイルタブは、[アプリケーションメニュー](#)を開きます。アプリケーションメニューを使えば、プロジェクトの管理や共有に関連する一般的なタスクに瞬時にアクセスしたり、ローカルユーザーやグループを設定したり、追加機能をアクティベーションするなどの操作が可能です。

アプリケーションメニューは、ナビゲーションモードとデザイナーモードのいずれからでもアクセスできます。



5.3.2.2 編集タブ

編集タブのコマンドは、設定項目の追加または削除に使用します。但し、実際の設定は、[デザイナーエクスプローラ](#)と[設定ペイン](#)で行われる点にご注意下さい。

編集タブは、次のグループで構成されます。



- クリップボード
- 編集
- ウィザード

注記：編集タブのコマンドは、キーボードのショートカットから使うこともできます。[ここ](#)をクリックするとその概略をご覧いただけます。


クリップボード

クリップボードには、標準的な切り取り、コピーそして貼り付けのコマンドがあります。

編集

 作成	このコマンドは、新しい設定項目を作成します。新規の設定項目としては、例えば、ページ、ドキュメント、またはパッチのタイプ、操作、出力タイプ、スクリプト、データソース、等が挙げられます。 作成したい設定項目を選択し、続いて 作成 をクリックします。設定項目は、 デザイナーエクスプローラ に追加され、 設定ペイン で実際の設定を行うことができます。
 削除	削除する設定項目を選択します。続いて、 削除 をクリックします。

ウィザード

 ウィザード	ウィザード をクリックすると、設定ウィザードが始まります。 このウィザードにより、各種操作や処理操作、ページタイプ、文書タイプ、パッチタイプに加え、出力タイプとデータソースを追加できます。
--	---

5.3.2.3 表示タブ

この表示タブでサンプル画像の表示の調節ができます。





重要： デザイナーモードの表示タブのコマンドは、サンプル画像の表示変更に対してのみ有効です。これらのコマンドを使うには、まず最初に、一般レベル、ページレベル、ドキュメントレベル、またはバッチレベルのうち必要なレベルで、**サンプル画像**を追加しなければなりません。次に、必要なレベルで**操作**をクリックします。

表示タブは、次のグループで構成されます。




- ズーム
- ツール
- 表示／非表示

注記： 表示タブにあるコマンドは、キーボードのショートカットでも使えます。[ここ](#)をクリックするとその概略をご覧いただけます。

ズーム

 調節	調節の下にある下向き矢印をクリックして、次の調節方法の中から一つ選びます。 <ul style="list-style-type: none">• 画像サンプル全体をビューアーにフィットさせる。• 画像サンプルをビューアーの幅に合わせる。• 画像サンプルをビューアーの高さに合わせる。 これらのコマンドは、サンプルを単一画像表示で表示している時だけ、使用可能です。
 実物大	クリックすると、画像サンプルを実物大で表示します。
 拡大	クリックすると、画像サンプルを拡大表示します。
 縮小	クリックすると、画像サンプルを縮小表示します。

ツール

 左	クリックすると、画像サンプルが左に回転します。
 右	クリックすると、画像サンプルが右に回転します。
 自動	クリックすると、画像サンプルを自動回転させます。

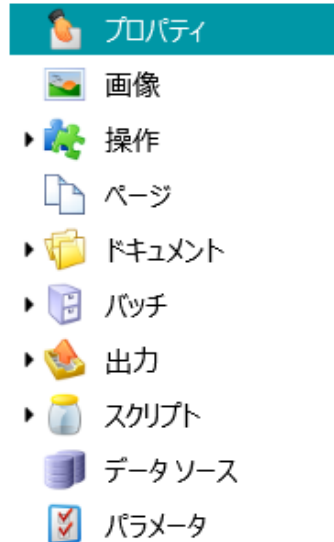
表示／非表示

ルーラー	ルーラーを表示します。
サムネイル	サンプルの縮小画像をビューアーの左上隅に表示し、サンプル間の移動を容易にします。

5.3.3 デザイナーエクスプローラ

デザイナーエクスプローラは、すべての設定項目を階層的な概観で表示します。各項目をクリックすると、そのプロパティが表示されます。項目の前にある三角形をクリックすると、その項目が拡がって下位にある要素が表示されます。

デザイナー



設定項目を追加するには、いくつかの異なる方法があります。

- 右クリックで項目を選び、続いて**追加**をクリックします。クリックした項目のプロパティが、[設定ペイン](#)に表示されます。



- または、項目を選んだら、**編集タブの作成**をクリックします。
- または、[キーボードのショートカット](#)を使用します。

デザイナーエクスプローラの残りの部分とそのオプションは、[設定ペイン](#)のセクションで説明します。

画面の下部にあるナビゲーションとデザイナーのボタンで、ナビゲーションモードとデザイナーモードを交互に切り替えることができます。



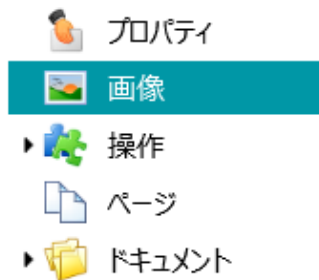
5.3.4 ビューアー

デザイナーモードのビューアーは、既にプロジェクトに追加されている画像サンプルを表示します。

ビューアーで表示させるには、

- 少なくとも一つのサンプル画像を追加してください。
この追加操作は、一般レベル、ページ、ドキュメント、バッチ、いずれのレベルで行っても構いません。
- 正しいレベルにある画像をクリックします。

デザイナー



例：一般レベルにある画像サンプル

- 選んだサンプルをダブルクリックして、ビューアーに表示します。

このサンプルを使用して、画像への操作を定義します。



- サンプル画像が表示されたら、そのサンプルに[画像処理操作](#)を加えることができます。

5.3.5 設定ペイン

設定ペインは、選択した設定項目の設定内容を [デザイナーエクスプローラ](#) に表示します。設定内容は、選んだ項目によって異なります。

名前	<input type="text" value="Scan Project"/>	アイコン
カルチャ	<input type="text" value="English (United States)"/>	
説明	<input type="text"/>	
アクティビティ	<input type="text" value="Supervisors"/>	キャプチャ
	<input type="text" value="Supervisors"/>	検証
	<input type="text" value="Supervisors"/>	エクスポート
カウンタ	<input type="text" value="0"/> Batch.Counter	
	<input type="text" value="0"/> Document.Counter	
	<input checked="" type="checkbox"/> 新しいバッチで文書カウンターをリセットする	
ソース	名前の変更	
	Scanner	

各設定項目の概要は、下のトピックをご覧ください。

設定した操作は、上から下に実行されます。

5.3.5.1 プロパティ

プロパティセクションは、現在のプロジェクトのプロパティを表示します。また、ドキュメントがスキャンされプロジェクトに送られる基となる **ソース** も表示します。ここで適用する設定は、プロジェクト全体に適用されます。

名前：プロジェクトの名称です。

カルチャ：このオプションでは、OCR ゾーンとインデックスフィールドの標準言語が定義されます。

説明：プロジェクトの説明を意味のある内容で入力します。例えば、メイン設定の説明、等です

アクティビティ：どのユーザーグループが、**キャプチャ**、**検証**、および**エクスポート**のアクティビティを実施することを認められているかを選びます。

標準設定では、これら三つのアクティビティを実施できるのは、**Supervisors** となっています。

これらのアクティビティは、現用のワークステーション上で (**サービス** を選択することにより)、またはサーバー上で (**サーバー** を選択することにより) 自動化することも可能です。なお、サーバーを使用するには、[Central Management add-on](#) が必要です。詳細は、[IRIS Powerscan 10 プロセスドキュメント](#) をご覧ください。

キャプチャのアクティビティが、サービスとサーバーによって自動的に実行され、かつ**フォルダ**が、ソースとして選択されていた場合、そのフォルダは、今後、**監視フォルダ**として機能します。

検証のアクティビティが、サービスとサーバーにより実行される場合、ユーザーが手作業でインデックスフィールドを検証する必要はありません。

エクスポートのアクティビティが、サービスとサーバーにより実行される場合、ドキュメントは、処理が終わると同時に速やかに、設定済みの出力先へ自動的にエクスポートされます。

注記：エクスポートが、サービスによって実行されるためには、[Background Processing add-on](#) が必要です。

カウンタ：IRIS Powerscan は、各バッチとドキュメントごとに、標準設定で1から数え始めます。カウンタの数値は、矢印をクリックすることで変更できます。

ソース

ソースを追加するには、プラスサインをクリックします。ソースを削除するには、削除するソースを選択し、ゴミ箱のアイコンをクリックします。

注意：一つのプロジェクトの中に複数のソースを追加し、それらのソースを必要に応じて切り替えることができます。

重要：各プロジェクト (スキャナまたはスキャナ Isis) では、スキャナプロトコルを1つだけ使用することが強く推奨されます。同じプロジェクトで両方のプロトコルを選択すると、エラーが発生する可能性があります。2つのプロトコルを切り替える必要がある場合、切り替え時にスキャナの電源を切った後、再度電源を入れてください。



フォルダ

フォルダに関連するオプションは、[フォルダからスキャンする](#)で説明します。

スキャナ

スキャナをクリックすれば、コンピュータにドライバがインストールされている全てのスキャナモデルが見れます。

そのリストからモデルを一台選択し、設定アイコンをクリックして、そのモデルの設定を行います。[スキャナを使う](#)もご覧ください。

Box、Dropbox、OneDrive、SharePoint

[クラウドからスキャンする](#)をご覧ください。

5.3.5.2 画像

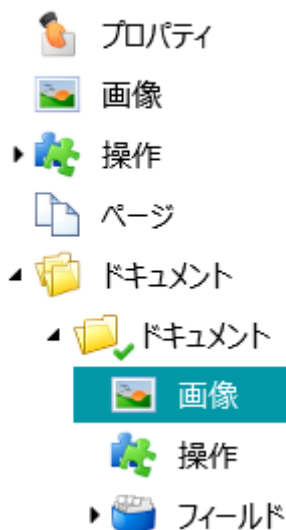
画像セクションの中に、スキャンするドキュメントのサンプルを追加することができます。

サンプルを追加するには、画面右側のプラスサインをクリックし、追加する画像を参照します。

注記： 特定のページ、ドキュメント、またはバッチタイプのサンプルを追加したい場合、デザイナーエクスプローラで目的とするタイプを展開し、その展開したレベルの**画像**をクリックします。

ページレベルで追加したサンプル画像は、Fingerprint 認識のトレーニングに利用できることを覚えておいてください。

デザイナー



5.3.5.3 操作

操作のセクションでは、操作を追加できます。操作を追加すると変数が発生しますが、これらの変数は、主として[ページの設定](#)、[ドキュメントとバッチの区分け](#)、[インデックス作成](#)などを行うための表現式や条件で使用できます。

次の手順で、操作を追加します。

- **操作**を右クリックし、**作成**を選択します。
- 一覧から必要とする操作を選択し、**完了**をクリックします。

注記： 一般レベルで追加する操作は、プロジェクトの中でスキャンするすべてのページに適用されます。しかしながら、ページ、ドキュメント、そしてバッチレベルでは、さらに特定の**タイプ**のページ、ドキュメント、そしてバッチに対して**操作を追加**することも可能です。後者の場合、IRIS Powerscan が特定のタイプに遭遇した時だけ、ある操作を実行するように IRIS Powerscan を設定することも可能で、処理の高速化につながります。

5.3.5.4 ページ

ページセクションでは、今後スキャンするであろう異なる**ページタイプ**を作成できます。

これは、多くの利点を与えてくれます。

- ページタイプの識別は、ドキュメントの区切りに利用できます。
- また、処理操作を特定のページタイプだけに適用すれば、IRIS Powerscan が、スキャンしたページすべてにその処理を適用しなければならないという無駄を避けることができます。

詳細は、[ページの識別](#)をご覧ください。

5.3.5.5 ドキュメント

ドキュメントセクションでは、今後スキャンするであろう異なる**文書タイプ**を作成できます。

文書タイプは、次のように追加します。

- デザイナーエクスプローラでドキュメントを選択し、メインツールバー上の**作成**をクリックします。

文書タイプの設定方法を詳しくお知りになりたいければ、[ドキュメントとバッチの区切り](#)をご覧ください。

5.3.5.6 バッチ

バッチセクションでは、今後スキャンするであろう異なる**バッチタイプ**を作成できます。バッチタイプは、文書タイプと同じ方法で作成します。

また、[ドキュメントとバッチの区切り](#)も参照してください。

5.3.5.7 出力

出力セクションでは、処理済みのドキュメントを送信しなければいけない時に、**出力フォーマット**と**出力先**を決定できます。

5.3.5.8 スクリプト

各プロジェクトの**スクリプト**セクションでは、多くの機能を備えた標準スクリプトが使用可能です。スクリプトの機能は、条件設定や表現式で使われます。

標準スクリプトは、つぎのようにアクセスします。

- スクリプトを展開します。
- 展開した中で、標準スクリプトをクリックします。すると、利用できる機能が表示されます。
- スクリプトを編集するには、ペンシルアイコンをクリックします。
ヒント：マウスをスクリプトの上にかざすと、その機能の簡単な説明が表示されます。

5.3.5.9 データソース

データソースセクションでは、数値リストを追加することができます。数値リストの値は、手作業で入力しなければなりませんが、Microsoft Access のような外部の ODBC データソースから、自動的に読み出すこともできます。これらの値は、IRIS Powerscan のインデックスフィールドにリンクさせることができます。こうすれば、IRIS Powerscan のインデックスフィールドの書き込みを行う際に、データソースからコンテンツを選ぶことができます。

詳細は、[スキャン済みドキュメントのインデックス作成 > データソースを使用する](#)をご覧ください。

5.3.5.10 パラメータ

パラメータセクションでは、以下の上級パラメータを特定することができます。

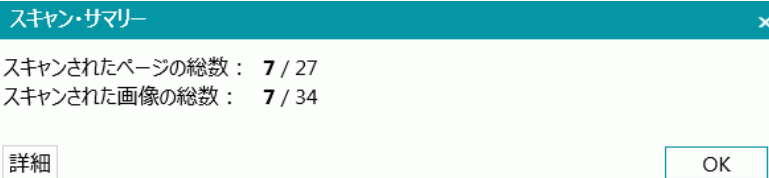
重要：パラメータを変更するたびに、その変更が有効に反映されるためには、一度プロジェクトを保存し、再び開く必要があります。

重要：中には、Invoice プロジェクトを作成されている場合のみ、有効なパラメータもあります。以下のパラメータリストの最後で取り上げています。

ShowLogs：「Yes」に設定されていると、毎回スキャンするたびに、詳細ログを表示します。

ShowScanSummary：「Yes」に設定されていると、毎回スキャンするたびに、スキャン・サマリーを表示します。

スキャン・サマリーは、スキャンされたページの総数と画像の総数を表示します。最初の数字は、最後のスキャンでスキャンされたページ数（下の例では 7）、一方、2 番目の数字は、アプリケーションを開いて以降スキャンされたページ数（下の例では 14）を示しています。

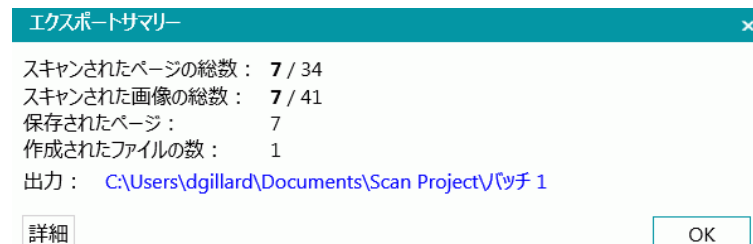


スキャン・サマリーの例

ShowExportSummary : 「Yes」に設定されていると、毎回エクスポートするたびに、エクスポートサマリーを表示しません。

エクスポートサマリーも、スキャンされたページの総数と画像の総数を表示します。最初の数字は、最後のスキャンでスキャンされたページ数（下の例では7）、一方、2番目の数字は、アプリケーションを開いて以降スキャンされたページ数（下の例では14）を示しています。

さらにエクスポートサマリーでは、保存されたページ数と作成されたファイルの数、そして出力フォルダも表示されます。



JpegQuality : スキャナから入力される JPEG 画像の画質を変更します。標準設定では、-1 になっています。これはスキャナの値です。この値は、0 ~ 100 の間で変更できます。値が大きいほど、JPEG の画質は良くなります。

AutoSelectInvalid : 「Yes」に設定されていると、すぐに修正ができるよう、自動的に、カーソルが最初に見つかった無効なインデックスフィールドの中に置かれます。

AutoZoom : 「Yes」に設定されていると、IRIS Powerscan は、インデックスフィールドの中がクリックされた時、これにリンクした対応するデータ抽出ゾーンを拡大表示します。

AutoCapture : 「Yes」に設定されていると、ナビゲーションモードで描画設定したゾーンが、今後のスキャンに備えてプロジェクトの中で保持されます。

AutoProcess : 「Yes」に設定されていると、プロセスボタンを押さなくても、キャッシュにある全てのバッチが自動的に処理され、設定済の出力先にエクスポートされます。

SkipWebVerify : 「Yes」に設定されていると、請求書処理のワークフローで WebVerify ステップをスキップし、IRIS Powerscan 内で抽出結果を検証できます。

ExportXtractErrors : **SkipVerify** パラメータを使用する場合は、このパラメータを「Yes」に設定する必要があります。エラーのあるフィールドは、IRIS Powerscan でフラグ表示されます。

UseMasterData : Invoice プロジェクトでのこのパラメータの標準設定は「Yes」です。マスターデータを IRIS Powerscan で使用したくない場合は、「No」に設定します。その場合、すべてのインデックスフィールドを手動で書き込む必要があります。

History : プロジェクト内部のインデックスフィールドの履歴の深さを設定できます。即ち、インデックスフィールドは、何個のまで値をサポートするか、そしてそれらの値をディスクに保存するかどうか、を決めることができます。

標準設定では、0 になっています。これは、値の個数は無制限ですが、ディスクには保存されないことを意味します。換言すれば、プロジェクトは、自動的にクリーンアップされます。

このパラメータの値が0より大きい場合、値の個数は指定された整数値までに限定され、ディスク保存もされません。

このパラメータの値が0より小さい（負の）場合、値の個数は指定された整数値までに限定されますが、ディスクに保存されます。

この履歴の深さは、各フィールドで個別に定義できることを覚えておいてください。個別定義をするには、新規パラメータを追加した時に、履歴方法を定義したいインデックスフィールドを追加します。例えば、Document.Barcode.History がその一例です。

ResetVariables : このパラメータが「Yes」に設定されていると、IRIS Powerscan はスキャン後にすべてのワーキング変数をリセットします。これらの変数は、バッチおよびドキュメントの手動作成に影響を与える可能性があります。

ResetExportFlag : このパラメータの標準設定は「No」です。「Yes」に設定されると、ドキュメントとバッチレベルでエクスポートされる直前に、「IsExported」ステータスとその変数が確実にリセットされます。

注記 : この IsExported ステータスは、**詳細**パネルから手動で更新できます。更新するには、まず、既にエクスポートされているバッチかドキュメントをどれか一つ選択します。次に、ビューアーの下にある**詳細**パネルで**リセット**をクリックします。

ドキュメント 1: 7 ページ

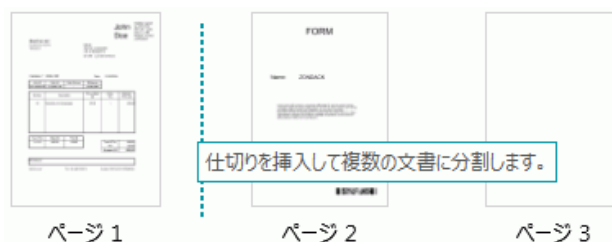
リセット

作成日: 1 分前 ステータス: エクスポート済み 正確度: 100

StrictIndexValidation: 「はい」に設定されていると、無効なインデックスフィールドを持っているバッチは、処理不能となります。標準設定では、「いいえ」になっています。

StrictIndexEvaluation: このパラメータの標準設定は「はい」です。つまり、不明な変数が存在する場合、表現式は評価されません。このパラメータが「いいえ」に設定されている場合、不明な変数は空の文字列に置き換えられます。例えば、変数、Page.Index が不明、若しくは表現式、「Page (" +Page.Index + ")」で見つからない場合、表現式は、「ページ()」として評価されます。

AllowSplitMergeInViewer: : このパラメータは、標準設定で「はい」になっていますが、これは、一つのドキュメントを複数のドキュメントに区切るために、ビューアー内でページの間仕切りの挿入が可能であることを意味しています。これを「いいえ」に設定すると、仕切りの挿入ができなくなりますが、間違っ挿入してしまう偶発的な区切りの防止にはなりません。



LineItems: 「はい」に設定されていると、明細項目が、IRIS Powerscan のインターフェースと WebVerify のインターフェースに表示されます。このパラメータは、**Invoice Add-on** がインストールされ、かつ起動している時だけ使用可能です。

ScanAfterValidation: このパラメータは、標準設定で「はい」に設定されています。これは、ユーザーが、既に検証またはエクスポートのステータスにあるバッチに対しスキャンの追加が許されることを意味します。

ExportAll: 「Yes」に設定されていると、画像のすべての異なるストリームがエクスポートされます。標準設定では、「No」になっています。これは最後のストリームのみが使用されることを意味します。

注記: Image.IsBest 条件が使用されると、このパラメータが「Yes」に設定された場合、最良のストリームのみが使用されます。

以下のパラメータは、Invoice プロジェクトを作成されている場合のみ、使用可能です。以下で説明するように、大半はカスタムパラメータとして手動で作成する必要があります。

OrderNumberKeywordSearch: 「Yes」に設定されていると、検索順序はキーワードと正規表現式で決まります。標準値である「No」に設定されていると、検索はデータベースで決まります（例えば、マスタートランザクション表）。

AutoValidateInvoiceNumber: 「Yes」に設定されていると、インボイス番号はユーザーによって承認されるフラグは立てられません。これは自動的に検証されます。標準値は「No」で、これはユーザーがインボイス番号を承認する必要があることを意味します。

AutoValidateInvoiceNumber: 「Yes」に設定されていると、文書タイプはユーザーによって承認されるフラグは立てられません。これは自動的に検証されます。標準値は「No」で、これはユーザーが文書タイプを承認する必要があることを意味します。

TaxAmount3: 「Yes」に設定されていると、Invoice Add-on で、**Net Amount 3**、**VAT Rate 3**、**VAT Amount 3** の 3 つの税率が使用されており、検証内で表示可能です。FSController は再起動する必要があります。パラメータの初期値は、「No」です。このパラメータを「Yes」に設定するには、以下で説明するように最初にパラメータを作成してから、値として「Yes」を入力します。

DocumentType: このパラメータは、標準設定で「Yes」に設定されています。これは、文書タイプがアクティベーションされており、検証で表示可能であることを意味します。このパラメータを「No」に設定するには、以下で説明するように最初にパラメータを作成してから、値として「No」を入力します。

ValueOfGoods: このパラメータは、標準設定で「Yes」に設定されています。これは、**商品の価格**、**割引**、**雑費 1**、**2** および **3** のフィールドがアクティベーションされており、検証で表示可能であることを意味します。検証でこれらのフィールドを無効にするには、パラメータを作成し、値を「No」に設定します。

Search1: 「Yes」に設定されていると、**Search1** フィールドがアクティベーションされ、検証で表示可能です。このフィールドを無効にするには、パラメータを作成し、その値を「No」に設定します。

Search2: 「Yes」に設定されていると、**Search2** フィールドがアクティベーションされ、検証で表示可能です。このフィールドを無効にするには、パラメータを作成し、その値を「No」に設定します。

カスタムパラメータを追加する

また、インデックスフィールドのラベルを翻訳するカスタムパラメータも使用できます。

仮に、英語で「invoice number」というインデックスフィールドを作成したところ、あるユーザーがインターフェース言語にフランス語を選択したので、そのラベルをフランス語に翻訳したくなったと仮定します。

- 右上隅にあるプラスサインをクリックします。
- **名前**のフィールドに、そのインデックスフィールドのラベルの名前を入力します。例えば、**Labels.InvoiceNumber[EN]** とします。
- 次に**値**フィールドにラベルの値を入力します。例えば、**Invoice number** とします。
- 以上のステップをフランス語のラベルについても繰り返します。
- 右上隅にあるプラスサインをクリックします。
- **名前**のフィールドに、そのインデックスフィールドのラベルの名前を入力します。本書の例では、**Labels.InvoiceNumber[FR]**となっています。
- 次に**値**フィールドにラベルの値を入力します。本書の例では、**Numéro de facture** です。

問題のユーザーが、インターフェース言語をフランス語に切り替えると、上記のインデックスフィールドのラベルが、フランス語で表示されます。

カスタムパラメータを使用してカスタムエラーメッセージを作成する

IRIS Powerscan 10.5 では、カスタムパラメータを使用してカスタムエラーメッセージを作成できます。

- デザイナーモードに切り替えて、**パラメータ**をクリックします。
- 右上隅にあるプラスサインをクリックします。
- **名前**フィールドで、作成したいカスタムエラーメッセージのフィールド名を入力します。「**Conditions.**」というプレフィックスが前に付き、それに括弧で囲まれた言語コードが続きます。例えば、Conditions.Field1[EN]となります。

注記：これらのパラメータは、異なる要素で構成されている場合があります。例えば、Conditions.DOCUMENTTYPE.FIELDNAME[LL] または Conditions.PAGETYPE.FIELDNAME[LL] または Conditions.BATCHTYPE[LL] となります。

注記：言語コードのおかげで、エラーメッセージをサポートされているあらゆる言語に翻訳することができます。以下の言語コードが利用できます。

EN: 英語

FR: フランス語

NL: オランダ語

ES: スペイン語

PT: ポルトガル語

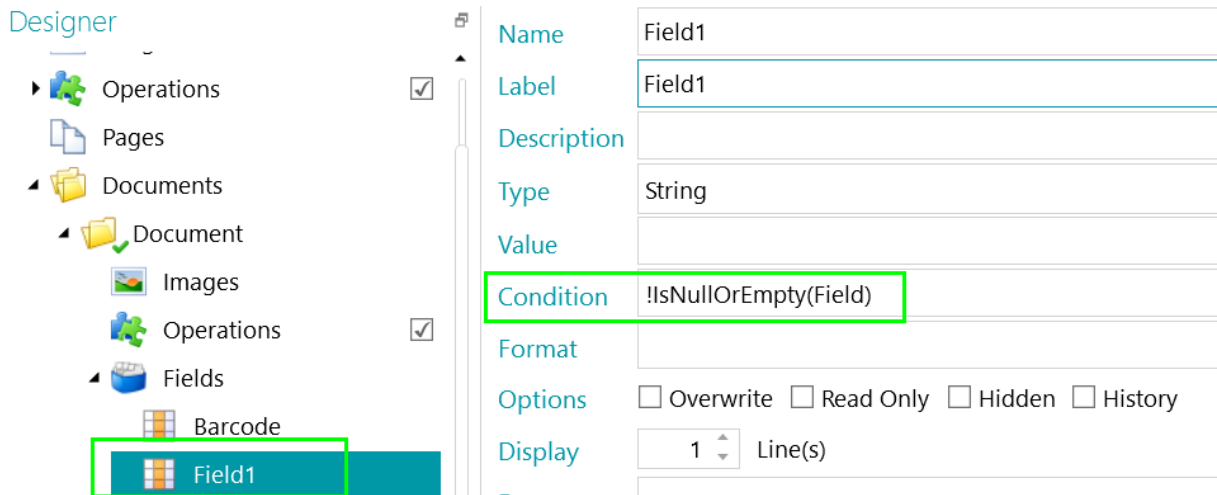
IT: イタリア語

JA: 日本語

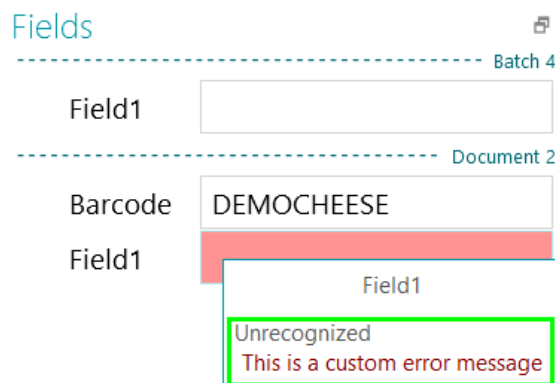
HU: ハンガリア語

CS: チェコ語

- 次に**値**フィールドにエラーメッセージの値を入力します。例えば、「これはカスタムエラーメッセージです」とします。
- カスタムエラーメッセージが必要とされるフィールドに移動し、**条件**を適用します。例えば、!IsNullOrEmpty(Field) とします。



- テスト文書をスキャンします。フィールドに対する条件が満たされていない場合、そのフィールドにカーソルを合わせると、カスタムエラーメッセージが表示されます。



削除したパラメータを復元する

一度削除すると決めたパラメータを復元するには、

- 右上隅にあるプラスサインをクリックします。
- **名前**のフィールドに削除したパラメータの名前を正確に入力します。標準パラメータの名前のリストが上に表示されます。
- 次に、復元の要件に応じて、値のフィールドに「はい」または「いいえ」を入力します。
この時の値の入力は、大文字と小文字の区別があります。
しかし、復元されたパラメータでは、Yes と No を切り替えられるドロップダウンリストは使用できなくなっている点にご注意下さい。

6. ウィザードを使ってプロジェクトを設定する

IRIS Powerscan でプロジェクトを設定する最も簡単な方法は、ウィザードを使う方法です。ウィザードを使えば、これからスキャンするページ、ドキュメント、およびバッチのタイプを簡単に定義でき、さらに、どのようにページタイプを識別してドキュメントとバッチをどう区切るか、どの画像処理操作を適用するか、スキャン出力をどの出力フォーマットに変換してどの出力先に送信するか、等を短時間で設定できます。

このウィザードは、インターフェースのどこからでも、キーボードの **F12** を押すことでアクセスできます。また、ウィザードは、ナビゲーションモードとデザイナーモードのどちらからでも、**編集タブのウィザードコマンド**をクリックして開始することも可能です。

重要： ウィザードの操作は、それがナビゲーションモードとデザイナーモードのいずれから開始されたかに拘わらず、同じです。

注記： ウィザードを使ってできるすべての作業を、デザイナーモードで手動で行うことも可能です。



ウィザードの目的

ウィザードは、プロジェクトの設定の際に出てくる質問に回答しようとしています。例えば、どうやってバッチやドキュメントやページを区切る？ 区切りの方法は、白紙ページ、バーコード、パッチコード、OCR ゾーンなどいろいろあるみたいだけど、どれを使えばよい？ 違うタイプのドキュメントもスキャンしてよい？ 違う文書タイプも同じ場所に保存するのか、それとも違う宛先に送った方がよい？ IRIS Powerscan で、全部のスキャン画像に画像処理の画像を適用してよい？ それとも特定のタイプの画像だけにしたいほうがよい？ 等々の質問です。

ヒント： [考慮すべきパラメータ](#) をご覧頂ければ、プロジェクトの設定時、どのパラメータを考慮すべきか分かります。

このウィザードの素晴らしい新機能は、たとえ既にドキュメントのスキャンをしている最中でも、プロジェクトの設定ができることです。ですから、プロジェクトを中断したり、プロジェクトセットアップを入力する必要もなく、単にウィザードを開始して必要な設定をプロジェクトに適用します。次に、**再スキャン** を使って、設定変更を既にスキャン済みのドキュメントに適用します。残りのドキュメントは、設定変更された同じ条件でスキャンされます。

ウィザードのアクション

ウィザードを使えば、以下のアクションを実行できます。

- [画像をサンプルに追加する](#)。
- スキャンする際の [ページタイプ](#)、[文書タイプ](#)、および [バッチタイプ](#)、そしてこれらをどのように区分けするかを定義する。
- [識別](#) と [区切り](#) 方法を決定する。操作を追加することで対応。
- スキャンしたすべてのページに適用すべき [画像処理操作](#) を選択する。
- [出力フォーマット](#) を選択し、スキャン済みドキュメントを送信すべき [宛先](#) を設定する。
- IRIS Powerscan のインデックスフィールドとリンクする [データソース](#) を既存のリスト内のデータソースまたは ODBC などの外部データベースに追加する。

6.1 考慮すべきパラメータ

プロジェクトを効率的に設定するため、設定作業を始める前に、予め以下のパラメータを考慮しておいたほうがよいかもしれません。

処理するドキュメントのタイプ。

- 取り扱うドキュメントには、種類の違うものがいくつもあるか？
- ドキュメントには、白紙ページが含まれているのか？
- 文書タイプによる分類は、自動とすべきか？
- 自動回転、ノイズ除去、傾き補正などの画像処理は、必要か？

作成すべきファイルのタイプ

- どの形式の出力ファイルを作成したいか、PDF、圧縮 PDF、Word ファイル、またはそれ以外？
- 処理済みのドキュメントをどこに送りたいか、フォルダ、メールでどこに、SharePoint、またはそれ以外？

階層構造

- バッチ、ドキュメント、ページの文書構造をどのように体系化すべきか？
- バッチとドキュメントの最大サイズをいくりにするか？
- 何ページ後に、新しいドキュメントやバッチを開始するか？
- バッチ、ドキュメント、そしてページの名前をどのようにつけるか？

ページの識別方法

- 特定のページタイプに対してのみ特定の操作を適用できるよう、ページはユニーク（唯一無二）なものとして識別されるべきか？

区切り方法

- ドキュメントは、バーコード、OCR ゾーン、またはパッチコードといった区切りとして使えるものを含んでいるか？
- それらのレイアウトは、使い物になるか？
- 白紙ページは、区切りとして使えるか？
- それとも、区切りは、ページ数に基づいて実行すべきか？

インデックス作成を要する値

- バッチ、ドキュメント、ページの各タイプについて、インデックスを作成すべき値とは何か？
- 値は、バーコードまたは OCR ゾーンから抽出すべきか？
- 特別のデフォルトの標準値が必要か？

6.2 サンプルに画像を追加する.

注記: ウィザードを使ってサンプルに画像を追加するには、まず、ページを現在のプロジェクトにスキャンして読み込む必要があります。

サンプルを追加する目的

IRIS Powerscan 10 で新しくなった優れた特長の一つは、ページレベルでの識別能力です。換言すれば、IRIS Powerscan は、スキャンされたページ一枚一枚をユニークなものとして識別できるのです。それ故、(画像処理やデータ抽出などの) 特定の操作を特定のページだけに適用し、処理速度を向上させることができます。しかし、そのためには、IRIS Powerscan は、スキャンされる異なるページの**サンプル**を少なくとも一つ必要とします。

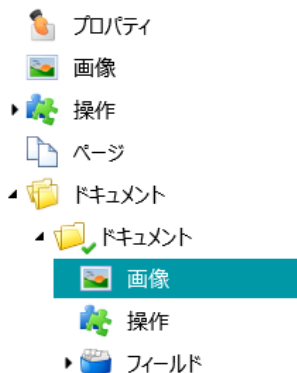
- 少なくとも1ページスキャンして読み込む
- ナビゲーションモードでサンプルに追加したいページを選びます。
ページの選択は、ナビゲーションエクスプローラ、またはビューアーのどちらからでも構いません。



ビューアーで選択された画像

- **ウィザード (F12)** を起動します。
- **サンプルに画像を追加する** をクリックします。続いて、**次へ** をクリックします。
注記: ページをまだ選択していない状態では、**サンプルに画像を追加する** という操作は、ウィザード内に表示されません。
- サンプルに付ける**名前**を入力します。
- サンプルを追加したいレベル (サンプルライブラリ、または特定のページ、文書、またはバッチタイプ) を選択します。
- 次に、**完了** をクリックします。
- どの画像がサンプルに追加されたかをチェックするために、**デザイナーモード** に切り替え、デザイナーエクスプローラの中の**画像** をクリックします。もし、サンプルを特定のバッチ、文書、またはページタイプのいずれかに追加した場合は、そのタイプを選択し、**画像** をクリックします。

デザイナー



文書タイプのレベルのサンプル画像

注記: ウィザードを使う以外にも、コピー・アンド・ペーストの単純な操作で画像を**画像**に貼り付ける方法もあります。コピー対象の画像ファイルを選択したら、追加先のレベルの**画像**を右クリックし、続いて**貼り付け**をクリックして追加します。

6.3 操作を追加する

操作を追加する目的

ウィザードを使って追加した操作は、特に、[ページ ID](#)、[ドキュメントとバッチ区切り](#)、[画像処理操作](#)などの設定に使われます。

重要な注記： あるプロジェクトで既にドキュメントのスキャンを終えた後に、操作を追加する場合、必ず編集タブの再スキャン（スキャンの下）をクリックし、新しく追加した操作がドキュメントの分類にどのような影響を与えたかをチェックします。追加した操作は、これからスキャンする後続のドキュメントすべてに適用されます。

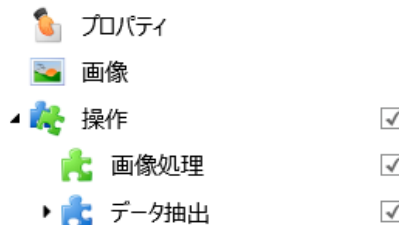
- ウィザード（F12）を起動します。
- **操作を追加する**をクリックします。続いて、**次へ**をクリックします。
- 追加したい操作を選択します。

操作を選択する



注記： リスト中の最初の二つの操作 - **画像処理**と**データ抽出** - は、各プロジェクトとも標準適用されているものです。これらはデザイナーエクスプローラ内に表示されます。

デザイナー



画像処理操作のセットの中から、どの画像処理操作をこれからスキャンするすべてのドキュメントに対して実行するか決定します。

データ抽出を使って、どのデータをスキャンしたドキュメントから抽出するか設定できます。抽出したデータは、インデックスフィールドに書き込むこともできますが、区切りの手段として利用することも可能です。例えば、バーコードゾーンや OCR ゾーンに基づいて要素を区切ることができます。

詳細は、**9 操作**のセクションを参照ください。

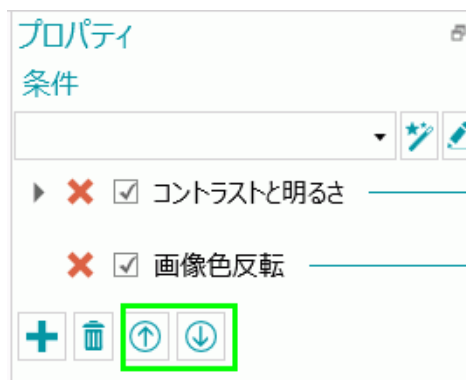
6.4 画像処理操作を追加する

画像処理操作を追加する目的

ウィザードを使えば、一組の画像処理操作を起動できるだけでなく（[操作を追加する](#)で説明済み）、特定の画像処理操作を直接適用することもできます。これらの操作は、スキャンの品質を強化し、より良好な処理結果につながります。

重要な注記： あるプロジェクトで既にドキュメントのスキャンを終えた後に、操作を追加する場合、必ず編集タブの再スキャン（スキャンの下）をクリックし、新しく追加した操作がドキュメントの分類にどのような影響を与えたかをチェックします。追加した操作は、これからスキャンする後続のドキュメントすべてに適用されます。

- ウィザード（F12）を起動します。
- **画像処理操作を追加する**をクリックします。続いて、**次へ**をクリックします。
- 追加したい操作を選択します。
但し、一度に一つの操作しか選べません。従って、一つの操作を追加したら、ウィザードに戻って次の操作を追加してください。
- 操作を選んだ順序が、操作の実行順序となりますが、この順序は、後で上下の矢印を使って変更できます。



注記： ウィザードを通じて選択した画像処理操作は、スキャンされるすべてのページに適用されます。デザイナーモードでは、ある特定の処理を特定のページ、ドキュメント、バッチだけに適用することも可能です。詳細は、[画像処理](#)をご覧ください。

6.5 ページタイプを追加する

ページタイプを追加する目的

本資料で既に述べた通り、IRIS Powerscan 10 の優れた新規性の一つは、**ページを一意に識別する**能力です。あるページを唯一無二のページとユニークに識別することにより、（画像処理、データ抽出、ページ削除などの）、操作を必要とされるページだけに適用することができるため、IRIS Powerscan の処理速度を向上させます。

ウィザードを使ってページタイプを追加していけば、識別処理をいくつかの方法で実行できるようになります。Fingerprint の検出を使用する場合、IRIS Powerscan は、読み取った画像のレイアウトを調べます。データ抽出を使用する場合、IRIS Powerscan は、所定のデータ抽出ゾーンを調べて、その内容が予め定義した条件と一致するかチェックします。

- **ウィザード** (F12) を起動します。
- **ページタイプを追加する**をクリックします。続いて、**次へ**をクリックします。
- ページタイプの名前を付けます。本書の例では、PageType1 としました。
- サンプルとして使用する画像を参照します。
重要な注記：もし、ナビゲーションエクスプローラで、あるページを選択すると、そのページは、サンプルとして自動的に追加されます。そして、他の画像を参照できなくなります。
- **識別方法**を選択します。
 - **なし**：実行する自動識別は、ありません。
 - **空白ページに基づく**：IRIS Powerscan は、識別条件、**Page.IsBlank** をページタイプに追加します。もし、この識別条件が満たされると、ページはこのページタイプと見做されます。
 - **フィンガープリントに基づく**：IRIS Powerscan は、サンプルのレイアウトを調べます。もし、スキャンされたページが、類似したレイアウトを持っていたら、これらのページは、同じページタイプに属するものと認識されます。
 - **ページインデックスに基づく**：IRIS Powerscan は、識別条件、"**Page.Index==**" をページタイプに追加します。もし、あるページがここで指定したインデックスと一致したら、そのページは、このページタイプと見做されます。
 - **データ抽出に基づく**：IRIS Powerscan は、予め定義しておいたページ上のデータ抽出ゾーンを調べます。
 - 使用したいデータ抽出ゾーンを選択します。
 - **演算子**を選択します。
 - 次に、**値**を入力します。
下図の例では、もし、選択したデータ抽出ゾーンの内容が、「Bacchus」と一致すれば、ページタイプは PageType1 と認識されることを示しています。

識別に使用される条件を指定する

<input type="checkbox"/>	Image.Zone1
演算子	等しい (==)
値	Bacchus
<input type="checkbox"/>	大文字小文字を一致させる

一度[ページタイプを識別](#)してしまえば、そのページタイプは文書タイプの区切りに使えます。これは、ウィザードを使うか、或いはデザイナーモードで手作業で行うこともできます。また、詳細は、[文書タイプを追加する](#)、および[ドキュメントとバッチの区切り](#)もご覧ください。

注記： [デザイナーモード](#)では、ページタイプに更なる設定を加えることができます。例えば、特定のページタイプに対してのみ実行する、またはある条件が整った時だけ実行する操作を定義することが可能です。

6.6 文書タイプを追加する


文書タイプを追加する目的

IRIS Powerscan は、一連の画像とスキャンのストリームを、**バッチ > ドキュメント > ページ**の論理構造に分類します。標準設定では、それぞれ一つのバッチタイプ、文書タイプ、およびページタイプが用意されています。スキャンしたすべてのページには、同じ文書タイプが割り当てられます。

文書タイプを追加すれば、作業するドキュメントの構造に合わせて IRIS Powerscan をカスタマイズすることができます。また、特定の文書タイプに対してのみ、ある操作を選択的に適用することも可能です。

- **ウィザード (F12)** を起動します。
- **文書タイプを追加する** をクリックします。続いて、**次へ** をクリックします。
- 文書タイプの名前を付けます。
- 区切り方法を選択します。
 - **なし** : IRIS Powerscan は、この文書タイプに出会っても、文書区切りを実行しません。
 - **ページ数に基づく** : IRIS Powerscan は、指定されたページ数に達した後、新規ドキュメントを開始します。
 - **空白ページに基づく** : IRIS Powerscan は、白紙ページを検出するたびに、新規ドキュメントを開始します。
 - **ページタイプに基づく** : IRIS Powerscan は、選択された指定のページタイプを検出するたびに、新規ドキュメントを開始します。このオプションは、ページタイプが少なくとも二つ定義されている時だけ有効です。前のセクションの [ページタイプを追加する](#) を参照ください。
 - **データ抽出に基づく** : IRIS Powerscan は、予め定義しておいたページ上のデータ抽出ゾーンを調べます。データ抽出ゾーンの内容が事前定義の内容と一致すると、IRIS Powerscan は、新規ドキュメントを開始します。
 - **最初のページを削除する** : これは、**空白ページに基づく**、または **データ抽出に基づく** が選択されている時に使用可能なオプションです。このオプションを選ぶと、ドキュメントの最初のページが削除されます。
- **名前付けオプション** を設定します。

標準の名前付け項目は、接頭語 + Document.Counter です。例えば、DocumentType2 とします。
名前付けのオプションは、接頭語、認識ゾーンの値、日時、デリミッタ、カウンタの組み合わせとします。これらのフィールドの隣にある下向き矢印をクリックして選んだオプションから、任意の名前にカスタマイズします。
デザイナーモードでは、[表現式エディタ](#) を使って、より詳細な名前付けオプションを設定します。



名前付けの項目を選択してください

ステップ 1	名前付け	"ドキュメント" + " " + Document.Counter
ステップ 2	接頭語	ドキュメント
ステップ 3 ドキュメントのネーミング	ゾーンの追加	<なし> ▼
	日付を追加する	<なし> ▼
	時間を追加する	<なし> ▼
	デリミッタ	<スペース> ▼

カウンタを追加する

注記： デザイナーモードでは、文書タイプに更なる設定を加えることができます。例えば、ドキュメントレベルに[インデックスフィールドを作成したり](#)、特定の文書タイプに対してのみ実行する、またはある条件が整った時だけ実行する操作を定義することが可能です。

また、[ドキュメントとバッチの区切り](#)も参照してください。

6.7 バッチタイプを追加する

バッチを追加する目的

IRIS Powerscan は、一連の画像とスキャンのストリームを、**バッチ > ドキュメント > ページ**の論理構造に分類します。標準設定では、それぞれ一つのバッチタイプ、文書タイプ、およびページタイプが用意されています。スキャンしたすべてのページには、同じ文書タイプが割り当てられます。

特定のバッチにバッチタイプを追加すれば、IRIS Powerscan をその構造にあわせてカスタマイズすることができます。また、特定のバッチタイプに対してのみ、ある操作を選択的に適用することも可能です。

- **ウィザード (F12)** を起動します。
- **バッチタイプを追加する** をクリックします。続いて、**次へ** をクリックします。
- バッチタイプの名前を付けます。
- 区切り方法を選択します。
 - **なし** : IRIS Powerscan は、このバッチタイプを検出しても、バッチ区切りを実行しません。
 - **文書数に基づく** : IRIS Powerscan は、指定されたドキュメントの数に達した後、新規バッチを開始します。
 - **空白ページに基づく** : IRIS Powerscan は、白紙ページを検出するたびに、新規バッチを開始します。
 - **データ抽出に基づく** : IRIS Powerscan は、予め定義しておいたページ上のデータ抽出ゾーンを調べます。データ抽出ゾーンの内容が事前定義の内容と一致すると、IRIS Powerscan は、新規バッチを開始します。
 - **最初のページを削除する** : これは、**空白ページに基づく**、または**データ抽出に基づく**が選択されている時に使用可能なオプションです。このオプションを選ぶと、バッチの最初のページが削除されます。

注記 : デザイナーモードでは、バッチタイプに更なる設定を加えることができます。例えば、ドキュメントレベルに[インデックスフィールドを定義したり](#)、特定の文書タイプに対してのみ実行する、またはある条件が整った時だけ実行する操作を定義することが可能です。

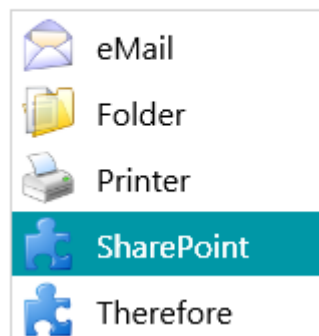
また、[ドキュメントとバッチの区切り](#)も参照してください。

6.8 出力タイプを追加する

IRIS Powerscan は、スキャンしたドキュメントを様々な出力フォーマットに変換し、多数の想定される宛先に送ることができます。ウィザードを使って出力タイプを追加しておけば、簡単に、送信するドキュメントに求められる [出力フォーマット](#) を選択し、[出力先](#) を設定できます。

- **ウィザード (F12)** を起動します。
- **出力タイプを追加する** をクリックします。続いて、**次へ** をクリックします。
- **名前** を入力します。名前はユーザーにとって意味のあるものとします。
- リストから目的とする [出力フォーマット](#) を選択します。続いて、**次へ** をクリックします。
複数の文書タイプが定義されている場合、ドキュメント出力をどれか特定の文書タイプに適用するか、またはすべての文書タイプに適用するか、を聞かれます。どちらかを選択します。続いて、**次へ** をクリックします。
- 次に、リストから [出力先](#) を選択し、**次へ** をクリックして設定を有効にします。

出力先を選択する



- **電子メール** を選択した場合、受信者のアドレスとメール設定を入力するよう求められます。
- **フォルダ** を選択した場合、**パス** を入力するよう求められます。標準のパスは、ドキュメントのフォルダです。
- **クラウドの出力先** を選択した場合、**サーバー** および / または **ユーザー名**、そして **パスワード** を入力するよう求められます。

6.9 データ ソースを追加する

ウィザードを経由してデータソースを追加することにより、Microsoft Access のように、IRIS Powerscan 内のインデックスフィールドを数値リストや外部の ODBC データベースにリンクさせることができます。

データソースの使用方法は、[スキャンしたドキュメントのインデックス作成](#) > [データソースを使う](#) で説明します。

7. IRIS Powerscan 10 でドキュメントを処理する

メインの処理ステップ

IRIS Powerscan で処理されるドキュメントは、次の三段階のメインステップを通ります。

1. キャプチャ
2. 検証
3. エクスポート

これらの処理ステップ、即ちアクティビティ、のうち実行できるステップが一つだけか、またはそれ以上かは、そのユーザーの使用権に依存します。

重要： この三つの処理ステップは、いずれもバックグラウンドで実行することができます。下記の[バックグラウンド処理](#)をご覧ください。

1. キャプチャ

キャプチャを実行するには、[スキャナ](#)を使用する方法、[フォルダからスキャンする](#)方法、そして[クラウド](#)から読み込む方法があります。

2. 検証

ドキュメントは、スキャンされると同時に、[ナビゲーションモード](#)で表示されます。このモードでは、スキャン後の操作に必要なあらゆるツールが利用可能です。これらのツールを使って、今すぐにでも、作成した画像や[インデックスフィールド](#)を検証することができます。

3. エクスポート

ドキュメントとそのインデックスフィールドの検証が完了したら、エクスポートできる状態です。IRIS Powerscan は、数多くの[出力フォーマット](#)に対応し、様々な[ターゲットシステム](#)にドキュメントをエクスポートできます。

ヒント： これまでにエクスポートされたことのないドキュメントとバッチのみをエクスポートする場合は、`!Document.IsExported` と `!Batch.IsExported` の条件が使用できます。[表現式を使用する](#)も参照してください。

名前	Document
説明	
名前付け	Document.Type + " " + Document.Counter
条件	!Document.IsExported

エクスポート済のバッチを管理する

現在処理中のバッチのステータスをアプリケーションメニューで確認することができます。この確認を行うには、[ファイル > 管理](#)をクリックします。

すると、処理中のバッチとそのプロジェクト、担当ユーザー、ステータス、実行済みアクティビティなど現在進行しているバッチの処理の概況が表示されます。

プロジェクト - IRIS Powerscan 10

←

情報

ログイン

作成

開く

保存

名前を付けて保存...

管理

管理

▼ 名前	▼ プロジェクト	▼ 日付	▼ アクティビティ	▼ ステータス
Batch 1	Document Types Recognition	2016/08/12 11:57:50	検証	準備できました
Batch 1	Barcode Recognition	2016/08/11 16:44:14	検証	準備できました
Batch 5	Blank Page	2016/08/12 13:02:30	検証	準備できました
Batch 1	Checkmarks	2016/08/12 10:49:18	検証	準備できました

バッチの履歴を確認する

- 一つのバッチを選択し、履歴アイコン をクリックします。

バッチ 1
✕

履歴

日付	アクティビティ	ステータス	ユーザー
8/11/2016 4:38:38 PM	キャプチャ	準備できました	guest
8/11/2016 4:39:42 PM	キャプチャ	完了	guest
8/11/2016 4:39:42 PM	検証	準備できました	guest

バッチのロックを解除する

もしも、あるユーザー - またはサービス - が、あるバッチのアクティビティを実行したら、現在処理中のバッチは、そのユーザーまたはサービスがエクスポートを終えるまで、ロックされます。もし、バッチがロックされたままでなければならぬ場合でも、手作業でそのロックを解除する方法があります。

- ロックを解除したいバッチを右クリックします。
- 次に、**ロックを解除する**をクリックします。

しかしながら、この機能は、回復手法として利用することを意図したものです。そして、トラブルの診断の目的だけに使用すべきであり、標準手順として使用するものではありません。

注記： もし、あるバッチのロック解除の機能が見当たらないなら、それは、そのバッチがすでにロック解除されていることを意味します。

バッチを送り直す

バッチのステータスに、何かのエラーが発生したことを示す「エラーあり」が表示された場合、ユーザーは、処理を再試行することで対処できます。

- 一つのバッチを選択し、履歴アイコン をクリックします。
- リストから再試行を必要とするアクティビティを選択します。
- 再試行アイコン をクリックします。
すると、バッチのステータスは「実行可能」に変わり、バッチは、ナビゲーションモードで再度、処理が可能な状態となります。

バッチを参照する

この機能を使えば、たとえ別のプロジェクトの作業中でも、正しいプロジェクトの中の参照したいバッチを直接開くことができます。

- 参照をクリックしてバッチが属するプロジェクトを開き、選択したバッチをインポートします。
- または、バッチを右クリックし、開くを選択します。

注記：もし、この参照機能が使用できないなら、それは、他のプロジェクトには現在処理中のバッチがないか、またはそのバッチがロックされたままであることを意味します。

バッチを削除する

- 削除したいバッチを選択します。
- 削除アイコンをクリックして、選んだバッチを削除します。
- または、バッチを右クリックし、削除を選択します。

注記：IRIS Powerscan 10.4 では、Invoice バッチをこのセクションから削除する場合に、WebVerify ジョブのリストからも削除することができます。

バックグラウンド処理

あるアクティビティをバックグラウンドで実行している時、そのアクティビティは、IPsService と呼ばれる IRIS Powerscan サービスによって実行されています。

IRIS Powerscan サービスは、キャプチャ、検証、およびエクスポートがサービスによって実行されている場合に、それらを処理している PSxConsole プロセスを開始および停止する役割を担っています。

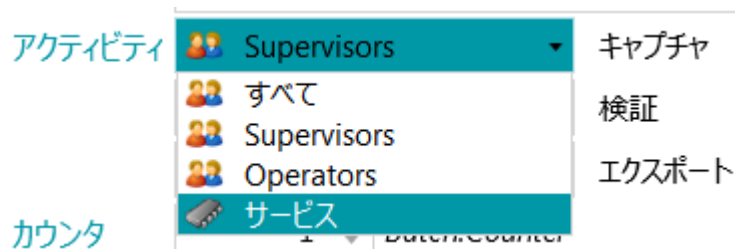
利用可能なリソース、およびプロジェクトの設定値（キャプチャがサービスにより実行されている場合）により、複数の IPSxConsoles が一度に開始されることがあります。

サービスは、一般的なタスクであるキャプチャや検証には無料で使用できます。ただし、エクスポートがサービスにより実行されるためには、[Background Processing add-on](#) を起動する必要があります。

サービスでは、コンピュータが許す限りのリソースが使用されます。コンピュータのコア数が多いほど、より多くの並行処理でサービスを実行できます。

アクティビティをサービスを使ってバックグラウンドで実行する手順は以下の通りです。

- プロジェクトを開き、デザイナーモードに切り替えます。
- プロパティをクリックします。
- アクティビティのセクションで、どのユーザーグループが、バックグラウンド処理の実行を許されているか確認します。
標準設定では **Supervisors** のグループがすべてのアクティビティについて許可されています。ローカルユーザーとユーザーグループをカスタマイズする方法は、[ユーザーとグループを管理する](#)をご覧ください。



- バックグラウンド処理を必要とするアクティビティを選択し、続いて、サービスを選択します。
キャプチャのアクティビティが、サービスによって実行され、かつフォルダが、ソースとして選択されていた場合、そのフォルダは、今後、[監視フォルダ](#)として機能します。

検証のアクティビティが、サービスにより実行される場合、ユーザーが手作業でインデックスフィールドを検証する必要はありません。

エクスポートのアクティビティが、サービスにより実行される場合、ドキュメントは、処理が終わると同時に速やかに、設定済みの出力先へ自動的にエクスポートされます。

注記： これらのアクティビティを実行するには、**IRIS Powerscan Server** を使う方法もあります。その場合、IRIS Powerscan Server は、もはやバックグラウンド処理を実行するローカルの IRIS Powerscan ステーションではなく、中央のサーバーです。

注記： クライアント/サーバーでは、IRIS Powerscan サービスは異なるタスクを実行します。

- クライアントとサーバー間で、プロジェクトとユーザーの権利が同期されます。
- クライアントとサーバー間で、バッチのステータスが管理れます。
- クライアントとサーバー間で、バッチの転送が管理れます。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、IRIS Powerscan Server のアプリケーションを開き、ファイル > ヘルプをクリックしてください。

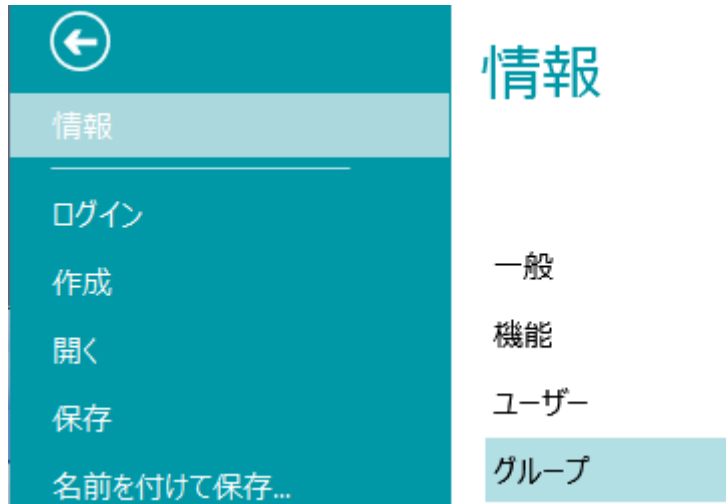
7.1 グループとユーザーを管理する

IRIS Powerscan 10 では、**ローカルユーザー**と**ローカルグループ**を作成し、その権限を規定することができます。ユーザーが、自身に与えられた認証情報を使ってログインする時、そのユーザーが実行できるタスクは、権限を与えられたタスクだけに限定されます。

注記： IRIS Powerscan Server にログイン可能なユーザーとグループを設定したい場合、その設定は、**IRIS Powerscan Server** のアプリケーションで実施しなければなりません。

IRIS Powerscan Server の資料を見るには、IRIS Powerscan Server のアプリケーションを開き、ファイル > ヘルプをクリックしてください。

IRIS Powerscan のメインのアプリケーションでローカルユーザーとグループの設定にアクセスするには、**ファイル > 情報 > ユーザー/グループ**の順にクリックします。



グループを定義する

ユーザーの権限は、**グループ**セクションで定義されます。同じグループに属するユーザーは、皆同じ権限を持っています。このようにすれば、ユーザーごとに権限を規定する手間が省けます。

IRIS Powerscan では、二つの標準グループが用意されています。即ち、**Operators** と **Supervisors** です。

Supervisors のグループは、すべてにアクセスできる権限を持っています。言い換えれば、Supervisors は、あらゆる設定操作を行うことができます。Supervisors のグループの権限は、変更することができません。

Operators のグループは、標準設定により IRIS Powerscan を使ったドキュメントのスキャンと処理は認められていますが、上級設定を行うことはできません。Operators のグループの権限は、変更することができません。

また、上記のグループ以外に、権限を独自に規定して、カスタマイズされたグループを作成することも可能です。

- 新規グループの **名前**を入力します。
- 標準のユーザーアイコンを変更するには、アイコンの一覧から別のアイコンを選択します。
- 新規グループに属するユーザーに与える権限を選択します。この時のインターフェースでは、権限に対応するコマンドだけが、選択可能となります。
- 次に、**OK** をクリックして、確定します。

ユーザーを定義する

IRIS Powerscan では、二つの標準ユーザーが用意されています。即ち、**guest** と **SysAdmin** です。両者とも **Supervisors** のグループに属し、故にすべての**権限**を与えられています。

ユーザーを追加、または編集するには、以下の手順に従います。

- プラスサインをクリックします。
- **新規ユーザー**の名前を入力します。
- パスワードを適用するには、**パスワードの変更**をクリックします。
 - 今回初めてパスワードを属性化する場合、**古いパスワード**のフィールドは空のままにして、**新しいパスワード**のフィールドにパスワードを入力し、最後に間違いがないか確認します。
- 標準のユーザーアイコンを変更するには、アイコンの一覧から別のアイコンを選択します。
- もし、新規ユーザーがドメインの一部である、または一部でなければならぬ場合、**ドメイン**のフィールドにドメイン名を入力します。
- 新規ユーザーの**ステータス**は、標準設定により**アクティブ**に設定されます。
 - ユーザーのステータスを後で非アクティブ化するには、このメニューに戻って**非アクティブ**を選択します。
- **言語**の一覧からインターフェース言語を選択します。
そのユーザーがログインした時、インターフェースは、選んだ言語で表示されます。
- 測定結果を表示する際の**単位**をセンチメートル、インチ、または画素の中から選択します。
- そのユーザーを追加したい**グループ**を選択します。
標準設定のグループは、**Supervisors** と **Operators** です。
それ以外のグループにユーザーを追加したい場合は、**グループ**のセクションで、まずそのグループを作成してください。

ユーザー ✕

名前	<input type="text" value="user"/>	パスワードの変更 
ドメイン	<input type="text"/>	
ステータス	<input checked="" type="radio"/> アクティブ <input type="radio"/> 非アクティブ	テーマ <input checked="" type="checkbox"/> 標準 
言語	<input type="text" value="日本語"/>	
単位	<input type="radio"/> センチメートル <input type="radio"/> インチ <input checked="" type="radio"/> 画素	
グループ	 Supervisors	

8. ドキュメントをスキャンする

プロジェクトの作成を完了し、その中での移動方法を理解したら、ドキュメントのスキャンを開始できます。

重要： IRIS Powerscan 10 では、たとえ、複数のドキュメントをスキャンした後も、作業の進行に伴って、プロジェクトの設定を変更することが可能です。その場合、**再スキャン** を使うだけで、どのような設定変更も既にスキャン済みのドキュメントに適用されます。



IRIS Powerscan 10 では、ドキュメントのスキャン用に以下の異なる方法を用意しています。

- [スキャナを使用する](#)
- [フォルダからスキャンする](#)
- [クラウドからスキャンする](#)
- [XMailFetcher からスキャンする](#)

ナビゲーションモードでソースを切り替える

複数の入力ソースを設定した場合、ナビゲーションモードでそれらのソース間の切り替えができます。

- **編集** タブの **スキャン** の下にある下向き矢印をクリックします。
- 使いたいソースを選択します。



- **設定**をクリックし、選んだソースの設定にアクセスします。

スキャン・サマリーを表示する

もし、スキャンが終了するたびにスキャン・サマリーを表示させたいならば、[設定ペイン](#) > [パラメータ](#) で開いた中のスキャン・サマリーパラメータを「はい」に設定します。

スキャン・サマリーは、スキャンされたページの総数と画像の総数を表示します。最初の数字は、最後のスキャンでスキャンされたページ数（下の例では 7）、一方、2 番目の数字は、アプリケーションを開いて以降スキャンされたページ数（下の例では 14）を示しています。



8.1 スキャナを使用する

IRIS Powerscan は、事実上すべての Twain バージョン 1.9 以上の Twain 仕様のスキャナと互換性があります。

もし、お使いのスキャナが ISIS 仕様の場合は、**ISIS-ドライバダウンロード**がアクティベーションされていることを確認してください。

重要： スキャナを IRIS Powerscan と組み合わせて使用する前に、スキャナの電源は入っていて、そのドライバはシステムにインストールされていることを確認してください。

重要：

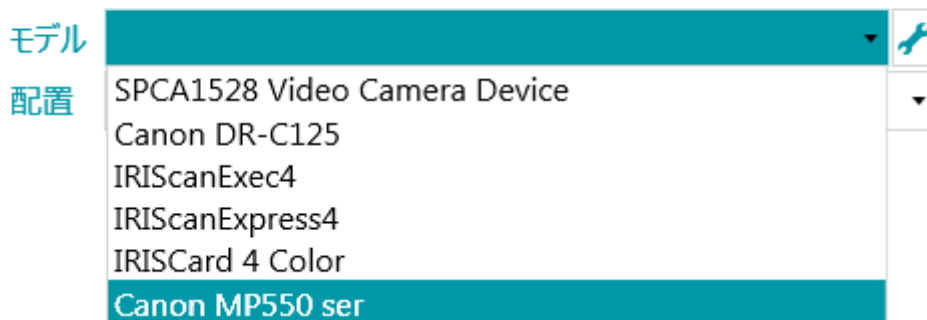
複数のストリーム、特に3つのストリーム（例えば、カラー、グレースケール、および白黒）を使用する場合、圧縮された画像を使用する必要があります。未圧縮の画像は、問題を引き起こしたり、スキャンが非常に遅くなったりする場合があります。

スキャナをスキャンソースに設定する

新規プロジェクトの場合：

- ウィザードを使って、新規プロジェクトを**作成**します。
- **スキャナ**を入力ソースとして選択します。
以降、ウィザードのステップを、設定が完了するまで続けます。
- プロジェクトが、ナビゲーションモードで開きます。**編集**タブで、**スキャン**の下にある下向き矢印をクリックし、続いて、**設定**をクリックします。
- 設定用アイコンをクリックして、ドライバを選択します。
- 次にドロップダウンリストをクリックし、使用できるスキャナを表示します。
注記： もし、リストが空ならば、システムに登録されたスキャナが無いことを示しています。
- リストから使用するスキャナを一台選択します。次に、**OK** をクリックします。

スキャナ設定を指定してください



- **配置**のドロップダウンリストの中で、スキャナから出力されるドキュメントをどのように分割または統合したいかを選択します。
 - **無効：** ページは分割されません。
 - **長辺を分割：** ページをその長辺に沿って分割します。
 - **縦に分離：** ページを垂直に分割します。
 - **横に分離：** ページを水平に分割します。
 - **水平方向に折りたたんで分割 (IPS9)：** A3 サイズのページを水平に2枚の A4 サイズのページに折りたたんで分割します。
 - **長辺を統合：** 2枚の連続するページをそれらの長辺に沿って統合します。
 - **垂直統合：** 2枚の連続するページを垂直方向に統合します。
 - **水平統合：** 2枚の連続するページを水平方向に統合します。
- もし、スキャナに片面だけスキャンさせたいなら、**強制片面**を選択してください。

重要：ドキュメントを、Invoice Add-on (SPAP、Solution Package Accounts Payable) にスキャンする際は、スキャン設定の**強制片面**オプションを選択する必要があります。これは、Invoice モジュールでは奇数ページ以外は対応していないためです。

- **インプリンター**（このオプションは、スキャナがインプリンターの機能をサポートしている場合のみ表示されます）：スキャナにスキャンへ追加して欲しい値を入力します。

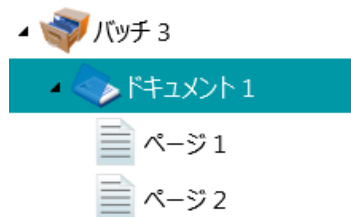
既存のプロジェクト（入力ソースとしてのスキャナがない）の場合：

- プロジェクトを開き、デザイナーモードに切り替えます。
- **プロパティ**をクリックします。
- ソースの隣にある**プラスサイン**をクリックします。
- **スキャナ**を選択し、**作成**をクリックします。
- 設定用アイコンをクリックして、**ドライバ**を選択します。
- 次にドロップダウンリストをクリックし、使用できるスキャナを表示します。
注記：もし、リストが空ならば、システムに登録されたスキャナが無いことを示しています。
- リストから使用するスキャナを一台選択します。次に、**OK** をクリックします。
ここからの設定手順は、上記の新規プロジェクトで説明した手順と同じです。

スキャンを開始する。

- **スキャン**、または大きなスキャナのアイコンをクリックして、スキャンを開始します。
スキャンした文書は、バッチ、ドキュメント、そしてページに分類されます。

ナビゲーション



8.2 フォルダからスキャンする

IRIS Powerscan は、スキャンのソリューションでありながら、スキャナを使う必要がありません。それは、フォルダからもスキャンできるからです。

フォルダからスキャンするには、次のいずれかの操作を行います。

- 新規プロジェクトを**作成**し、**フォルダ**をソースとして選択します。
- 既存のプロジェクトに**フォルダ**をソースとして追加します。

フォルダをソースとして設定する

新規プロジェクトの場合：

- ウィザードを使って、新規プロジェクトを**作成**します。
- **フォルダ**を入力ソースとして選択します。
- **次へ**をクリックして、**フォルダ**の設定を行います。
なお、このフォルダ設定は、このトピックの最後に説明します。
- ウィザードの残りのステップに進み、最後に**完了**をクリックします。

既存のプロジェクト（入力ソースとしてのフォルダを持たない）の場合：

- プロジェクトを開き、デザイナーモードに切り替えます。
- **プロパティ**をクリックします。
- **ソース**の隣にある**プラスサイン**をクリックします。
- リストから**フォルダ**を選択し、**追加**をクリックします。
ここで、**フォルダ**が、ソースとして追加されます。

ソース + 名前の変更

パス System.InputDirectory

ファイルフォーマット すべての画像ファイル (*.jpg;*.jpeg;*.tif;*.tiff;*.png;*.bmp;*.pdf)

並べ替え 未整列

配置 無効

両面

反復

フォルダ内容を表示してインポートする画像を選択する

ファイルを表示してインポートする画像を選択する

非表示ファイルを無視します

スキャン後にファイルを削除する




解像度 200

タイマー 10

バックアップ 上書き

フォルダの設定

パス

- 参照アイコン () をクリックし、スキャンするフォルダを選択します。
- 表現式をカスタマイズするために、ペンシルアイコン () をクリックし、[表現式エディタ](#)を開きます。
重要： 表現式をカスタマイズする時は、必ず、異なる要素の間に「+ "\" +」を入れてください。
二重引用符 (" ") の間には、決まった値を使うこともできます。例えば、"C:\Images"
- スキャンしたいフォルダがパスワードで保護されている場合、南京錠のアイコン () をクリックします。
 - 自分の (ドメインの) **ユーザー名**を入力します。例えば、IRIS_DOM\MyName とします。
 - 続いて、**パスワード**を入力します。
 - パスワードの**確認**を行ったら、**OK** をクリックします。

認証情報 ✕

ユーザー名

パスワード

パスワードの確認

OK キャンセル

ファイルフォーマット

IRIS Powerscan は、標準設定により、*.jpg、*.jpeg、*.tif、*.tiff、*.png、*.bmp、および *.pdf の拡張子で終わるすべてのファイルを検索します。

並び替え

スキャンしたファイルの並び替えをどのように行うか、即ち、名前のアルファベット順、作成日順、変更日順、或いは並び替え不要とするか、を選択します。

配置

- 無効**：ページは分割されません。
- 長辺を分割**：ページをその長辺に沿って分割します。
- 縦に分離**：ページを垂直に分割します。
- 横に分離**：ページを水平に分割します。
- 水平方向に折りたたんで分割 (IPS9)**：A3 サイズのページを水平に2枚のA4サイズのページに折りたたんで分割します。
- 長辺を統合**：2枚の連続するページをそれらの長辺に沿って統合します。
- 垂直統合**：2枚の連続するページを垂直方向に統合します。
- 水平統合**：2枚の連続するページを水平方向に統合します。

その他のオプション

- **両面**を選択し、IRIS Powerscan に奇数ページを表面、そして偶数ページを裏面として処理させます。両面スキャナを使用している時は、このオプションを選択します。
- **反復処理**を選択し、IRIS Powerscan に選択された入力フォルダのサブフォルダにあるファイルも処理させます。
- **スキャン開始前にフォルダを参照**（フォルダを監視フォルダとして使用している場合は適用不可）：**スキャン**をクリックするたびに、入力フォルダを指示するよう求められます。
- **スキャン開始前にファイルを参照**（フォルダを監視フォルダとして使用している場合は適用不可）：**スキャン**をクリックするたびに、一つまたは複数のファイルを選択するよう求められます。
- **非表示ファイルを無視します**：このオプションが選択されている時、非表示ファイルはスキャンされません。
- **スキャン後にファイルを削除する**：このオプションが選択されている時、ファイルは、スキャン後に削除されます。

解像度

PDF ファイルをインポートする際、インポートされるファイルの**解像度**を選択できます。解像度は、100 DPI から 600 DPI の範囲から選べます。通常は、300 DPI をお勧めします。

このオプションは画像ファイルに適用されることもなく、スキャナの解像度が変更されることもありません。

タイマー

あと何秒後に IRIS Powerscan がフォルダ内の画像を処理しなければならないかを表示します。

注記：このオプションは、フォルダを**監視フォルダ**として使っている時だけ有効です。以下を参照ください。

信号

信号オプションは、[接続プロジェクト](#)を使用している時に使います。詳細は、[対応するトピック](#)を参照ください。

バックアップ

ファイルのバックアップをとりたい時は、参照アイコンをクリックし、ファイルを保存するフォルダを選択します。または、ペンシルアイコンをクリックして、[表現式](#)を利用します。

ファイルを同じ名前の上書きする時は、**上書き**を選択します。

ファイルをプロジェクトに移す

ドラッグ・アンド・ドロップのマウス操作で、ドキュメントをファイルフォルダ、または電子メールアプリケーションからプロジェクトに移動することもできます。

8.2.1 フォルダを監視フォルダとして使う

あるフォルダを監視フォルダとして IRIS Powerscan にモニターさせることもできます。IRIS Powerscan は、監視フォルダの中に新しいドキュメントを見つけると、直ちにそのドキュメントの処理を行います。

この監視フォルダ機能のおかげで、IRIS Powerscan は、簡単に複合機と組み合わせることができるのです。

監視フォルダを使用する場合の経験則

- 監視フォルダ機能は、最大 10 個の監視フォルダを処理するために設計されています。
- 1 つのプロジェクトで、1 度に 1 フォルダ監視できます。
そのため、複数の監視フォルダプロジェクトを設定する場合、単一の監視フォルダが複数のプロジェクトにより監視されていないことを必ず確認してください。
- 監視フォルダには大きなファイルを入れないことをお勧めします。いずれの形式のファイルでも、300MB までに制限するべきです。
大きなファイルも処理できますが、全体的な性能が低下します。
- PDF とは対照的な、TIFF や、複数の TIFF と JPEG などの画像ファイルを使用する方が良いでしょう。
PDF も使用できますが、展開と処理に、より大きな処理能力が必要となります。
- コンピュータのコア数が多いほど、処理速度は速くなります。
- バーコードと Fingerprint に基づいた区切りも、全体的な性能に影響を与えることがあります。
複雑な区切りプログラムの使用した場合の最悪のケースでは、全体的な処理速度が通常の半分になる可能性があります。

- 選択する出力フォーマットも重要です。iHQC 出力は、画質因子により、100%から 500%の速度まで様々です。

フォルダを監視フォルダとして使うプロジェクトを設定する

フォルダを監視フォルダとして使うプロジェクトを設定する前に：

- インターフェースの左下隅の信号アイコンをクリックして、サービスを停止します。
サービスが停止されていると、赤信号が表示されます。

警告： サービスとコピー/貼り付けプロジェクトを停止せずに複数の監視フォルダを作成すると、サービスはフォルダを監視し始め、予測不可能な結果が起こる可能性があります。



- 以下で説明するように、監視フォルダが設定します。
- 完了したら、プロジェクトを保存し、信号アイコンをもう一度クリックしてサービスを再起動します。

あるフォルダを監視フォルダとして使うには、次の手順に従います。

- 現在のプロジェクトをデザイナーモードに切り替えます。
- プロパティをクリックします。
- タイマーを必要な秒数にセットします。（前述のフォルダの設定を参照してください）
- アクティビティの横にあるキャプチャのドロップダウンリストを開いて、サービスを選択します。

注記： サービスによるキャプチャの実行に、**Background Processing add-on** は必要ありません。



注記： もし、この時、**検証**と**エクスポート**も選択すれば、スキャンされたドキュメントは、ユーザーの介在が求められることなく、自動的に IRIS Powerscan で処理されて、設定された出力先に送られます。もし、ユーザーに手動でインデックスの検証をさせたいならば、**検証**のドロップダウンリストの中でユーザーを選択しないでください。

重要： エクスポートをサービスとして実行するためには、**Background Processing add-on** をアクティブ化する必要があります。

重要： また、**IRIS Powerscan Server** をキャプチャも実行するように設定することができます。その場合、監視フォルダをモニターするのは、IRIS Powerscan のローカルインスタンスではなく、**IRIS Powerscan Server** になります。

フォルダの入力ソースとしての設定が完了したら、**スキャン**をクリックして、ドキュメントのスキャンを開始します。

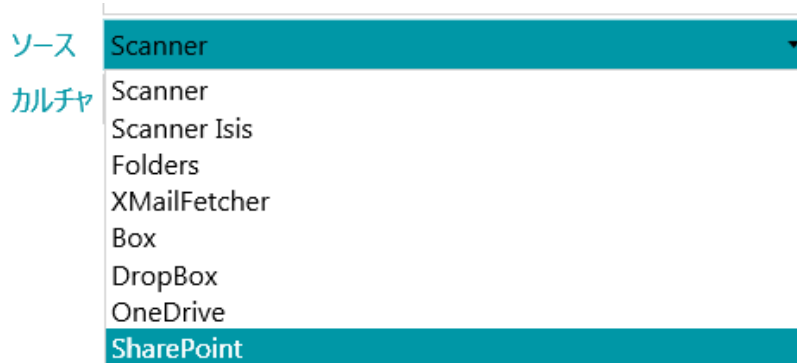
ヒント： 詳細およびベストプラクティスについては、監視フォルダの技術ノートをご覧ください。

8.3 クラウドからスキャンする

IRIS Powerscan 10 は、SharePoint、OneDrive、box、Dropbox などのクラウドサービスからドキュメントをスキャンすることができます。そのためには、クラウドのアカウントが有効で、接続設定が正しくなされていなければなりません。

クラウドのリポジトリ（保存場所）を入力ソースとして設定するには、以下の手順に従います。

- プロジェクトを**作成**し、入力ソースにクラウドサービスの一つを選択します。
或いは、既存のプロジェクトで、**デザイナーモード** > **プロパティ**に切り替えます。ソースの隣にあるプラスサインをクリックし、クラウドのソースの一つを選択します。



- クラウドのアカウントのサーバー、および/または認証情報を入力します。

SharePoint を設定する

- ソースとして **SharePoint** を選択し、**次へ**をクリックします。

ステップ1

- サーバー**の URL を入力します。
- 必要な場合は、**ユーザー名とパスワード**を入力します。
この時、ユーザー名やパスワードの入力が要求されるか否かは、SharePoint の設定で決まります。必要ならば、システム管理者に連絡してください。
お使いのコンピュータがドメイン内にある場合、ユーザー名の前のバックスラッシュの直前にドメイン名を追加する必要があるかもしれません。例えば、Your_Domain\jsmith といった具合です。
- 次へ**をクリックして、接続を確立します。

ステップ2

- 接続が成功し、そして SharePoint のサーバーがライブラリを持っている場合、利用可能なライブラリの一覧が表示されます。
- インポートしたいドキュメントのあるライブラリを選択し、**次へ**をクリックします。

ステップ3

- これで、ライブラリ内部の、目当てのドキュメントのインポート元となる特定のフォルダを選択できます。もし、フォルダを選択しなければ、ドキュメントは、ライブラリのルートディレクトリからインポートされます。

ステップ4

- 次に、コンテンツタイプを選択します。
- ウィザードの残りのステップに従ってください。

OneDrive、Box、および Dropbox を設定する

- ソースを選択し、**次へ**をクリックします。
- 認証情報を入力し、**次へ**をクリックします。
- フォルダを選択し、**次へ**をクリックします。
注記： もし、フォルダを選択しなければ、ドキュメントは、ルートディレクトリからインポートされます。

8.4 XMailFetcher からスキャンする

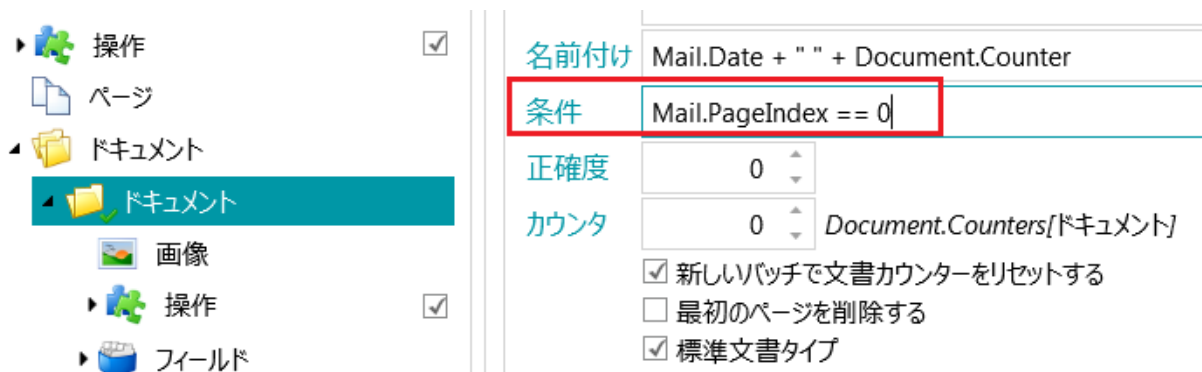
重要： XMailFetcher からスキャンを行うためには、予め、XMailFetcher をお使いのコンピュータにインストールし、設定を済ませておかなければなりません。XMailFetcher とその資料をお求めの際は、I.R.I.S. または Canon の代理店にご連絡ください。

まえがき

XMailFetcher は、簡単操作のアプリケーションソフトで、着信メールをモニターし、既存のシステム、本書の場合は IRIS Powerscan に転送してくれます。電子メールとその添付物は、TIFF ファイルに変換され、出力フォルダに送られると、今度は、IRIS Powerscan によって、そのフォルダがモニターされます。

標準設定では、IRIS Powerscan は、すべての電子メールを一つのバッチとドキュメントに追加します。すべての添付ファイルも同じバッチとドキュメントに追加されます。

ヒント： IRIS Powerscan に一通の電子メールにつき一つのドキュメントを作成させたい場合、ドキュメントレベルで `Mail.PageIndex == 0` という条件を使用します。電子メールの区切り方は、「通常の」ドキュメントと同じで、唯一の違いは、ドキュメントの変数の代わりにメールの変数を使う点です。利用できる変数についての詳しい情報は、[表現式を使う](#) をご覧ください。



IRIS Powerscan に一つの添付ファイルにつき一つのドキュメントを作成させたい場合、ドキュメントレベルで `Input.PageIndex == 1` という条件を使用してください。

XMailFetcher を IRIS Powerscan

新規プロジェクトの場合：




- ウィザードを使って、新規プロジェクトを[作成](#)します。
- **XMailFetcher** を入力ソースとして選択します。
- **次へ**をクリックして、**XMailFetcher** の設定を行います。
なお、このフォルダ設定は、このトピックの最後に説明します。
- ウィザードの残りのステップに進み、最後に**完了**をクリックします。

既存のプロジェクト（入力ソースとしての XMailFetcher を持たない）の場合：

- プロジェクトを開き、デザイナーモードに切り替えます。
- **プロパティ**をクリックします。
- ソースの隣にあるプラスサインをクリックします。
- リストから **XMailFetcher** を選択し、**追加**をクリックします。
ここで、XMailFetcher が、ソースとして追加されます。

XMailFetcher の設定

パス

- 参照アイコン () をクリックし、スキャンするフォルダを選択します。
重要：入力フォルダは、XMailFetcher のアプリケーションで設定した **出力ディレクトリ** のフォルダでなければなりません。
- 表現式をカスタマイズするために、ペンシルアイコン () をクリックし、**表現式エディタ** を開きます。
重要：表現式をカスタマイズする時は、必ず、異なる要素の間に「+ "\ " +」を入れてください。
二重引用符 (" ") の間には、決まった値を使うこともできます。例えば、"C:\Images"
- スキャンしたいフォルダがパスワードで保護されている場合、南京錠のアイコン () をクリックします。
 - 自分の**ドメインのユーザー名**を入力します。例えば、IRIS_DOM\MyName とします。
 - 続いて、**パスワード**を入力します。
 - パスワードの**確認**を行ったら、**OK** をクリックします。

認証情報 ×

ユーザー名

パスワード

パスワードの確認

配置

- 無効**：ページは分割されません。
- 長辺を分割**：ページをその長辺に沿って分割します。
- 縦に分離**：ページを垂直に分割します。
- 横に分離**：ページを水平に分割します。
- 水平方向に折りたたんで分割 (IPS9)**：A3 サイズのページを水平に 2 枚の A4 サイズのページに折りたたんで分割します。
- 長辺を統合**：2 枚の連続するページをそれらの長辺に沿って統合します。
- 垂直統合**：2 枚の連続するページを垂直方向に統合します。
- 水平統合**：2 枚の連続するページを水平方向に統合します。

両面：このオプションを選択すると、**奇数ページを表面、そして偶数ページを裏面として処理**します。

電子メール本文：このオプションを選択すると、XMailFetcher から電子メール本文を読み出します。電子メール本文は、ドキュメントの最初のページとして追加されます。

元の画像：このオプションを選択すると、変換された Tiff 画像の代わりに元の画像を読み出します。

スキャン後にファイルを削除する：処理済みメールの信号ファイルが、「.scanned」という拡張子を取得したら、このオプションを選択してファイルを削除します。

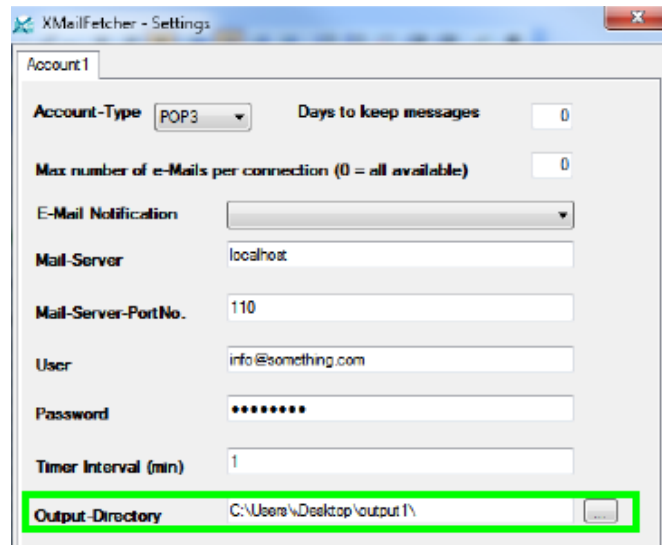
以下のファイルが削除されます。

```
.\Data\MailXXXX\  
.\Signal\MailXXXX.scanned
```

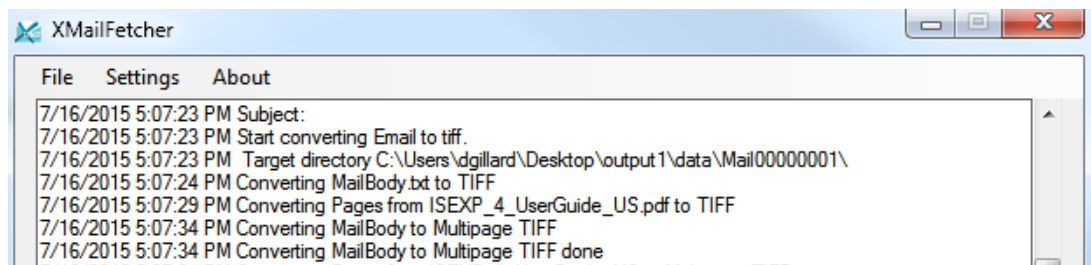
注記：このオプションが選択されていない場合、削除されるファイルはありません。処理済みメールの信号ファイルは、「.scanned」という拡張子を維持します。

スキャンする

- 電子メールが、XMailFetcher で設定した出力ディレクトリに送られていることを確認します。

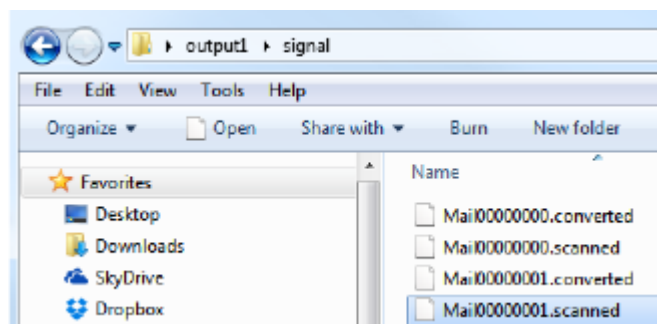


- XMailFetcher アプリケーションを開始します。
- メインウィンドウでアクティビティをチェックします。
一通の電子メールが変換されると、次のようなアクティビティのメッセージが表示されます：**Converting MailBody to Multipage TIFF done.**



- IRIS Powerscan に戻って、XMailFetcher の設定済みプロジェクトの中からのスキャンを行います。
- 電子メールが、IRIS Powerscan の中に送り込まれます。

ヒント： 万が一、XMailFetcher から来るバッチの再処理をしなければいけない場合、設定した出力ディレクトリにジャンプし、**Signal** フォルダを開きます。そして、処理したい電子メールの「**.scanned**」ファイルを削除してください。次に、IRIS Powerscan で**スキャン**をもう一度クリックします。もし、「**.scanned**」ファイルを削除しないと、電子メールを再処理することができません。



9. 操作

9.1 画像処理

IRIS Powerscan が提供する画像処理の広範な機能は、いずれも実現しうる最善のスキャン結果を得ることを目的としたものです。やはり、スキャン品質が高いほど、処理精度も高くなります。

画像処理操作は、次のように異なる方法で適用できます。

- プロジェクトの**作成**中に。

重要：プロジェクトの作成中に適用する画像処理操作は、プロジェクトの中でスキャンするすべての画像に対して有効です。いくつかの画像処理操作を、バッチ内の 1 つの画像または画像の一部で実行する必要がある場合、ナビゲーションモードの**操作**ペインを経由して、これらの操作を追加し、**保存**をクリックします。

- ナビゲーションモードの**操作**を通して。

ナビゲーションモードに追加する操作は、バッチ内の 1 つの画像または画像の一部に適用されます。画像操作が適用されると、特定の設定が失われます。

- ウィザード** > **画像処理操作を追加する**を使って。

- デザイナーモードの**操作**を通して。

重要：ウィザードまたはデザイナーモードの操作を通して画像処理操作を追加する場合は、どのレベルで処理操作を適用するか、即ち、スキャンするすべての画像に対して、または特定のバッチ、ドキュメント、またはページタイプに対して適用するかを選択できます。後者の選択的に処理を適用する方が、スキャンするすべてのページではなく、本当に必要な所にだけ処理操作を集中するわけですから、IRIS Powerscan の処理速度を上げる可能性が大きくなります。画像処理操作は、特定の**出力タイプ**に適用することも可能です。

別の画像処理操作の概要は、以下の [9.1.5 画像処理操作の概要](#) でご覧になれます。

9.1.1 プロジェクトの作成中に操作を追加する

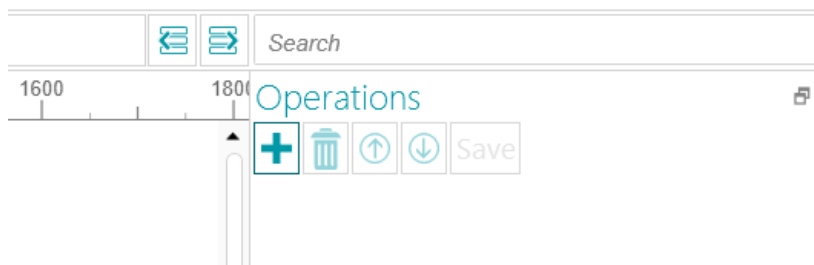
[プロジェクトの作成](#) > [ウィザード](#) を参照してください。

9.1.2 ナビゲーションモードの操作ペインを経由して画像処理操作を追加する

- ドキュメント一式をスキャンします。
- スキャンされた画像を確認します。
- 画像処理操作を適用させる必要がある特定の画像が存在する場合、ページを選択してから、右下隅にある**操作**タブをクリックします。

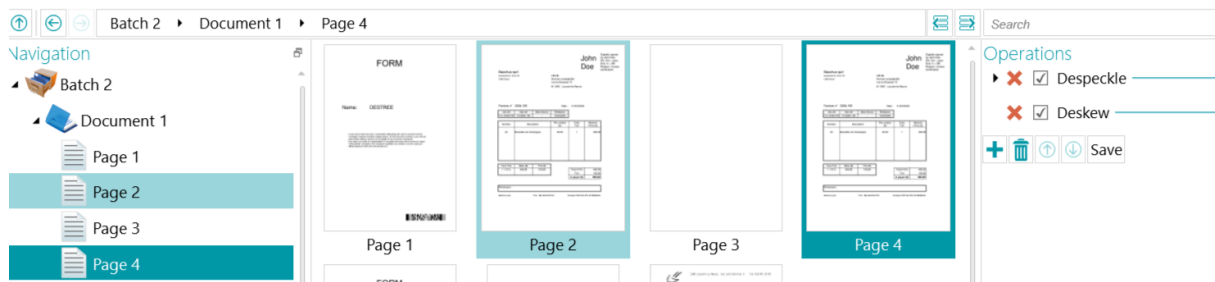
注記：操作タブは、ページレベルでのみ表示可能です。ドキュメントやバッチを選択すると、操作タブは表示されません。

- プラスサインをクリックして、選択する操作を追加します。



- ナビゲーションエクスプローラで、これらの操作を適用させたい Ctrl キーを押しながら画像をクリックしてから、**保存**をクリックします。画像が保存されると、画像処理設定は失われます。
- 設定した操作は、これで選択した画像だけに適用されます。

ヒント：操作を取り消す必要がある場合、Ctrl-Z または取り消しアイコンをクリックします。

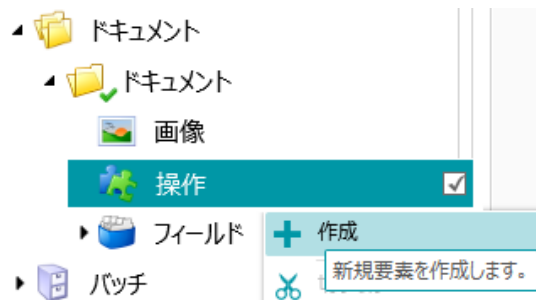


9.1.3 ウィザードを介して画像処理操作を追加する

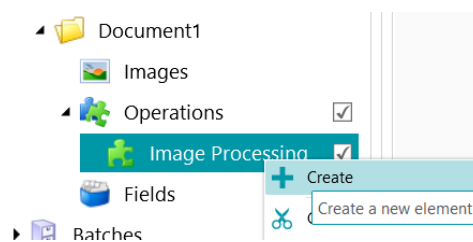
[ウィザードを使ってプロジェクトを設定する](#) > [画像処理操作を追加する](#)を参照してください。

9.1.4 デザイナーモードで画像処理操作を手動で追加する

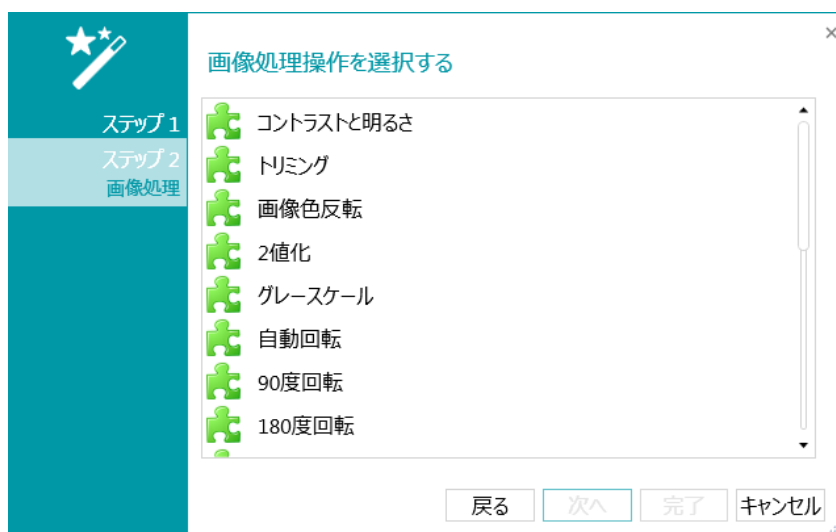
- デザイナーモードに切り替えます。
- 画像処理操作を加えたいレベル、即ち、スキャンした全画像、若しくは特定のページ、ドキュメント、またはバッチタイプ、を決定します。
- 操作を右クリックして、作成をクリックします。



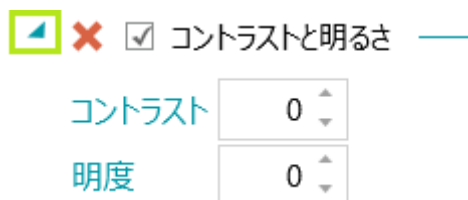
- **画像処理**を選択し、完了をクリックします。
これで画像処理がデザイナーエクスプローラに追加されます。
- デザイナーエクスプローラの**画像処理**を選択し、プロパティペインのプラスサインをクリックして、必要とする操作を追加します。
または、**画像処理**を右クリックして、作成をクリックします。



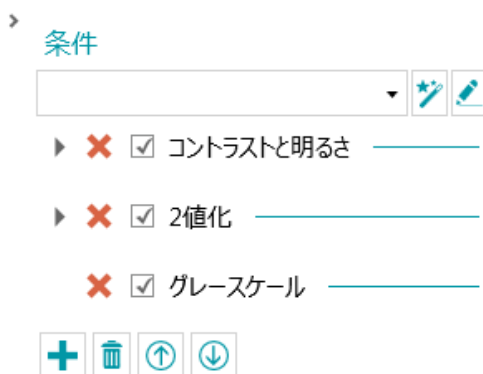
- ウィザードから必要とする操作を選択し、**完了**をクリックします。複数の画像処理操作を、IRIS Powerscan の各レベルに適用させることができます。ウィザードで一度に一つの操作を選択し、**完了**をクリックします。



- 今追加した操作が、**プロパティ**のセクションに表示されます。操作を展開し、その設定を表示します。




- 画像処理操作は、何種類でも使いたいだけ追加できます。複数の操作を追加した時の順序の並び替えは、上下の矢印を使って行います。このようにして、IRIS Powerscan に最初に行わせる操作を決めることができます。例えば、IRIS Powerscan に対して、スキャンしたカラー画像をまず最初に 2 値化し、その 2 値化した画像にノイズ除去処理を加えるといった具合に指示します。



- 画像処理以外の操作とプロパティについては、後程説明します。

画像処理操作には、**条件**を与えることができます。例えば、ある条件を使ってカラーかグレースケール、または白黒画像だけに処理を適用するといった選択ができます。或いは、ページの表面または裏面のみに適用する選択も可能です。

条件を適用するには、ウィザードアイコンをクリックします。続いて、どの種類の画像に処理を適用したいか選びます。

また、[表現式エディタ](#) () を使って、上級の表現式を組み立てることもできます。

条件を指定する

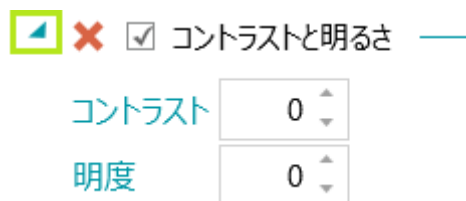
フィルタ

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> カラー | <input checked="" type="checkbox"/> 表面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> グレースケール | <input checked="" type="checkbox"/> 裏面 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 白黒 | |

9.1.5 画像処理操作の概要

コントラストと明るさ

コントラストと明度は、カラーとグレースケール画像のみに適用され、白黒画像には適用されません。



低画質のドキュメントをスキャンする場合、最適なスキャン結果を得るために、時にはコントラストのレベルを調節することがあります。

- **コントラスト**の値を入力します。入力範囲は、-50 から +100 までです。この値が大きいほど、コントラストはより高くなります。

暗く、ぼやけた画像や、逆に極端に明るい画像をスキャンする時は、**明度**の設定を調節する必要があるかもしれません。

- **明度**の値を入力します。入力範囲は、-100 から +100 までです。この値が大きいほど、明度はより高くなります。

トリミング

トリミング を使えば、スキャンした画像の縁のトリミング (刈り取る) すべきエリアを定義できます。

- トリミングしたい上下左右の余白部の値を入力します。
この値はピクセル (画素数) で入力することにご注意下さい。
- 画像の百分率でトリミングを指定したい場合は、百分率比を選択します。

ヒント: 試しに少数のドキュメントをスキャンし、設定が希望通りに反映されているか確認します。

画像色反転

画像色反転は、スキャンしたドキュメントの色を反転します。

2 値化

2 値化は、カラー画像とグレースケール画像を 2 値化 (白黒) 画像に変換する処理です。IRIS Powerscan は、2 値化された画像に対して画像処理操作を実行します。

2値化は、それ故、カラーとグレースケール画像のみに適用可能で、白黒画像には適用されません。

- なお、標準設定では、**適応的（2値化処理）**のオプションが選択されています。これは、2値化する閾値を画像の部分ごとに最適になるよう局所的に決める2値化処理の方法です。
 - **明度**は、0に設定します。この値が高いほど、結果的に2値化された画像は、逆に暗くなります。
 - **コントラスト**は、40に設定します。**コントラスト**は、画像の画素と画素、および画素と背景の間の差を大きくしたり、小さくして画像を強調します。**コントラスト**の値が低いほど、結果的に2値化された画像は暗くなります。

ヒント：QRコードをスキャンする場合、**コントラスト**の値を90くらいに設定すれば、最適な認識結果が得られます。
- 手動閾値処理を選択するには**適応的（2値化処理）**のオプションをクリアし、**手動閾値処理**を選択します。次に、**閾値**の設定を行います。
- **滑らか処理**は、スキャンの際に発生する画像上のノイズを除去します。この値が高いほど、除去するノイズ量は多くなります。
- **カラードロップアウト**のオプションは、2値化の際に問題となる色成分を画像から取り除きます。
 - **許容範囲**：正しい色を再現するための精度です。この値が低いほど、検出精度は高くなります。
 - **色調**：色調を変えるには、値を入力するか、色調環を廻すか、または色度図の中から一色を選びます。
 - **最小値**：この値が高いと、ドロップアウトを明度の高い色に限定します。
 - **最小彩度**：この値が高いと、濃すぎる色（彩度の高すぎる色）を制限します。

グレースケール

グレースケールは、スキャンしたカラー画像をグレースケールの画像に変換します。

自動回転

自動回転は、画像を自動的に回転します。

IRIS Powerscan が回転処理を行う際に基本とする**手法**を選択します。

- **バーコード**：画像をバーコードの方向を基準にして回転します。
- **テキスト**：画像をテキストの方向を基準にして回転します。
- **バーコード + テキスト**：まず最初に、バーコードの方向を調べ、これを基準としますが、もし、バーコードが見つからなければ、テキストの方向を基準にして回転します。
- **テキスト + バーコード**：まず最初に、テキストの方向を調べ、これを基準としますが、もし、テキストが見つからなければ、バーコードの方向を基準にして回転します。

回転

回転は、スキャンしたドキュメントを90°、180°、および270°回転させることができます。

傾き補正

傾き補正は、曲がってスキャンされた画像の傾きを補正します。

ノイズ除去

ノイズ除去は、白黒画像にのみ適用可能です。ノイズ除去の処理は、どんなドキュメントにも発生しうる小さな寄生ドットを取り除きます。

- IRIS Powerscan に除去して欲しいドットの**サイズ**を入力します。この値が高いほど、サイズの大きなドットまで除去されます。
- **膨張度**を入力します。この値が高いほど、より多くの孤立ピクセルが除去され、オブジェクトは滑らかになります。

線の除去

線の除去は、スキャンした画像から直線を削除します。**注記**：この処理は、白黒画像にのみ有効です。

線の除去が起動すると、IRIS Powerscan は、標準設定により、横と縦の直線を画像から削除します。削除する直線を縦線か横線のいずれかに指定することも可能です。

- **方向**：削除すべき直線の方向。
- **除去半径**：削除すべき直線を囲む円の半径。
- **広がり**：広がりパラメータは、特に細い縦線や傾いた縦線など縦の直線の検出に役立ちます。
- **すき間の長さ最大値**：縮めるべき隙間の最大値（破線、中断線の場合）。
- **太さ最大値**：削除すべき直線の太さの最大値。
- **長さ最小値**：削除すべき直線の長さの最小値。

線の除去（縦）

スキャンした画像から縦の直線を削除します。

一般的な**線の除去**の場合と同じオプションを適用します。

線の除去（横）

スキャンした画像から横の直線を削除します。

一般的な**線の除去**の場合と同じオプションを適用します。

黒枠除去

黒枠除去は、白黒画像から黒枠（または黒い囲い）を取り除きます。

- **境界線**：標準の値は、122 です。境界線に接触している画素のグレイ値が黒枠の境界線のこのパラメータ値より小さい場合、その画素は黒と判断されます。
- **内部**：標準の値は、122 です。黒い囲いは、画像の境界線と接触している黒の画素、およびそれらの画素に接続し、そのグレイ値がこの内部パラメータの値より小さい画素からできています。
- **デルタ値**：標準の値は、30 です。ある画素とその近傍の別の画素のグレイ値の差が、このデルタ値より小さい場合、二つの画素は、接続されていると判断されます。

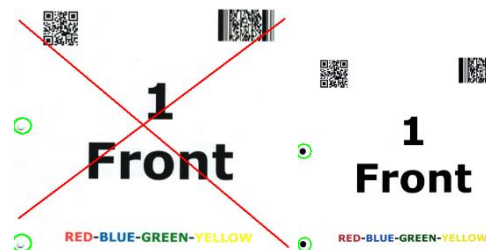
穴除去

画像からパンチ穴を除去する

この操作は、カラー、グレースケール、および白黒すべての画像に適用できます。

重要：スキャナには、パンチ穴の跡を黒い丸と読み取ってしまうものがあるはずで、これは正しく削除しなければなりません。但し、白っぽいパンチ穴の影には対応できません。

ヒント：もし、お使いのスキャナにもパンチ穴除去のオプションが付いていれば、そのオプションを活用するか、または IRIS Powerscan でパンチ穴除去の設定をするか、お望みの方を選んでください。但し、両方同時にアクティブにすることは控えてください。



ディザリングを削除する

画像から不要なディザ（ノイズ）を削除します。

この操作は、白黒画像だけに適用できます。カラーでスキャンする場合は、必ず、最初に**2値化**処理を行ってください。

スタンプ

スタンプ操作は、スキャンした画像にスタンプを追加するのに使います。スタンプには、オペレーターのユーザー名やスキャンの日付などを含めても構いません。

- スタンプに入っていないテキストを入力します。これは、変数または表現式でも構いません。
- スタンプの位置を、XとY軸の座標位置で指定します。
- スタンプのサイズを入力します。

サンプルの画像を選択すると、その上にスタンプが表示されます。

スタンプ (画像)

テキストのスタンプ以外に、IRIS Powerscan は、画像のスタンプも追加できます。

- スタンプの位置を、XとY軸の座標位置で指定します。
- プラスサインをクリックして、スタンプとして使いたい画像を参照します。

縮小

縮小操作は、スキャンした画像のサイズ変更をする時に使います。画像を 1 / 8 の比率まで縮小することができます。

9.2 データ抽出

IRIS Powerscan は、OCR（光学式文字認識）、BCR（バーコード認識）、PCR（パッチコード認識）、および ICR（インテリジェント文字認識）を通して、スキャンした文書からデータを取り出すことができる強力なデータ抽出機能を備えています。抽出されたデータの利用法としては、ページを識別する変数や、ドキュメントとバッチを区分けする際の区切りとして使ったり、さらにインデックスフィールドに記入するデータとして使うこともできます。

しかしながら、データ抽出を使ってページを識別する場合、その識別精度は、データ認識の精度に依存します。そもそも、データ抽出ゾーンが正しく認識されていなければ、識別処理は機能しません。

9.2.1 データ抽出ゾーンを作成する

データ抽出ゾーンを作成する方法は、それぞれナビゲーションモードとデザイナーモードに、合わせて二種類あります。ナビゲーションモードで作成するデータ抽出ゾーンは、スキャンされた全ての画像に適用されます。一方、デザイナーモードでは、どのレベルに、そして特定のバッチ、ドキュメント、ページタイプのいずれに、データ抽出ゾーンを作成するかを選ぶことができます。

ナビゲーションモードでデータ抽出ゾーンを作成する

- まず、プロジェクトを開きます。
- ドキュメントをいくつかスキャンします。
- スキャンしたページのいずれかをクリックします。
- マウスを使って、追加したいゾーンの周りを枠を描くようにドラッグします。これで、仮のゾーンが作成されました。このゾーンのゾーンタイプが自動的に検出されます。ゾーンから抽出された内容は、ゾーンの下に小さな文字で表示されます。



重要： もし、複数のゾーンを作成する必要がある場合は、対象となる画像を右クリックし、続けて**分析**をクリックします。この機能は、スキャンされたページの上に設定されたすべての検出可能ゾーンに対して、検出処理を行います。

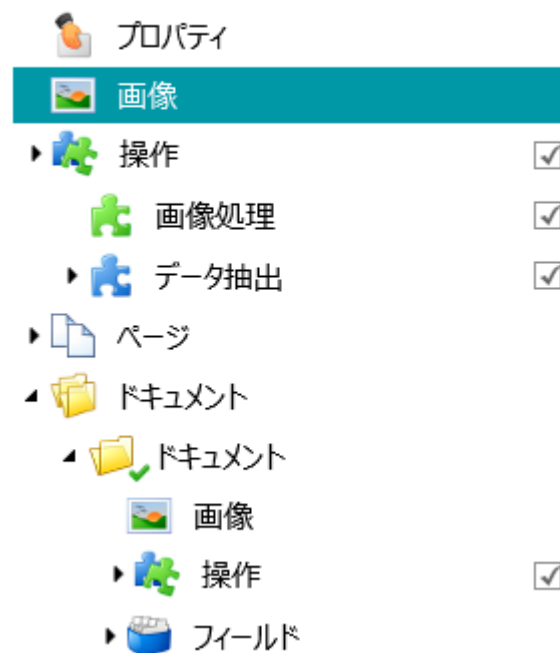
- どのようにゾーンが設定されているかを確認するには、Enter を押すか、または**キャプチャアイコン** (📷) をクリックします。
ヒント： (ページ ID またはドキュメント/バッチ区切りを行うための) 条件の、ゾーンの内容を使用するには、**ウィザードアイコン** (🔮) をクリックします。
- 以上で、ゾーンは、デザイナーエクスプローラの**データ抽出**モジュールに追加されます。そこで、そのゾーンの**プロパティ**を定義できます (下記参照)。

The image shows the 'デザイナー' (Designer) interface. On the left, a sidebar lists various modules: プロパティ (Properties), 画像 (Image), 操作 (Operations), 画像処理 (Image Processing), and データ抽出 (Data Extraction). The 'データ抽出' module is selected and expanded, showing a zone named 'Zone1'. On the right, the 'プロパティ' (Properties) panel for 'Zone1' is displayed. It includes fields for '名前' (Name) set to 'Zone1', '条件' (Condition) with edit and delete icons, '言語' (Language) set to 'English', 'ワーク・デプス' (Work Depth) set to 100, '高さ' (Height) set to 5, and '文字集合' (Character Set) set to '0123456789ABCDEF'. There are also checkboxes for 'オプション' (Options) such as '空白を削除' (Remove blank) and '書式を削除する' (Remove formatting).

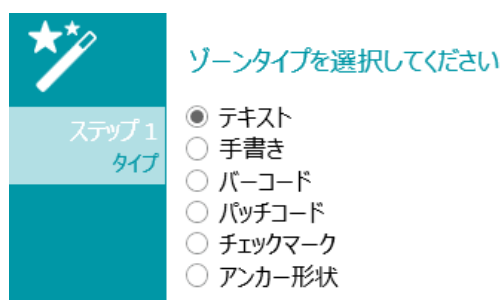
デザイナーモードでデータ抽出ゾーンを作成する

- まず、プロジェクトを開きます。
- デザイナーモードに切り替えます。
- プロジェクトに追加したサンプル画像のいずれかをダブルクリックします。この画像は、一般レベル（すべてのスキャン画像に適用）のものか、或いは特定のページ、ドキュメント、またはバッチタイプの画像でかまいません。

デザイナー



- **データ抽出**を選択し、マウスを使って、追加したいゾーンの周りに枠を描くようにドラッグします。
- すると、ゾーンタイプを直ちに選択できるポップアップ・ウィンドウが現れます。
- 必要なゾーンタイプを選択し、プロパティを設定します。



9.2.2 ゾーンのプロパティを定義する

IRIS Powerscan は、次のようなタイプのゾーンからデータを抽出できます。

- テキストゾーン
- 手書きゾーン
- バーコードゾーン
- パッチコードゾーン
- チェックマークゾーン
- アンカーポイント（形状）
- アンカーポイント（テキスト）

注記： 疑問符のアイコンをクリックすると、特定のゾーンについて更新される変数が表示されます。

名前 ?

重要： IRIS Powerscan では、チェックマークゾーンおよびアンカー形状を認識するために白黒画像が必要となります。カラー画像をスキャンする場合、画像処理操作として **2 値化**操作を必ず追加してください。


テキストと手書きのオプション

- ゾーンの**言語**を選択します。
プラスサインをクリックすれば、言語をさらに追加することができます。
正しい言語を選ぶことは、良好な認識結果を得るためにも重要です。
- **条件：** ゾーンに**プロブのフィルタリング**の条件を与えることができます。
プロブは、OCR エンジンとバーコードエンジンが返す最小の画像認識要素です。
OCR エンジンから返されるプロブは、中に個別のレター（文字）が入った四角形をしています。
バーコードエンジンから返されるプロブも、中に個別のバーコードが入った四角形をしています。



プロブの例

- ウィザードアイコンをクリックして、条件を規定します。

また、表現式エディタ () を使って、上級の表現式を組み立てることもできます。

The screenshot shows a 'プロパティ' (Properties) dialog box for a zone named 'Zone1'. It has several fields: '名前' (Name) is 'Zone1' with a '?' icon; '条件' (Condition) is empty with a '+' icon and a pencil icon; '言語' (Language) is 'English' with a '+' icon; 'ワーク・デプス' (Work Depth) is '100'; '高さ' (Height) is '5'; '文字集合' (Character Set) is '0123456789ABCDEF' with a pencil icon; and 'オプション' (Options) has two checkboxes: '空白を削除' (Remove spaces) and '書式を削除する' (Remove formatting), both of which are unchecked. A tooltip for the '+' icon shows 'ウィザード' (Wizard) and 'ウィザード' (Wizard).

- 使いたいマスクを入力します。

注記： マスクを入力すると、Blob ^= "AAAA" といったパターンマッチ演算子「Blob ^」が条件に追加されます。E.g. Blob ^= "AAAA".この例では、ちょうど4文字のプロブだけが保持されます。

条件を指定する

マスク	AAAA	
正確度	100	
添字	なし	
位置	なし	
幅	0 最小	0 最大
高さ	0 最小	0 最大

マスクは、ゾーン内で検出された値を検証するのに使われます。一つのマスクは、異なる値に対応する文字で構成されます。

A = (スペース) を含むアルファベット文字

9 = (0から9までの) 一桁の数字

D = (正規表現の \d と類似の) 1 デジット

X = あらゆる文字

W = (スペースと正規表現における \w と類似のデジットを除く) アルファベット文字

S = (正規表現の \s と類似の) スペース

? = あらゆる英数字 (数字またはアルファベット文字)

例えば、マスクの値が AA99 の場合、もし、ゾーンの値が、アルファベット 2 文字で始まり、数字 2 桁が続くなら、そのゾーンの値は有効となります。

マスクの一部は、リテラル表現と一致しなければならないかもしれません。その場合、このリテラル表現は、引用符の間に記述されなければなりません。

例えば、マスクの値が AA"CONTRACT"99 の場合、もし、ゾーンの値が、アルファベット 2 文字で始まり、次にリテラル表現式「CONTRACT」が続き、最後に数字 2 桁が続くなら、そのゾーンの値は有効となります。

数字タイプのマスクの文字

9 = 数字

例 9(3) => 0~3 桁の数字。

例 999 => 3 桁の数字。453、123、657 などの例が該当します。

ヒント: OCR ゾーンから数字だけを残して、文字は削除したい場合は、^= "9" というプロップを使います。

-
- **正確度:** ゾーンが有効であると見なされるために、OCR エンジンが返す必要のある値を設定します。標準値は 100 です。
- **添字:** どの認識ゾーンが使用される必要があるかを選択します。画像上に複数のゾーンがある場合、最初、最後、その他のいずれを使用するか選択できます。その他を選択する場合、使用する必要のあるゾーン数を入力できます。
- ゾーンを置く**位置**として、ページの上下左右のどこかを選択します。
- ゾーンの**幅**と**高さ**について、それぞれ最小値と最大値を設定します。
- **書式**オプションを設定する場合は、**次へ**をクリックします。書式オプションにより、IRIS Powerscan は特定の言葉を検索できるようになります。
Format オプションをスキップする場合は、**完了**をクリックします。
 - **ラベルの書式**を次の中から選択します。**太字**、**斜体**、**下付き文字**、**上付き文字**、または**下線**。
 - **ラベルフィールド**で、IRIS Powerscan が検索する言葉を選択します。
 - **位置**リストで、**ラベル**がページのどこに位置するかを次の中から選択します。**上部**、**左**、**右**、または**下部**。

書式を指定する

書式 太字
 斜体
 下付き文字
 上付き文字
 下線

ラベル

位置 下部

- **ワーク・デプス**：検出の深さです。この値が高いほど、検出精度は高くなります。
- **高さの最小値**：OCRの結果の悪くならないように、スライダーを使って直線の高さの最小値を調節します。標準値は、（インチの 1/100 を 1 単位として）20 です。
- ゾーンが特殊文字を含んでいる場合、**文字集合**の隣にある参照アイコンをクリックして、**カスタム文字集合**を選択します。
次に、意味を知りたいその特殊文字をそこに追加します。
不必要な文字ならば削除することもできます。

文字集合

カスタム文字集合 リセット

認識されない文字 ~

OK キャンセル

- **オプション**：
 - **空白を削除**を選択して、スペースとタブを削除します。
 - **書式を削除する**を選択すると、ラインのブレーキが削除されます。

バーコードのオプション

- **条件**：ゾーンにプロップのフィルタリングの条件を与えることができます。上の[テキストと手書きのオプション](#)にある情報を参照してください。
- **バーコードタイプ**を選択します。
IRIS Powerscan は、次のバーコードをサポートしています： Australian post, Australian post parcel, Aztec, Codabar, Code 11, Code 16K, Code 25, Code 25 ni, Code 39, Code 39 Ext, Code 39 HIBC, Code 39 OOS, Code 93, Code 93 Ext, Code 128, Code 128 OOS, Code 128 GS1, Databar, Datamatrix, Datamatrix GS1, Deutsche Post Ident code, Deutsche Post Leitcode, EAN 13, EAN 8, EAN 14, I2OF5, Italian Post 25, IATA2OF5, ISBN, ISSN, ISMN, ITF 14, ITF 6, Matrix 2 of 5, PDF 417, Micro PDF 417, Macro PDF 417, Compact PDF 417, One Code, OPC, Pharmacode, Planet, Postnet, Postnet 32, Postnet 52, Postnet 62, PZN, QR Code, Micro QR Code, RM4SCC (Royal Mail 4 State Customer), SSC14, SSCC18, Standard 2OF5, SwissPostParcel, UCC128, UPCA, UPCE, MSI, MSI PH, VIN
注記：QRコードを使用する際は、**コントラスト**のレベルを上げるよう、調節することをお勧めします。画像処理操作として **2 値化**を追加します。次に、**コントラスト**の値を 90 に設定します。ヒント：このケースでは、コントラストを上げるための、コントラストと明るさの設定は、使わないでください。
- 各バーコードに対して、複数の代替エンジンを起動して備えることができます。それらの代替エンジンは、上から下へと連続的に検索をテストされます。そして、バーコードが見つかったら、検索は停止されます。

バーコード

PDF417	▼	+
PDF417 #1	▼	×
PDF417 #2	▼	×

注記：一つのゾーン内に複数のバーコードタイプを混在させることも可能です。

- **ワーク・デプス**：検出の深さです。この値が高いほど、検出精度は高くなります。
- **閾値**：**全画面表示**オプションがアクティベーションされていない場合、ゾーンのコントラストに基づいて、閾値をしようして Barcode Recognition を高速化します。ピクセルの密度が閾値よりも高い場合、IRIS Powerscan はバーコードのデコードを試みます。閾値よりも低い場合、IRIS Powerscan はバーコードをスキップします。
- バーコードの方向を横または縦から選択します。
- バーコードの長さと高さについて、それぞれ最小値と最大値を設定します。
- **オプション**：
 - **フルページ**を選択すると、IRIS Powerscan は、ページ全面にわたってバーコードを探します。
 - **検出方向**を選択すると、どちら向きにバーコードが印刷されているかを検出します。
 - **部分検出**を選択すると、IRIS Powerscan は、たとえバーコードの一部が検出されただけでも、バーコードが検出されたと認識します。
 - IRIS Powerscan に斜めになったバーコードも検出させるには、**有効スキュー**を選択します。
 - **空白を削除**を選択して、スペースとタブを削除します。
 - **書式を削除する**を選択すると、ラインのブレーキが削除されます。

パッチコードのオプション

- パッチコードの**タイプ**を選択します。IRIS Powerscan は、パッチ I、パッチ II、パッチ III、パッチ IV、パッチ VI、パッチ T をサポートしています。
- **ワーク・デプス**：検出の深さです。この値が高いほど、検出精度は高くなります。
- **オプション**：
 - **検出方向**を選択すると、どちら向きにパッチコードが印刷されているかを検出します。
 - IRIS Powerscan に斜めになったパッチコードも検出させるには、**有効スキュー**を選択します。

チェックマークのオプション

注記：チェックマーク検出は、2 値化された白黒画像にのみ有効です。

- **最小閾値**を設定します。

この値は、ゾーンがチェックマークのゾーンであると判断されるために、ゾーン内部の塗り潰されていない面積の百分率比です。標準設定の最小閾値は、30 % です。
- **最大閾値**を設定します。

もし、ゾーン内の最大閾値以上の面積比が塗り潰されていたら、そのゾーンは、チェックされたのではなく、クロスアウトされた（取り消された）と判断されます。
- **ノイズを減少**を選択して、IRIS Powerscan にゾーンからノイズとなっている画素を除去させます。
- **プラスサイン**をクリックして、**サンプル画像**を追加します。

認識精度を高めるために、サンプルの追加を推奨します。サンプルがないと、IRIS Powerscan は、データ抽出ゾーン全体を調べます（緑で指示された部分）。サンプルがあれば、考慮すべき画素は、実際のチェックマークボックス内部にある画素だけに限定できます（チェックマークも含む）。



>

名前 ?

最小閾値 %

最大閾値 %

オプション ノイズを減少

例  



アンカーポイント（形状）オプション

アンカーポイントは、**2本の直線が交差する点**です。下図では、次のように、多くの点がアンカーポイントとなる可能性があります。

- 左上のコーナー
- 右上のコーナー
- 左下のコーナー
- 右下のコーナー
- 十字
- 下端
- 左端
- 上端
- 右端


一つの画像には少なくとも一つ、理想としては4つ以上のアンカーポイントが必要です。

黒の正方形は、アンカー形状としてサポートされていません。

重要： アンカーポイントにテキストが含まれていない場合、**アンカーポイント（タイプ）**タイプを使用します。アンカーポイントが含まれている場合、**アンカーポイント（テキスト）**を使用します。

オプション

- **線の長さ：** 考慮すべき直線の最短の長さ
- **線の太さ：** 考慮すべき直線の最大の太さ
- **距離：** 画像の境界線からの最小距離（画像の境界線をアンカーと間違えて検出することを避けるため）
- **形状：** 期待するアンカーポイントの形状を選択します。



Specify the zone properties

Step 1	Name	Zone2
Step 2 Properties	Line Length	15
	Line Thickness	5
	Distance	0
	Shape	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">T</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┌</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">+</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┐</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">└</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┘</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">├</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┤</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┆</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┇</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┈</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 2px; text-align: center; line-height: 20px;">┉</div> </div>
		<input checked="" type="checkbox"/> None

アンカーポイント（テキスト）オプション

- アンカーポイント（テキスト）ゾーンの名前を決めて、入力します。
- アンカーポイント（テキスト）ゾーンに含める予定のテキストを入力します。この設定はオプションで、良好な認識結果を得るのに役立ちます。
- ゾーンの言語を選択します。プラスサインをクリックすれば、言語をさらに追加することができます。正しい言語を選ぶことは、良好な認識結果を得るためにも重要です。
- 検出の深さを示す、ワーク・デプスを選択します。この値が高いほど、検出精度は高くなります。
- OCRの結果が悪くならないように、矢印を使って直線の高さの最小値を調節します。標準値は、（インチの 1/100 を 1 単位として）5 です。
- ゾーンが特殊文字を含んでいる場合、文字集合の隣にある参照アイコンをクリックして、カスタム文字集合を選択します。次に、意味を知りたいその特殊文字をそこに追加します。不必要な文字ならば削除することもできます。

9.2.3 データ抽出を識別の手法として使用する

下の例で、データ抽出が、どのように識別の手法として利用できるかを説明します。

- 少なくとも 1 ページのスキャンを行います。
- ナビゲーションツリーの中からそのスキャンしたページを選択します。
- データ抽出ゾーンとして使いたいコンテンツの周りに枠を描きます。
- 次に、そのゾーンの右上隅にあるウィザードアイコンをクリックします。



- アクションの選択肢の中からページ ID を選びます。
重要： アクションの選択肢を見れば、データ抽出は、ドキュメントやバッチの区切りにも使えることが分かります。

条件を指定する

条件

アクション ページ ID
 バッチ区切り
 文書区切り

- 完了をクリックします。
次回 IRIS Powerscan が、指定したエリア内に同じコンテンツを検出すると、そのコンテンツを含むページが識別されます。

9.3 白紙ページの検出

白紙ページの検出は、文字通り、白紙のページを検出するのに使います。同時に、[文書タイプとバッチタイプを区切る](#)のにも使えます。

白紙ページの検出を適用するには、次の手順に従います。

- まず、**白紙ページの検出**を、ウィザードを使って、**操作**の一つとして追加します。
- 複数の**ページタイプ**を設定している場合、この白紙ページの検出の操作を、ある特定のページタイプだけに適用するか、または各ページすべてに適用するか選択できます。このオプションのいずれかを選択してください。
- 次に、デザイナーモードへ移動し、デザイナーエクスプローラで正しいレベル（一般的なレベルまたは特定のページタイプ）上の**操作 > 白紙ページの検出**を選択します。

重要：感度とサイズのフィールドを結合することはできません。どちらか一方を選んで使わなければなりません。

- **感度**は、その値が高くなるほど、IRIS Powerscan がより短時間で画像上のスペckルを検出します。逆に、感度が低いほど、より短時間でページが白紙であると判定されます。
- **サイズ**：画像上に存在するスペckルが、最大でどの大きさまでなら、画像を空白と判断するかを設定します。下のページの例では、サイズ値の検出結果が、このフィールドのすぐ下に表示されています。

注記：画像が空白の時、変数 `Image.IsBlank` は、真になります。但し、変数 `Page.IsBlank` が真になるのは、ページの表面と裏面が共に白紙の場合だけです。

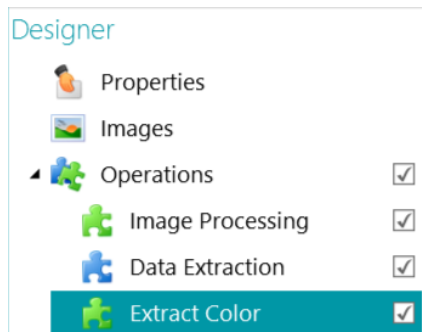



9.4 カラーの抽出

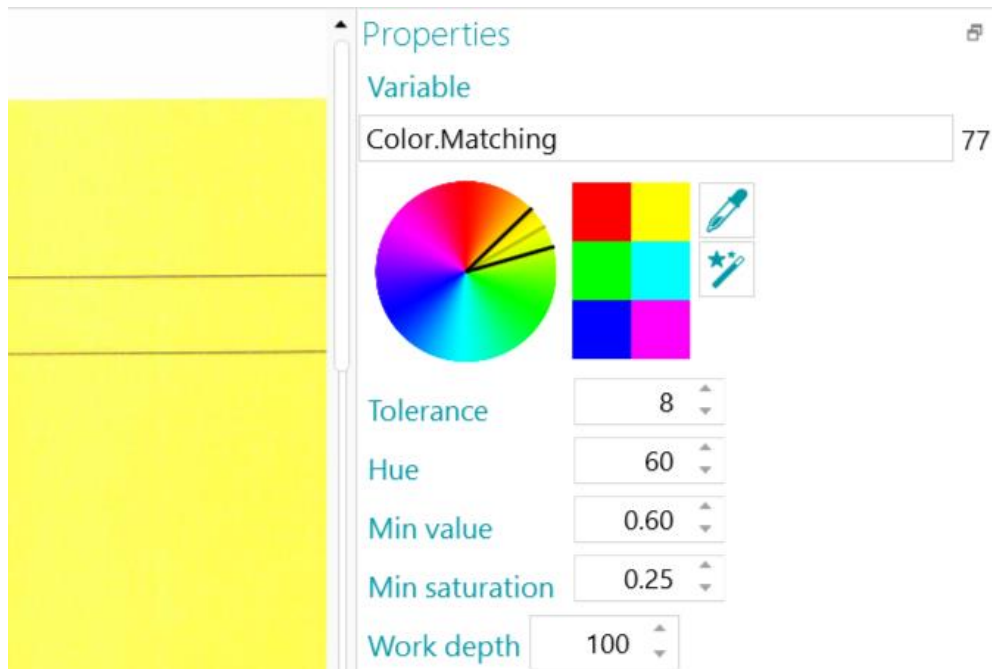
カラーの抽出操作で、画像からカラーコードを抽出することができます。カラーコードは変数で使用して、文書を区切ることができます。スキャンされた画像のカラーコードがサンプル画像のカラーコードに一致する度に、新規のドキュメントを開始するよう、IRIS Powerscan を設定できます。

カラー抽出操作の適用方法：

- 最初に、**サンプル**画像を追加します。
この画像のカラーコードが、参考として用いられます。
- **ウィザード > 操作を追加する > カラーの抽出**をクリックします。
- Designer Explorer で、**操作**を展開し、**カラーの抽出**をクリックします。



- **カラーピッカーアイコン**  をクリックし、サンプル画像の内側をクリックします。
- カラーコードが一致すると、値が 0 から 70~80 の間の値に変わります。
注記： 値が変わらない場合、Designer Explorer 内で別の要素をクリックしてから、**カラーの抽出**に戻ります。
- ウィザードアイコンをクリックすると、背景色を自動的に検出します。



- カラーピッカーとウィザードを使用すると、**許容範囲**、**色相**、**最小値**ならびに**最小彩度**の値は、選択したカラーに基づいて自動的に変更されます。
これらの値は、手動で変更することもできます。
 - **許容範囲：** 正しい色を再現するための精度です。この値が低いほど、検出精度は高くなります。
 - **色調：** 色調を変えるには、値を入力するか、色調環を廻すか、または色度図の中から一色を選びます。色相は、明るさの属性で、オブジェクトのカラーが、赤、青、緑、または黄色と、スペクトルに沿って分類されます。

- **最小値**：この値が高いと、ドロップアウトを明度の高い色に限定します。
- **最小彩度**：この値が高いと、濃すぎる色（彩度の高すぎる色）を制限します。
- **ワーク・デプス**：検出の深さです。この値が高いほど、検出精度は高くなります。

変数でカラーコードを使用する方法：

- **Color.Matching>70** を、いずれかの**条件**フィールドに入力します。

Name	Document
Description	
Naming	Document.Type + " " + Document.Counter
Condition	Color.Matching > 70
Confidence	0
Counter	0 <i>Document.Counters[Document]</i>
	<input checked="" type="checkbox"/> Reset document counter on new batch
	<input type="checkbox"/> Delete first page
	<input checked="" type="checkbox"/> Default document type

カラーマッチに基づく文書区切りの例

9.5 Fingerprint の検出



ページを識別する上で主要機能となるのが、**フィンガープリントの検出**です。フィンガープリントの検出機能を使って、IRIS Powerscan は、読み取った画像のレイアウトを調べます。もし、スキャンされたページのレイアウトが、予めプロジェクトのある**ページタイプ**に追加しておいた**サンプル**のレイアウトと一致したら、スキャンされたページは、そのページタイプであると判断されます。

ページタイプを識別する最も簡単な方法は、ウィザードを使ってページタイプを追加し、**Fingerprint の検出**を適用することです。

- **ウィザード** (F12) を起動します。
- **ページタイプを追加する**をクリックします。続いて、**次へ**をクリックします。
- ページタイプの名前を付けます。本書の例では、PageType1 としました。
- サンプルとして使用する画像を参照します。
重要な注記：もし、ナビゲーションエクスプローラで、あるページを選択すると、そのページは、サンプルとして自動的に追加されます。そして、他の画像を参照できなくなります。
- **識別手法としてフィンガープリントに基づく**を選択します。

ヒント：Fingerprint の検出機能を適用する際に使用する条件は、Image.Fingerprint == <YourPageType>です。デザイナーモードに切り替え、設定されたページタイプにジャンプして、チェックしてください。

条件

Image.Fingerprint == "PageType1" ▼  

- **Finish** (完了) をクリックします。

次回、スキャンしたページのレイアウトが、登録したサンプルの一つと一致すれば、そのサンプルで定義済みのページタイプと認識されます。

9.6 表裏交換

この操作で、表側と裏側を交換します。表側が裏側、裏側が表側になります。

9.7 並べ替え

並べ替え操作は、**Debookletting** の機能を果たします。本をスキャンする際、一度に2ページずつスキャンする代わりに、本を束ねているホッチキスを外して、ページの束を丸ごと**両面**スキャナに読み込ませます。その時**並べ替え**操作を使えば、スキャンしたページを正しい順番に並び替えることができます。

ページの向きは縦横どちらの方向でも構いません。

注記：

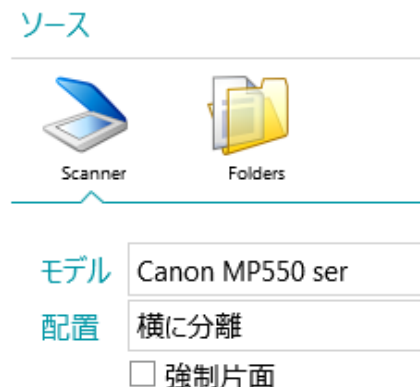
Debookletting 機能は、ドキュメントレベルでのみ有効です。異なるドキュメントおよびバッチ間でページを並べ替えることはできません。

Debookletting 機能は、**偶数**のページカウントでのみ有効です。

これが、**並べ替え**操作を利用できる唯一の使用事例です。ただし、メインツールバーにある**編集**タブの並べ替えツールには、その他の機能も備わっています。詳細については、[リンク](#)をクリックしてください。

要件：

- 用紙サイズは、A4 または A3 でなければなりません。
- 使用するスキャナは、**両面モード**を備えていなければなりません。
注意：実際のスキャナーを使用する場合、Debookletting 機能の片面モードは無効となるため**使用しない**でください。フォルダからスキャンする場合、両面モードは不要です。
- ソース設定の**配置オプション**には、必ず**横に分離**を選択してください。



並べ替え操作を使用するには、以下の手順に従います。

- ウィザード (F12) を開始し、**操作を追加する** > **並べ替え**の順に選択します。
- 並べ替え**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。



- もし、正しい順番でページのスキャンを行うなら、**自動**を選択します。
重要：自動モードでは、並べ替えはドキュメントの最後でのみ行われます。これは区切りを使用しているプロジェクトに影響を与えます。このようなプロジェクトでは、区切りがページ配置後の最初の画像となる必要があります。
 - カバーページを最初にスキャナに読み込ませる場合、**カバーが最初**を選択します。
 - カバーページを最後にスキャナに読み込ませる場合、**カバーが最後**を選択します。

>

自動

モード

OCR 準拠

ゾーン

注記： 並び替え操作を使う代わりに、メインツールバーにある並び替えツールも使えます。適用するスキャンの要件は上記と同じです。

- もし、ページを正しい順番でスキャンできそうもない場合は、**OCR 準拠**を選択します。こうすると、読み取ったページは、ページ番号順に並び替えてくれます。
 - [ページの一つをサンプルとして追加します。](#)
 - ページ番号の周りに[データ抽出ゾーンを作成します。](#)
 - ゾーンのドロップダウンリストの中で、今作ったゾーンを選択します。

>

自動

モード

OCR 準拠

ゾーン

- ページを両面モードでスキャンします。読み込んだページは、正しく並び替えられているはずですが。

重要： バッチでスキャンするページの番号は、必ず偶数にしてください。奇数のページ番号が残ると正しく並び替えできません。

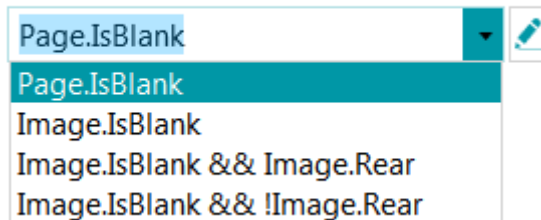
Debookletting 機能の詳細は、[使い方ガイド](#)をご覧ください。

9.8 ページの削除

ドキュメントから特定のページを削除したい場合、**ページ削除**を使用します。

- **ページ削除**は、ウィザードを使って、**操作**の一つとして追加します。
- 複数の**ページタイプ**を設定している場合、このページ削除の操作を、ある特定のページタイプだけに適用するか、または各ページすべてに適用するかを選んで行うことができます。このオプションのいずれかを選択してください。
- 次に、デザイナーモードへジャンプし、デザイナーエクスプローラで正しいレベル（一般的なレベルまたは特定のページタイプ）上の**操作**> **ページ削除**を選択して、**ページ削除**のオプションを設定します。
- **条件**のドロップダウンリストにある次の推奨条件の中から一つ選択します。
 - Page.IsBlank : 削除するページは、表面、裏面とも白紙のページに限定されます。
 - Image.IsBlank : ページは、中の画像が空白ならば、削除されます。
 - Image.IsBlank && Image.Rear : 裏面の画像が空白のページは削除されます。
 - Image.IsBlank && !Image.Rear : 表面の画像が空白のページは削除されます。

条件



- ペンシルアイコンをクリックして、**表現式エディタ**を開き、上級の表現式を組み立てます。

9.9 白紙ページの削除

ドキュメントから白紙ページを削除したい場合、**白紙 ページの削除**を使用します。

- **白紙ページの削除**は、ウィザードを使って、**操作**の一つとして追加します。
- 複数の**ページタイプ**を設定している場合、この白紙ページの削除の操作を、ある特定のページタイプだけに適用するか、または各ページすべてに適用するかを、選んで行うことができます。このオプションのいずれかを選択してください。

注記：

Page.IsBlank の条件が、自動的に適用されます。

これを確認するには、デザイナーエクスプローラで正しいレベル（一般的なレベルまたは特定のページタイプ）上の**操作> ページ削除**の順に選択します。

条件

Page.IsBlank

ページを削除する

9.10 画像の削除

画像削除機能は、[ページ削除](#)と同じように機能します。

9.11 空白画像の削除

空白画像の削除機能は、[白紙ページの削除](#)と同様に機能します。

9.12 ページ添付

ページ添付の操作において、設定した条件が満たされると、ページに「添付あり」のフラグが立てられます。条件に合致しない場合、そのページは、「添付なし」のページと判断されます。

ページに「添付あり」のフラグを立てることで、例えば、エクスポートしている最中に画像を並び替えたり、添付ありのページをある出力先に送った後に、残りのページを別の出力先に送ったり、といったことが可能です。さらに、IRIS Powerscan を、添付ありのページに続くすべてのページを何の処理も必要としない付録と見做すよう、設定することもできます。その応用は無限です。

注記： IRISXtract にドキュメントを送信する場合、IRIS Powerscan で添付ありのフラグを立てられたページは、IRISXtract でも、フラグを立てられます。

以下の要領で、ページ添付の操作を行います。

- ウィザード (F12) を開始し、**操作を追加する** > **ページ添付**の順に選択します。
- **ページ添付**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。
- ページが添付ありと判断されるための必要条件を入力します。

例： バーコードを含んでいない画像は、すべて添付ありと判断するものと仮定します。バーコードを含むページは、「添付あり」であってはなりません。その場合、条件を `IsNullOrEmpty(Image.Barcode)` と入力し、バーコードを検出するデータ抽出ゾーンが設定されていることを確認します。

ヒント： メインツールバーの**添付**ツールを使用して、ページの添付および添付解除を行えます。

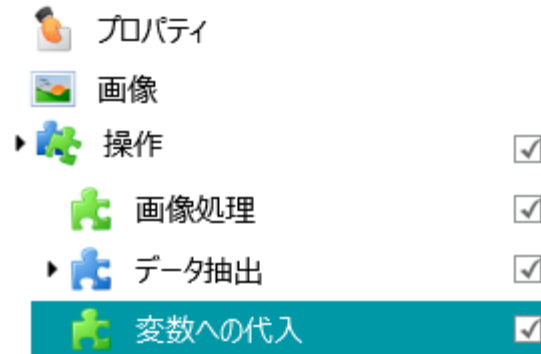


9.13 変数への代入

変数への代入の操作は、独自に変数を定義する時に使えます。

- ウィザード (F12) を開始し、**操作を追加する** > **変数への代入**の順に選択します。
- **変数への代入**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。

デザイナー



- **変数**のフィールドに変数の名前を入力します。
- 使いたい表現式を入力します。

> 変数

表現式

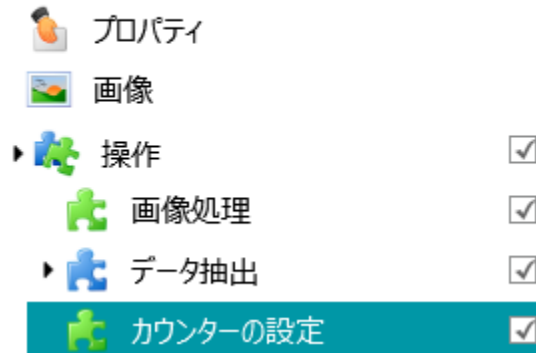
 

9.14 カウンターの設定

カウンターの設定の操作では、どの変数の中にカウンターを保存するか、いつカウンターをインクリメント（増分）するか、そしていつカウンターをリセットするかを決定します。

- ウィザード（F12）を開始し、**操作を追加する** > **カウンターの設定**の順に選択します。
- **カウンターの設定**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。

デザイナー



- **変数**のフィールドに変数の名前を入力します。
例えば、MyCounter カウンターは、この変数の中に保存されます。
- **プール条件**を指定します。
例えば、Image.IsBlank このように設定すると、カウンターは、画像が空白と判定されるたびにインクリメントされます。
- カウンターの値を設定します。標準設定では、0になっています。
- カウンターをいつリセットするかを、**リセットしない**、**毎日**、または**すべてのバッチ**のように決めます。

9.15 バッチの名前付け

この操作で、バッチの名前を変更することができます。

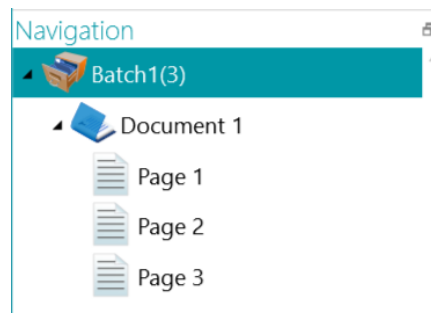
- ウィザード (F12) を開始し、**操作を追加する** > **バッチの名前付け**の順に選択します。
- **バッチの名前付け**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。
- **条件**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- **名前**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、名前付けオプションを設定します。
- 条件が満たされている場合、バッチの名前が変更されます。

例：

- **条件**として、Page.Index>2 を入力します。
- **名前**として、"Batch "+Batch.Index+"("+Page.index+")" を入力します。



- 多数の画像をスキャンします。
- インデックスに基づいて、バッチの名前が変更されます。



9.16 バッチの区切り

この操作で、バッチを区切ることができます。

- 開始する前に、[異なるバッチタイプを作成](#)しているか確かめます。
- デザイナーエクスプローラで**操作**を右クリックし、続いて、**作成**をクリックします。
- **バッチの区切り**を選択し、**次へ**をクリックします。
- IRIS Powerscan で作成したいバッチタイプを選択し、続いて**完了**をクリックします。
- **条件**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- 条件が満たされる度に、選択したタイプのバッチが作成されます。

例：

- 新しいバッチタイプ「新規バッチ」を作成します。
- 前述のステップに従います。
- **条件**として、Page.Index>4 を入力します。
- 画像を5つ以上スキャンします。
IRIS Powerscan は、4番目の画像に続いて新規のバッチを開始します。

注記：バッチの名前付け、バッチの区切り、バッチ識別操作は、もちろん組み合わせることも可能です。

9.17 バッチ識別

この操作で、バッチタイプを他のタイプに変更できます。

- 開始する前に、[異なるバッチタイプを作成](#)しているか確かめます。
- デザイナーエクスプローラで**操作**を右クリックし、続いて、**作成**をクリックします。
- **バッチ識別**を選択し、**次へ**をクリックします。
- 条件が満たされている場合、変更する必要があるバッチのバッチタイプを選択してから、**完了**をクリックします。
- **条件**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- 条件が満たされる度に、参照バッチのタイプが選択したタイプに変更されます。

9.18 ドキュメントのネーミング

この操作で、ドキュメントの名前を変更することができます。

- ウィザード (F12) を開始し、**操作を追加する > ドキュメントの名前付け**の順に選択します。
- **ドキュメントの名前付け**セクションがデザイナーエクスプローラに追加されます。
- **条件**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- **名前**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、名前付けオプションを設定します。
- 条件が満たされている場合、ドキュメントの名前が変更されます。

ヒント: [バッチの名前付け](#) をご参考にしてください。

9.19 文書区切り

この操作で、文書を区切ることができます。

- 開始する前に、異なるドキュメントタイプを作成しているか確かめます。
- デザイナーエクスプローラで操作を右クリックし、続いて、作成をクリックします。
- **文書の区切り**を選択し、**次へ**をクリックします。
- IRIS Powerscan で作成したいドキュメントタイプを選択し、続いて**完了**をクリックします。
- **条件**の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- 条件が満たされる度に、選択したタイプのドキュメントが作成されます。

例：

- 新しいドキュメントタイプ「新規ドキュメント」を作成します。
- 前述のステップに従います。
- **条件**として、Page.Index>4 を入力します。
- 画像を5つ以上スキャンします。
IRIS Powerscan は、4番目の画像に続いて新規のドキュメントを開始します。

注記：ドキュメントのネーミング、文書区切り、ドキュメント識別操作は、もちろん組み合わせることも可能です。

9.20 ドキュメント識別

この操作で、ドキュメントタイプを他のタイプに変更できます。

- 開始する前に、異なるドキュメントタイプを作成しているか確かめます。
- デザイナーエクスプローラで操作を右クリックし、続いて、作成をクリックします。
- ドキュメント識別を選択し、次へをクリックします。
- 条件が満たされている場合、変更する必要があるドキュメントのドキュメントタイプを選択してから、完了をクリックします。
- 条件の横にあるペンシルアイコンをクリックして、条件を設定します。
- 条件が満たされる度に、現在のドキュメントタイプが選択したタイプに変更されます。

10. ページの識別

本資料で既に述べた通り、IRIS Powerscan 10 の優れた新規性の一つは、**ページを一意に識別する**能力です。あるページを唯一無二のページとユニークに識別することにより、（[画像処理](#)、[データ抽出](#)、[ページ削除](#)などの）、操作を必要とされるページだけに適用することができるため、IRIS Powerscan の処理速度を向上させます。


ページを識別する上で**主要機能**となるのが、[フィンガープリントの検出](#)です。フィンガープリントの検出機能を使って、IRIS Powerscan は、読み取った画像のレイアウトを調べます。もし、スキャンされたページのレイアウトが、予めプロジェクトのある[ページタイプ](#)に追加しておいた[サンプル](#)のレイアウトと一致したら、スキャンされたページは、そのページタイプであると判断されます。

しかし、ページタイプを識別するには、他にも[データ抽出](#)、[白紙ページの検出](#)などの操作も使えます。

実際、ページ ID 手法として使用可能な**条件**もあります。いくつかの例を以下に示します。

識別条件の例

次の手順に従って、ページの識別条件を適用します。

- デザイナーモードに切り替えます。
- 設定したい（必要ならば[作成](#)する）ページタイプにジャンプします。
- **条件**のフィールドの横にある**表現式エディタ**（) をクリックします。
- リストから**変数**を選び、次に**演算子**を選択して、必要ならば**値**を入力します。

識別条件の例を以下に挙げます。

ページタイプにカラー画像のみが含まれる場合：**Image.IsColor**（24 ビット画像の場合）、および **Image.IsTrueColor**（32 ビット画像の場合）

画像の幅が所定の値を超えるページタイプを識別する場合：**Image.Width > <YourWidth>**

一画素あたりのビット数が所定の値を超えるページタイプを識別する場合：**Image.Bpp > <NumberOfPixels>**

言うまでもなく、これらは、極めて広い応用の可能性の中で、ほんの少しの実用例でしかありません。[表現式を使用する](#)も参照してください。

一度識別するページタイプが定義されると、[文書タイプの区切り](#)としても利用できます。

11. ドキュメントとバッチの区切り

IRIS Powerscan は、一連の画像とスキャンのストリームを、**バッチ > ドキュメント > ページ**の論理構造に分類します。標準設定では、それぞれ一つのバッチタイプ、文書タイプ、およびページタイプが用意されています。スキャンしたすべてのページには、同じ文書タイプが割り当てられます。

文書タイプとバッチタイプを追加すれば、スキャンの構成に合わせて IRIS Powerscan をカスタマイズすることができます。また、特定の文書タイプまたはバッチタイプに対してのみ、ある操作を選択的に適用することも可能です。

ウィザードを使って文書タイプを追加する

以下の操作が、文書タイプを追加する最も簡単な方法です。

- **ウィザード** (F12) を起動します。
- **文書タイプを追加する** をクリックします。続いて、**次へ** をクリックします。
- 文書タイプの名前を付けます。
- 区切り方法を選択します。
 - **なし** : IRIS Powerscan は、この文書タイプに出会っても、文書区切りを実行しません。
 - **ページ数に基づく** : IRIS Powerscan は、指定されたページ数に達した後、新規ドキュメントを開始します。
 - **空白ページに基づく** : IRIS Powerscan は、白紙ページを検出するたびに、新規ドキュメントを開始します。
 - **ページタイプに基づく** : IRIS Powerscan は、選択された指定のページタイプを検出するたびに、新規ドキュメントを開始します。このオプションは、ページタイプが少なくとも二つ定義されている時だけ有効です。前のセクションの [ページタイプを追加する](#) を参照ください。
 - **データ抽出に基づく** : IRIS Powerscan は、予め定義しておいたページ上のデータ抽出ゾーンを調べます。データ抽出ゾーンの内容が事前定義の内容と一致すると、IRIS Powerscan は、新規ドキュメントを開始します。
 - **最初のページを削除する** : これは、**空白ページに基づく**、または **データ抽出に基づく** が選択されている時に使用可能なオプションです。このオプションを選ぶと、バッチの最初のページが削除されます。
- [文書タイプを追加する](#) で説明したのと同じやり方で、ウィザードを完了します。

デザイナーモードで文書タイプを手動で作成する

- デザイナーモードに切り替えます。
- デザイナーエクスプローラでドキュメントをダブルクリックし、続けて、**作成** をクリックします。
- 作成する文書タイプの名前と説明を入力します。
- 名前付けのオプションを [文書タイプを追加する](#) で説明した方法と同じように設定するか、或いはペンシルアイコンをクリックして [表現式エディタ](#) を開き、より詳細な名前付けオプションを設定します。
- ウィザードまたは [表現式](#) を使って、IRIS Powerscan が、いつこの新しい文書タイプを開始させるかを決定する条件を手動で設定します。

ヒント :

入力ドキュメントの構造を再構築するには、条件として Input.PageIndex を使います。

作成したファイルに入力ファイルの名前を付けるには、GetName の機能の一つである GetFileNameWithoutExtensions(Input.Path) または GetFileName(Input.Path) を使ってください。

- **正確度**: 1 (非常に低い) から 100 (非常に高い) までの範囲で正確度レベルとして示されます。もしも、ドキュメントの下位のページの中に、認識精度の要件を満足できないものがあれば、そのドキュメント全体が不正確のフラグを立てられてしまい、手動でその修正をしなければならないことになります。

IRIS Powerscan は、常に、データ抽出ゾーン、ページ、ドキュメント、バッチについて正確度レベルを計算しています。**正確度**のフィールドで正確度レベルを考慮すべきか、無視するかを決定できます。

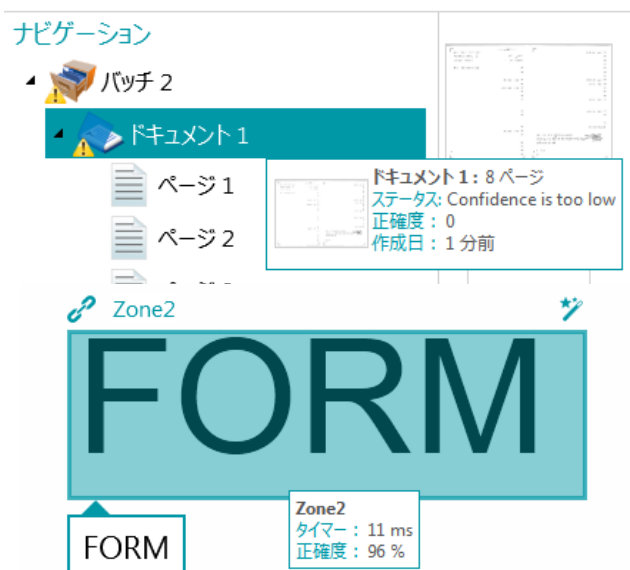
ページの正確度レベルは、そのページ上に定義されている各データ抽出ゾーンの正確度レベルの中で最も低い値となります。

ドキュメントの正確度レベルは、その下位にあるページの正確度レベルの中の最低値となります。

バッチの正確度レベルは、その下位にあるドキュメントの正確度レベルの中の最低値となります。

もし、標準設定の正確度の値に0を入れると、正確度レベルは、考慮されなくなります。

ヒント： 正確度レベルは、ナビゲーションツリーの各ページ、ドキュメント、バッチのツールチップ（バールーン）、および各データ抽出ゾーンのツールチップに表示されます。



- **カウンタ：** 標準設定により、IRIS Powerscan は、各バッチとドキュメントごとに、1 から数え始めます。カウンタの数値は、別の値を入力するか、矢印をクリックすることで変更できます。
 - **新しいバッチで文書カウンターをリセットする：** このオプションが選択されている時、IRIS Powerscan は、新しいバッチが始まると、カウンターを指定された値にリセットします。
 - **最初のページを削除する：** 新しいドキュメントを始める度に、最初のページを削除したい場合は、このオプションを選択します。
 - **標準文書タイプ：** この文書タイプを標準文書タイプにしたい場合は、このオプションを選択します。

同様の指示がバッチタイプを分類する際も当てはまります。

また、次のトピックを参照し、**ページタイプの識別**がドキュメントの分類にどのように利用されているか、その**例**をご覧ください。

11.1 文書区切りの例

この例にある全てのドキュメントは次のような構造をしています。即ち、各ドキュメントは、一枚のカバーページ、複数の本文のテキストページ、そして図面類を含む一つの追加付録から構成されています。これら三種類の要素は、それぞれ独特なレイアウトを持っているため、Fingerprintの検出機能を使って、各ページタイプを識別します。

次に、各ページタイプから、それぞれに対応する三種類の文書タイプ（Cover、Body、Appendix）を作成します。

最後に、各文書タイプ用の出力タイプを別個に作成します。CoverはPDFに、Bodyはワードに、そしてAppendixは、認識処理を施さないTiff形式に変換されます。

ステップ1：ウィザードを使って、Cover、Body、Appendixの三つのページタイプを作成する

- ウィザードを起動し、**ページタイプを追加する**をクリックします。
- 「**Cover**」と名付けます。
- カバーページの**サンプル画像**を追加します。
- **識別手法としてフィンガープリントに基づく**を選択します。
- 残りの二つのページタイプについても同様の操作を行います。

ステップ2：ウィザードを使って、ページタイプに対応する三つの文書タイプを作成する

- ウィザードを起動し、**文書タイプを追加する**をクリックします。
- 再度、「Cover」と名付けます。
- **区切り手法としてページタイプに基づく**を選択します。
- ウィザードを終了し、残りの二つのページタイプについても同様の操作を行います。

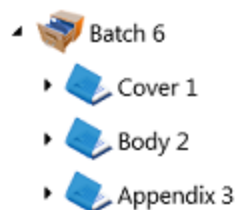
ステップ3：ウィザードを使って、文書タイプに対応する三つの出力タイプを作成する

- ウィザードを起動し、**出力タイプを追加する**をクリックします。
- 本書では、出力タイプも「Cover」と名付け、**書式**としてPDFを選択します。
- **カラーフィルター**を選択します。
- 次に、この出力の**適用先**に**特定の文書タイプ**を選択します。
- 文書タイプとして「Cover」を選択します。
- 出力先には、**フォルダ**を選択します。
- ウィザードを終了し、残りの二つの出力タイプについても同様の操作を行います。

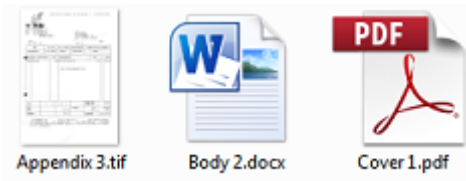
ステップ4：ドキュメントのスキャンと処理を行う

- ドキュメントをスキャンすると、IRIS Powerscanは、今設定した三つの文書タイプを作成します。

ナビゲーション



- そして、ドキュメントの処理を行うと、各文書タイプに対応する独立した出力ファイルが作成されます。



12. スキャンしたドキュメントのチェックと再編成

プロジェクトに読み込まれたドキュメントは、まずナビゲーションモードで表示されます。



12.1 スキャンしたドキュメントをチェックする

マルチストリーム画像

もし、お使いのスキヤナがマルチストリーム画像対応（一度のスキヤンでカラーと白黒、および／またはグレースケール画像を出力する）の機種であれば、それらの画像は、IRIS Powerscan の中でも維持されます。

ドキュメントを一つクリックし、下位のページを表示します。マルチストリーム画像を持つページは、そのアイコンの下に薄い影をつけて表示されます。



ページ 1

異なるストリームの間を切り替えるには、

- 表示タブをクリックし、表示の下にある下向き矢印をクリックします。
- そして、見たいストリームを選びます。



両面画像

両面スキャナおよびを使用している場合に、IRIS Powerscan で両面をアクティベーションすると、IRIS Powerscan により、表面と裏面が正しく入れ替わります。



面を入れ替える必要がある場合は、以下の手順で行います。

- 入れ替えたい表面および裏面を Ctrl を押しながらクリックします。
- **並べ替え**の下にある下向き矢印をクリックし、**面の入れ替え**をクリックします。



複数のページを同時に選択して面を入れ替えることが可能になりました。後述のドキュメントの **並べ替え** をご覧ください。

12.2 スキャンしたドキュメントを再編成する

ナビゲーションモードでスキャンしたドキュメントを再編成するには、次のような方法があります。

- ナビゲーションエクスプローラの中で再編成する。
- ビューアーの中で再編成する。
- ナビゲーションバーを使って簡単移動する。

ページは、別のドキュメントやバッチに移すことができます。ドキュメントは、別のバッチに移すことができます。そして、バッチは、位置を切り替えることができます。

しかし、バッチ > ドキュメント > ページ の構造は常に維持されなければなりません。

以下の操作は、ナビゲーションエクスプローラとビューアーのどちらでも、使えます。

- ドラッグ・アンド・ドロップ
- 切り取りと貼り付け
- 分割と統合
- 要素の並べ替え
- 新規バッチとドキュメントの手動作成
- ページの回転

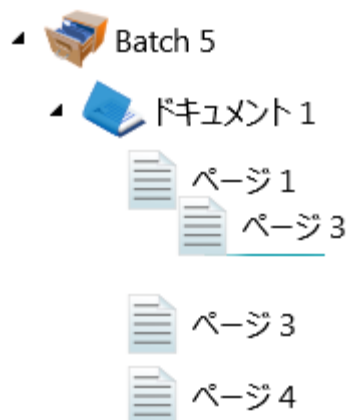
さらに、

- ページのトリミング
- 例えば機密情報など、スキャンしたページの一部の塗りつぶし

ドキュメントのドラッグ・アンド・ドロップ

ナビゲーションエクスプローラとビューアーのどちらでも、バッチ、ドキュメント、およびページは、ドラッグして他の場所にドロップすることができます。

ナビゲーション



ドキュメントの切り取り、コピー、貼り付け

バッチ、ドキュメント、およびページは、切り取りと貼り付けの操作を使っても、他の場所に移動することができます。

- 移動させたい要素を右クリックし、続いて、**切り取り**、または**コピー**をクリックします。
- 要素を貼り付けたい位置にカーソルをポイントし、**貼り付け**をクリックします。

ドキュメントの分割と統合

バッチとドキュメントは、分割、またはそれぞれ隣接するバッチとドキュメントと統合することができます。

バッチまたはドキュメントを分割するには、

- 分割するバッチかドキュメントを選択し、**編集タブの分割**をクリックします。
- または、そのバッチかドキュメントを右クリックし、**分割**を選択します。

バッチまたはドキュメントを統合するには、

- 隣にあるバッチ、ドキュメントと統合したいバッチかドキュメントを選択し、**編集タブの統合**をクリックします。
- または、そのバッチかドキュメントを右クリックし、**統合**を選択します。

要素の並べ替え

並べ替え

並べ替えツールを使用して、スキャンしたドキュメントを並べ替えることができます。

ただし、最初の2つのコマンド（**カバーが最初** および**カバーが最後**）は、Debookletting モードでスキャンされた画像の並べ替えにのみ使用してください。詳細は、操作 > [並べ替え](#)をご覧ください。

順序を逆転

スキャンされたすべてのページの順序を逆転するには、以下の手順に従います。

- **順序を逆転**をクリックします。

これは、ドキュメントレベルでのみ有効です。単一ドキュメント内のページの順序のみが逆転されます。

面の入れ替え

面の入れ替えコマンドを使用して、ページを交換して面を裏返すことができます。

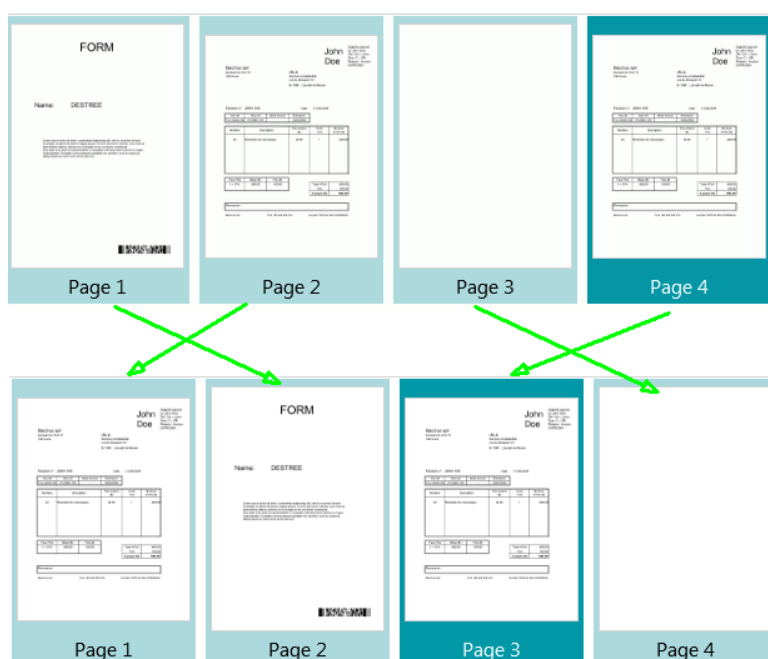
ページの位置を交換するには、ページの対の番号を選択する必要があります。

例：

1~4 ページを選択する場合、1 ページ目と 2 ページ目の位置が交換され、3 ページ目と 4 ページ目の位置が交換されます。これらのページの面も入れ替わります。つまり、表面が裏面になり、裏面が表面になります。

注記 : 5 ページ分選択した場合、5 ページ目の位置は変わりませんが、面は裏返されます。

ヒント : カーソルをページに合わせると、表面か裏面かを確認できます。



注記 : 異なるドキュメントやバッチにまたがって複数のページを選択することができます。ただし、ページや面はそれぞれ元のドキュメントやバッチのままであることを注意してください。これらは、あるドキュメントやバッチから別のドキュメントやバッチに移動されることはありません。

ページの面を裏返したいだけの場合は、1 ページのみを選択し、**面の入れ替え**をクリックします。表面が裏面に、裏面が表面になります。これはページ単位で行う必要があります。

ヒント : 意図しない変更を元に戻すには、Ctrl-Z を使用します。

手動で新しいバッチとドキュメントを作成する

- 新しいバッチかドキュメントを作成したい位置にカーソルをポイントします。
注記 : 新規のバッチは、常に前回のバッチの後に挿入され、ドキュメントの中央に入ることはありません。
- 編集タブの作成**の下にある下向き矢印をクリックします。



- バッチ**、または**ドキュメント**を選択します。
- 新しいバッチ / 文書の名前を付けます。
- 標準設定により、**スキャンを開始する**が選択されます。
新しいバッチ / 文書が作成されると、IRIS Powerscan は、自動的にスキャンを開始します。

ページの回転

- 回転したいページを選択します。
- 表示**タブをクリックし、回転オプションのどれかを選びます。

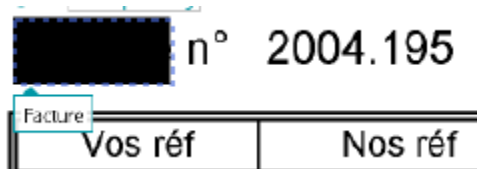
ページのトリミング

- トリミングしたいページを選択します。
- ページの上に、その外側を切り取りたいエリアを囲む枠を描きます。

- 表示タブでトリミングをクリックします。

ページの塗りつぶし

- 隠したいコンテンツを持ったページを選択します。
- 隠したいエリアの周りに枠を描きます。
- 表示タブ上で、塗りつぶしの下にある下向き矢印をクリックして、塗りつぶしに使う色を選びます。
- 次に、塗りつぶしをクリックします。



13. スキャンしたドキュメントのインデックスを作成する

IRIS Powerscan は、強力なインデックス作成のソリューションです。バッチ、ドキュメント、およびページレベルでインデックスフィールドを定義することができます。もし、複数のバッチタイプやドキュメントタイプが定義されていれば、各タイプ専用のインデックスフィールドを作成することもできます。

インデックスの値は、OCR ゾーン、バーコードゾーン、ICR ゾーンなどのデータ抽出要素から得られるデータを基に、スキャンしたドキュメントから直接読み込むことができます。強力なインデックス作成機能の目的は、つまるところ、面倒なデータ入力の手作業や厄介な検証基準の設定を不要にすることです。

IRIS Powerscan により自動的にインデックスフィールドが書き込まれたら、ユーザーにインデックスの検証をやらせるか、或いは自動検証にするかを選ぶだけです。後者の場合、ユーザーの介在は全く必要ありません。[IRIS Powerscan 10 におけるドキュメント処理](#)をご覧ください。

IRIS Powerscan では、インデックスフィールドを Microsoft Access のような外部の ODBC データベースにリンクさせることも可能です。そうすれば、インデックスフィールド入力時に選択候補の値のリストをデータベースから得られます。

IRIS Powerscan で作成したインデックスフィールドは、既存の DMS、またはクラウドシステムで使用中のインデックスフィールドにマッピングすることができます。こうすることで、完全にインデックス化されたドキュメントを IRIS Powerscan からエクスポートできます。

この章では、以下の方法を説明します。

- [インデックスフィールドを作成する](#)
- [データ抽出ゾーンをインデックスフィールドにリンクする](#)
- [インデックスゾーンの正確度レベルを使用する](#)
- [IRIS Powerscan のインデックスフィールドを既存の DMS およびクラウドシステムのインデックスフィールドにマッピングする](#)
- [データソースを使用する](#)
- [インデックスフィールドを検証する](#)

13.1 インデックスフィールドを作成する

IRIS Powerscan 10.4 では、インデックスフィールドはデザイナーモードでのみ作成できます。

デザイナーモードでインデックスフィールドを作成する

- まず、プロジェクトを開きます。
- デザイナーモードに切り替えます。
- インデックスフィールドをバッチ、ドキュメント、ページタイプのどのレベルに作成するか、そしてどのバッチタイプまたはドキュメントタイプに適用するかを決定します。
- フィールドを右クリックして、作成をクリックします。



13.1.1 インデックスフィールドのオプション

インデックスフィールドを作成する時、以下のオプションを定義することができます。

名前: 名前を入力します。名前はユーザーにとって意味のあるものとします。

ラベル: ラベルでインデックスフィールドを識別します。ラベルはフィールドの名称で、インターフェースに表示されます。

説明: インデックスフィールドの説明を入力します。これは、ユーザーにとって意味のあるものとします。

タイプ: リストからインデックスフィールドのタイプを一つ選択します。以下に示すタイプから選択可能です。

- **String:** テキストストリング
- **Boolean:** はい、または いいえ
- **Integer:** 整数
- **Double:** 小数
- **Number:** 小数点付きまたは小数点なしの数字。このオプションにアクセスするにはペンシルアイコンをクリックします。
- **Currency:** 通貨の値、すなわち金額。このオプションにアクセスするにはペンシルアイコンをクリックします。
- **Percentage:** 百分率比の値。このオプションにアクセスするにはペンシルアイコンをクリックします。
- **DateTime:** 時間の値このオプションにアクセスするにはペンシルアイコンをクリックします。
- **TableField:** 明細項目のフィールドを作成できます。

IRIS Powerscan が、明細項目を認識するためには、**数量**、**単価**、および**総額**の三つの主要要素が揃っていなければなりません。さらに、数量に単価を乗算したものが、総額になっていなければなりません。

- 表フィールド (Table Field) を追加するには、プラスサインをクリックします。
- 上に一覧表示したフィールドタイプは、すべて表フィールドとして使用可能です。

値：この表現式は、標準設定でどの値をインデックスフィールドに入れるかを規定します。

例：例えば、「Zone1」というデータ抽出ゾーンを作成したと仮定します。そこに Image.Zone1 という変数を選ぶと、そのゾーンの内容は、インデックスフィールドに書き込まれます。

ヒント：特定のページの値を読み出すのに、三項演算子を使えます。例えば、?(Page.Index==2, Image.Zone1, "")この三項演算子の例では、ページ2にある値が抽出されます。

ヒント：OCR ゾーンから特定の単語だけを抽出したい場合、プロブのフィルタリングと組み合わせた SubString または SubString f s 機能を使用できます。例えば、SubString(Image.Zone3, "AA9" といった具合です。この例では、アルファベット2文字とそれに続く1桁の数字が捉えられます。

条件：このブーリアン式は、インデックスフィールドの**確実性**を判定します。

例：フィールドの変数は、現在のインデックスフィールドの値を含んでいます。そこに、条件として、**Field == "abc" or !**を使います。**IsNullOrEmpty(Field)**.インデックスフィールドは、自身が「abc」を含んでいる時、またはその内容が空でない時だけ有効になります。

書式：この表現式は、ユーザーがインデックスフィールドの内容を調整しようと手動で編集を行う度に、計算されます。

ヒント：[ここ](#)をクリックすると、**表現式エディタ**に関する詳しい情報が見られます。

オプション：

- **上書き**：このオプションが選択されると、たとえフィールドに値が入っていても、標準値の再評価を行います。このオプションは、各ページで表現式を評価する際に便利です。
- **読み取り専用**：ユーザーは、フィールドを見ることはできますが、編集することはできません。
- **非表示**：このオプションは、ナビゲーションモードでインデックスフィールドを非表示にします。インデックスフィールドを検証する必要がない時は、このオプションを選択します。
- **履歴**：インデックスフィールドのドロップダウンリストをクリックして開けると、そのインデックスフィールドの直近の5回の入力値が表示されます。

重要：履歴オプションは、**表示**オプション（以下）で複数の行を表示することを選択した場合、**利用できません**。

表示：

表示オプションは、選択した**タイプ**によって設定内容が変わります。

- **x Line(s)**：表示する行数を指定します。

重要：複数の行を表示することを選択した場合、**履歴**オプション（上記）は利用できません。


データソース：ウィザードを経由して**データソースを追加**することにより、Microsoft Access のように、IRIS Powerscan 内のインデックスフィールドをリストや事前に定義した値、または外部の ODBC データベースにリンクさせることができます。

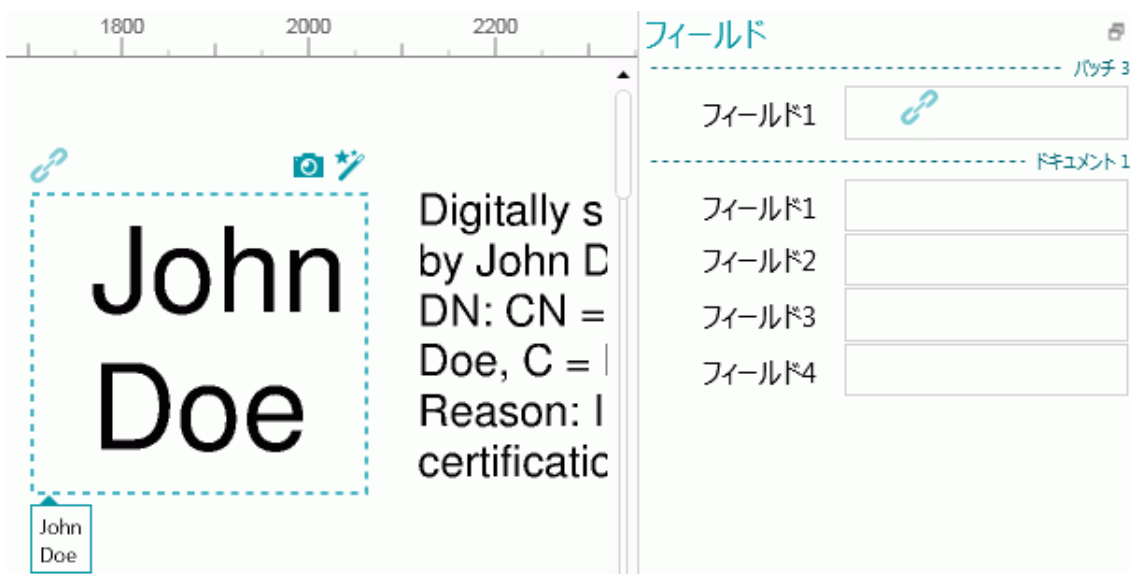
- **複数の値**：このオプションを選択すると、インデックスフィールドは、一つまたは複数の値を持つことができます。
- **データソースだけを読み取る**：このオプションを選択すると、IRIS Powerscan は、データソースから読み取った値だけを検討の対象にします。

異なるインデックスフィールドの設定を終えたら、それらをスキャンしたドキュメントの**データ抽出ゾーンにリンク**させなければなりません。そうしないと、インデックスフィールドへの自動書き込みができなくなります。

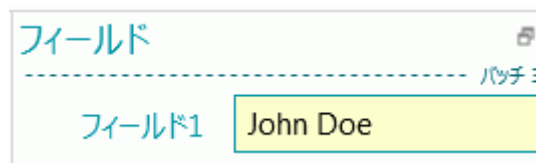
13.2 データ抽出ゾーンをインデックスフィールドにリンクする

データ抽出ゾーンの内容をインデックスフィールドに書き込むことができます。それを実現するためには、まず、少なくとも一つのデータ抽出ゾーンを作成し、それをインデックスフィールドにリンクさせなければなりません。

- データ抽出ゾーンは、[データ抽出](#)で説明した要領で作成します。
重要： リンクを張ろうとする前に、データ抽出ゾーンを**キャプチャーする** () を忘れないでください。もし、ゾーンをキャプチャーしなければ、単なる一時的なゾーンになってしまいます。その内容は、インデックスフィールドに書き込まれるでしょうが、インデックスフィールドとはリンクされていません。
- ペーパークリップのアイコンをそのゾーンからリンクを張りたいインデックスフィールドのコンテンツまでドラッグします。
標準設定では、インデックスフィールドは、バッチレベルに一つとドキュメントレベルに一つあります。
ヒント： ペーパークリップのアイコンを直接ドキュメントペインまたはバッチペインにドラッグして、そこで新規のインデックスフィールドを作成し、同時にゾーンをリンクさせることも可能です。



- ゾーンがインデックスフィールドにリンクされると、インデックスフィールドは、書き込まれます。



ヒント： インデックスフィールドの名前を右クリックし、**プロパティ**をクリックします。すると、Image.<YourZone> が、値として使われているのに気づきます。



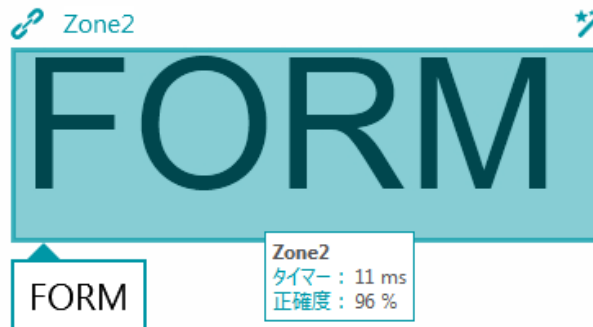
デザイナーモードにて

- デザイナーモードに切り替えます。
- デザイナーエクスプローラでドキュメントタイプ、またはバッチタイプを展開します。
- フィールドを展開します。
- 次に、展開した中で既存のフィールドをクリックするか、または新しく作成します。
- 下向き矢印をクリックして使用できる値のリストを確認します。
注記： もし、プロジェクトでデータ抽出ゾーンが設定されていないければ、リストは表示されません。

名前	フィールド1	?
ラベル	フィールド1	
説明		
形式	String	▼ 
値	Image.ゾーン	▼ 
条件	Image.ゾーン	
書式	Image.Zone2	
	Image.Zone3	
オプション	<input type="checkbox"/> 上書き <input type="checkbox"/> 読み取り専用 <input type="checkbox"/> 非表示 <input type="checkbox"/> 履歴	
表示	1	行
データソース		▼ 
	<input type="checkbox"/> 複数の値 <input type="checkbox"/> 読み取り専用データベース	

13.3 インデックフィールドの正確度レベルを使用する

IRIS Powerscan は、常に、データ抽出ゾーンの正確度レベルを計算しています。正確度レベルは、データ抽出ゾーンのツールチップに表示されます。



データ抽出ゾーンがインデックスフィールドにリンクされている場合、**正確度**の条件をインデックスフィールドに適用することができます。これは、データ抽出ゾーンの認識精度という正確度が所定のレベルより低ければ、そのゾーンとリンクするインデックスフィールドには不正確というフラグが立てられることを意味しています。

データ抽出ゾーンは、**テキスト**、**手書き**、または**バーコード**タイプでなければならない点にご注意下さい。

インデックスフィールドで正確度レベルを使うには、

- テキスト、手書き、またはバーコードタイプの**データ抽出ゾーンを作成します**。例えば、これを Zone1 とします。
- それを標準文書タイプの標準インデックスフィールド、Field1 にリンクします。
具体的には、**値**として **Image.Zone1** を入力します。
- 次に、正確度の**条件**を入力します。
本書の例では、**Image.Zone1.Confidence > 50** となっています。
以上の設定により、もし、データ抽出ゾーンの値、**Image.Zone1** の正確度レベルが 50 を下回るならば、このインデックスフィールドには、不正確というフラグが立てられることになります。
正確度レベルの値は、1（非常に低い正確度）と 100（非常に高い正確度）の間の整数でなければなりません。

デザイナー

- プロパティ
- 画像
- 操作
- 画像処理
- データ抽出
 - ゾーン
- ページ
- ドキュメント
 - Document
 - 画像
 - 操作
 - フィールド
 - フィールド1

名前	フィールド1
ラベル	フィールド1
説明	
形式	String
値	Image.ゾーン.Confidence > 50
条件	
書式	
オプション	<input type="checkbox"/> 上書き <input type="checkbox"/> 読み取り専用 <input type="checkbox"/> 非表示 <input type="checkbox"/> 履歴
表示	1 行
データソース	<input type="checkbox"/> 複数の値 <input type="checkbox"/> 読み取り専用データベース

- 不正確なインデックスフィールドを含むドキュメントとバッチも、不正確としてフラグを立てられ、検証を必要とします。
- **検証を実施し**、必要ならば、結果を変更します。

しかしながら、結果を修正しても、インデックスフィールドの色は変わりません。

注記：

正確度レベルは、ページ、ドキュメント、およびバッチのレベルにも適用できます。

ページの正確度レベルは、変数内に保存されます。

- Page.Confidence
- <Page.Type>.Confidence

ドキュメントの正確度レベルは、変数内に保存されます。

- Document.Confidence
- <Document.Type>.Confidence

バッチの正確度レベルは、変数内に保存されます。

- Batch.Confidence
- <Batch.Type>.Confidence

13.4 IRIS Powerscan のインデックスフィールドを DMS やクラウドシステムのフィールドにマッピングする

IRIS Powerscan で作成したインデックスフィールドは、文書管理システム、またはクラウドシステムで既に使用中かもしれないインデックスフィールドに、大変簡単にマッピングすることができます。このように、IRIS Powerscan は、完全にインデックス化されたドキュメントをエクスポートできます。

インデックスフィールドをマッピングするには、次の手順に従います。

- デザイナーモードに切り替えます。
- デザイナーエクスプローラで出力を展開します。
- 設定済みの出力タイプを選択するか、または出力を右クリックし、作成を選択して、新規に出力タイプを追加します。







- 既に DMS またはクラウドシステムを出力先として登録済みの場合、設定アイコンをクリックして、登録設定にアクセスします。
- 未だ、出力先の設定を行っていない場合は、プラスサインをクリックして、出力先を追加します。

宛先

文書と画像を次の宛先へ送信します



 Folder	 SharePoint	
サーバー	http://testpc1-qc/lde/	 
ユーザー名		
ライブラリ	Documents for Review	
コンテンツタイプ		
パス	/	

- サーバー、ユーザー名、およびパスワードを確認し、必要ならば入力します。
- 出力先を正確に指定して、フィールドのマッピング用ウィンドウが表示されるまで次へをクリックします。
注記: 実行する操作ステップは、DMS かクラウドシステムかによって異なります。
- 既存の出力先システムで使用されているインデックスフィールドの一覧が表示されます。
- IRIS Powerscan のインデックスフィールドにマッピングしたいフィールドを一つ選びます。
- 右の下向き矢印をクリックして、それをマッピングしたい IRIS Powerscan のフィールドを選択します。



- マッピングしたいすべてのフィールドについて、これらのステップを繰り返し、最後に完了をクリックします。

注記: ウィザードを使って新しいプロジェクトを作成し、DMS を出力先に選べば、DMS の使用可能なフィールドが反映されたインデックスフィールドが自動的に作成されます。IRIS Powerscan のインデックスフィールドと DMS のインデックスフィールドの間のマッピングも、自動的に定義されます。

13.5 データソースを使用する

ウィザードを経由してデータソースを追加することにより、Microsoft Access のように、IRIS Powerscan 内のインデックスフィールドを数値リストや外部の ODBC データベースにリンクさせることができます。

Microsoft Access のデータベースをデータソースとして追加する方法を、以下の通り説明します。ここで、例題とするデータベースは、一つの表と四つの列で構成されています。

ID	Value1	Value2	Value3	Click to Add
1	LD1	ldestree1	AAA	
2	LD2	ldestree2	BBB	
3	LD3	ldestree3	BBB	
*	(New)			

ウィザードを使ってデータソースを追加する

- ウィザード (F12) を起動します。
- データソースを追加するを選択します。続いて、次へをクリックします。
- 名前を入力します。名前はユーザーにとって意味のあるものとします。
- リスト、odbc または excel のデータソースからソースを選択し、Next (次へ) をクリックします。
- これで、データソースがデザイナーツリーに追加されました。
デザイナーモードに切り替えて、データソースの設定を続行します。

デザイナーモードでデータソースを設定する

- デザイナーエクスプローラ内のデータソースをクリックします。
- 今追加したデータソースを選択します。

ODBC

- ドロップダウンリストから接続文字列の例を選択します。

名前	データソース1
接続文字列	
SQL コマンド	dsn=FRA_PROD_dsn1 dsn=Fra_Prod_dsn dsn=ExampleDatabase dsn=DataBase1 dsn=ODBC_XLS_LinkedFields dsn=TestDatabase dsn=LinkedFields

- 正しい SQL コマンドを入力し、テストをクリックして接続をテストします。
- 下部にある行のオプションを使って、何行まで読み出し可能とするかを指示することができます。標準値は 0 であり、これは行数の制限がないことを意味します。

リスト

- 値を一つずつ手動でタイプ入力するたびに、Enter を押します。

名前 データソース2

値
Value1
Value2
Value3

Excel

- Excel データソースファイルに、パスを入力するか、ブラウザボタンをクリックして、パスを参照します。
絶対パスまたは相対パスを使用するか選べます。

注記： Excel データソースファイルは、プロジェクトフォルダにはコピーされません。

Designer

Documents

Document

Images

Operations

Fields

Accounts

Batches

Outputs

Scripts

Data sources

Accounts

Name Accounts

Path Accounts.xlsx

Sheet PCMN UK

Key B

Label C

Filter I Equals "X"

Values

60	Purchases (except 603)	
601	Inventory item purchases - Raw materials (and supplies)	
6011	Materials (or group) A	X
6012	Materials (or group) B	X
6017	Supplies A, B, C...	X
602	Inventory item purchases - Other consumables	
6021	Consumable materials	
60211	Materials (or group) C	X
60212	Materials (or group) D	X
6022	Consumable supplies	
60221	Fuels	X
60222	Maintenance products	X
60223	Workshop and factory supplies	X
60224	Store supplies	X
60225	Office supplies	X

- シートのドロップダウンリストで、使用するワークシートタイプを選択します。
- キーのドロップダウンリストで、値として使用する列を選択します。
- Excel ファイルが、例えばアールコードを有するキー列とアールコードの説明を有するラベル列で構成されている場合、ラベルのドロップダウンリストでも後者の列を選択します。
下の例では、列 B がキー列で列 C がラベル列です。

	B	C	D	E	F	G	H	I
	60	Purchases (except 603)						
	601	Inventory item purchases - Raw materials (and supplies)						
	6011	Materials (or group) A						X
	6012	Materials (or group) B						X
	6017	Supplies A, B, C...						X
	602	Inventory item purchases - Other consumables						
	6021	Consumable materials						
	60211	Materials (or group) C						X
	60212	Materials (or group) D						X
	6022	Consumable supplies						
	60221	Fuels						X
	60222	Maintenance products						X
	60223	Workshop and factory supplies						X
	60224	Store supplies						X
	60225	Office supplies						X

Excel ファイルの例

- キー列とラベル列の値は、値フィールド内に表示されます。
テストをクリックし、この列をテストします。
- 値をすべて表示したくない場合、フィルタを適用できます。
フィルタとして使用したい列を選択します。続いて、等しいフィールドに値を入力します。上の例では、「I」列に「X」がある行だけが表示されます。

入力が完了したら、データベースをインデックスフィールドとリンクさせます。

データソースをインデックスフィールドにリンクする

- ドキュメント、バッチ、またはページのうち必要とされるレベルに[インデックスフィールドを作成します](#)。
- データソースフィールドの隣にある下向き矢印をクリックして、作成したデータソースを選択します。

Name	Field1	?
Label	Field1	
Description		
Type	String	✎
Value		✎
Condition	!NullOrEmpty(Field)	✎
Format		✎
Options	<input type="checkbox"/> Overwrite <input type="checkbox"/> Read Only <input type="checkbox"/> Hidden <input type="checkbox"/> History	
Display	1	Line(s)
Data source		✖
	DataSource1 DataSource2 DataSource3	

- 選択したインデックスフィールドの中にドロップダウンリストが現れるので、その中からデータソースの値を選びます。
注記： Excel データソースを使用する際、データソース名を使ってキー列の値を表示するか、「:0:1」をデータソース名に追加して、ラベル列の値を表示します。
- ドキュメントのスキャン時、データベースから読み込んだフィールドは、IRIS Powerscan の中ではインデックスフィールドとして利用可能です。

フィールド ✎

----- バッチ 1

Field1

----- ドキュメント 1

Field1

Value 1
Value 2
Value 3

13.5.1 ODBC データソースを使用時に従属フィールドを作成する

ODBC データソースを使用時、IRIS Powerscan 内に**従属フィールド**を作成することができます。こうすることで、ある特定のフィールドの内容が変更されると、それに従属するフィールドの内容も自動的に変更されます。

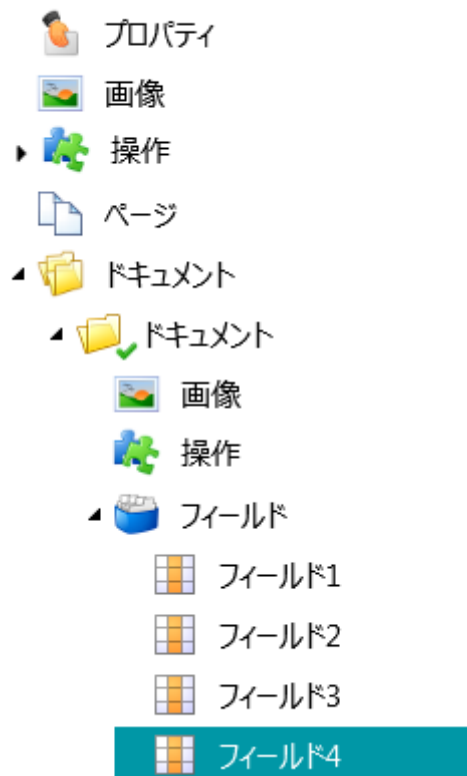
以下に、従属フィールドの作成方法の一例を示します。

- まず、以下のような内容のアクセスデータベースを作成します。
この例では、作成するデータベースの名称を **Database1** とします。

ID	Value1	Value2	Value3	Click to Add
1	LD1	ldestree1	AAA	
2	LD2	ldestree2	BBB	
3	LD3	ldestree3	BBB	
*	(New)			

- **コントロールパネル > 管理ツール > データソース (ODBC)** にジャンプします。
重要： 64 ビットのオペレーティングシステムを使用している場合、**データソース (ODBC)** は、C:\Windows\SysWOW64\odbcad32.exe から開始します。
- **システム DSN** タブをクリックし、続いて**追加**をクリックします。
- **Microsoft Access ドライバ (*.mdb、*.accdb)** を選択し、**完了**をクリックします。
- 次に、IRIS Powerscan 内のドキュメントレベルに、4 つの**文字列形式のインデックスフィールド**を作成します。
必要ならば、[インデックスフィールドを作成する](#)を参照してください。

デザイナー



- [上記の 13.4](#) で説明した要領で、ODBC 形式のデータソースを追加します。
- **接続文字列** のリスト内の下向き矢印をクリックして、作成したデータベースを選択します。（この例では DataBase1 となっています）

名前	データソース1
接続文字列	dsn=DataBase1
SQL コマンド	dsn=FRA_PROD_dsn1 dsn=Fra_Prod_dsn dsn=ExampleDatabase dsn=DataBase1

- **SQL コマンド** を次のように入力します： **"SELECT Value1, Value2 FROM Table1 WHERE Value3 = '" + ドキュメント.フィールド 1 + "'"**
- **テスト** をクリックし、この表現式をテストします。
この表現式では、文書タイプのドキュメントの**フィールド 1** が使われています。

- フィールド 2 には、データベースの第 2 列を表示させます。
 - デザイナーモードの中で、ドキュメント > ドキュメント > フィールド > フィールド 2 へジャンプします。
 - データソースフィールドに「DataSource1:1」とタイプ入力します。
ここで、:1 は、「DataSource1」という名前のデータソースの第 2 列を意味します。
- 次に、フィールド 3 をフィールド 2 にリンクさせます。フィールド 3 はフィールド 2 の従属フィールドになり、フィールド 2 の値が更新されると同時に、フィールド 3 の値も更新されます。
そのための手順は以下の通りです。
 - デザイナーモードの中で、ドキュメント > ドキュメント > フィールド > フィールド 3 へジャンプします。
 - 値フィールドに\$(ドキュメント.フィールド 2, 0)と入力します。
これで、フィールド 3 は、フィールド 2 のデータソースの第 1 列にリンクされます。
 ヒント：フィールド 3 を別の列、例えば第 2 列、にリンクさせるには、\$(ドキュメント.フィールド 2, 0) の代わりに\$(ドキュメント.フィールド 2, 1)と入力します
- フィールド 4 には、キーと値のペアを使います。キーは、保存後エクスポートされます。値は表示されます。
そのための手順は以下の通りです。
 - デザイナーモードの中で、ドキュメント > ドキュメント > フィールド > フィールド 4 へジャンプします。
 - 値フィールドに DataSource1:0:1 と入力します。
これは、キーが第 1 列に、そして値が第 2 列にあることを意味します。

以上の操作の結果を確認するには、次の手順に従います。

- 標準フォルダソースである System.InputDirectory から読み出したサンプルをスキャンします。
- ナビゲーションツリーの中からドキュメント 1 を選択します。
この段階でインデックスフィールドは空です。

フィールド	フィールド1	フィールド2	フィールド3	フィールド4
ドキュメント 1	フィールド1	フィールド2	フィールド3	フィールド4

- 次に、フィールド 1 に（作成したデータベースの通り）AAA または BBB のいずれかを入力します。
フィールド 2 とフィールド 3 のリストは更新され、それぞれ値が入っています。

フィールド	フィールド1	フィールド2	フィールド3	フィールド4
ドキュメント 1	フィールド	AAA	ldestree1	LD1

- 次に、フィールド 2 のリストから値を一つ選択してください。
フィールド 3（従属フィールド）の値が、更新されているはずですが。
- インデックス.xml を出力フォーマットとして選択し、プロセスをクリックして、値がどのようにエクスポートされたかをチェックします。

13.5.2 リストデータソースの使用時に従属フィールドを作成する

リストデータソースを使用している時、**従属演算子**を使って従属フィールドを作成することができます。

以下に、そのような従属フィールドの作成方法の一例を示します。

- [上記の 13.4](#)で説明した要領で、**リスト形式のデータソース**を追加します。
- **デザイナー > データソース > DataSource1** にジャンプします。
- 値の入る列を 2 列作成します。
本書の例では次のようになります。
100;BXL
200;NLE
300;LUX
- ドキュメントレベルに、2 つの**文字列形式のインデックスフィールド**を作成します。
必要ならば、[インデックスフィールドを作成する](#)を参照してください。

デザイナー



- 次に、以下の手順で、最初のインデックスフィールドをデータソースにリンクさせます。
 - デザイナーツリーの中の Field を選択します。
 - **データソースフィールド**の隣にある下向き矢印をクリックして、作成したデータソースを選択します。
- データソース名の最後に**:0:1** と追加します。「:0:1」には次のような意味があります。
 - 最初の列の値（添字=0）は、第 1 列が保存用であることを意味します。
 - 2 番目の列の値（添字=1）は、第 2 列が表示用であることを意味します。



- 次に、作成した 2 番目のインデックスフィールドに移り、**値フィールド**に **Dependency (ドキュメント.フィールド, "ドキュメント.フィールド[0]")**または**\$(Document.Field, "Document.Field[0]")**と入力します

- ページ
- ドキュメント
 - ドキュメント
 - 画像
 - 操作
 - フィールド
 - フィールド
 - Subfolder

値

条件

書式

オプション 上書き 読み取り専用 非表示 履歴

表示 行

データソース

複数の値 読み取り専用データベース

- これで、インデックスフィールドの SubFolder は、ドキュメント.フィールドに従属します。SubFolder フィールドの値は、ドキュメント.フィールドの第 1 列となります。そして、ドキュメント.フィールドの値が変更されれば、SubFolder の値も即座に更新されます。

----- ドキュメント 1

フィールド	BXL
Subfolder	100

13.6 インデックスフィールドを検証する

インデックスフィールドが、正しく、データ抽出ゾーンにリンクされているか、または入力クラウドシステムにマッピングされている時、インデックスフィールドは、スキャン中に、IRIS Powerscan で自動的に書き込まれ、検出の準備を完了します。

重要： 請求書の処理中、検証は、Web Verify で行われ、IRIS Powerscan が、直接実行することはできません。

Fields	
Field1	
Type	TVA
TVA	BE720445328
ZoneC	
ZoneC	144136
ZoneC	
ZoneC	1317212
Zone8	464331
Zone5	285263
Zone5	53782
Zone7	231481
Trime:	1
Annee	2002

ナビゲーションモードでのインデックスフィールドの例

- 正しい値のフィールドは、白く表示されます。
- 手作業で、変更されたフィールドは黄色で示されます。
- 無効な値のフィールドは、赤く表示されます。

インデックスフィールド間の切り替えは、次の操作で行います。

- Tab キーを押して、次のインデックスフィールドにジャンプします。
- Shift + Tab キーで、直前のインデックスフィールドにジャンプします。

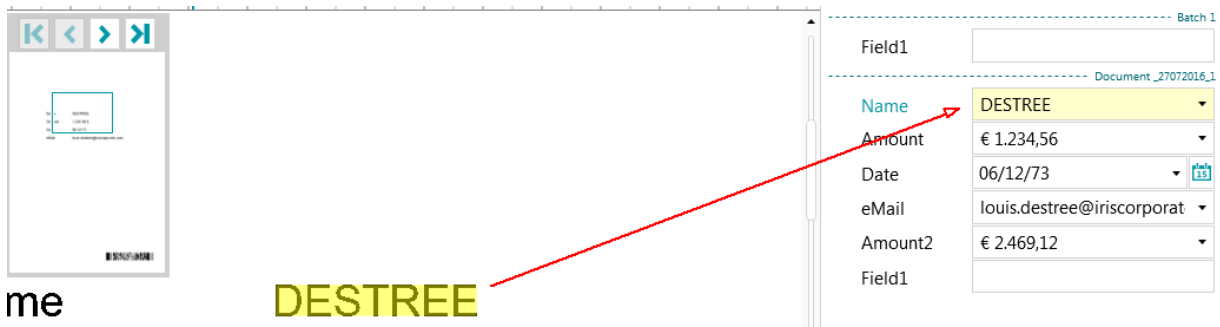
無効なインデックスフィールドの間の切り替えは、次の操作で行います。

- 前方と後方のボタンをクリックします。



インデックスフィールドの変更は、次の操作で行います。

- 新しい値を手動でタイプ入力します。
- ドラッグ・アンド・ドロップ OCR を使用します。即ち、インデックスフィールドの内部をクリックし、次にビューア内の画像にデータ抽出ゾーンを描きます。そのゾーンの内容がインデックスフィールドに書き込まれます。
- ダブルクリック・テキストセレクトを使用します。即ち、インデックスフィールドの内部をクリックし、次に画像の中のインデックスフィールドに追加したい単語をダブルクリックします。若しくは、Ctrl キーを押しながら、単語をダブルクリックすると、テキストの行全部が入力されます。



me

DESTREE

- インデックスフィールドの隣にある下向き矢印をクリックし、値の一つを選択します。IRIS Powerscan は、入力された最後の五つの値を記憶しています。

注記： ドロップダウンリストの中の値は、[データソース](#)から来たデータかもしれません（データソースを入力に設定している場合）。

操作の取り消しとやり直しは、

- [クイックアクセスバー](#)にある取り消しとやり直しの矢印を使います。

インデックスフィールドを検証するには、

- 単に Enter を押すだけです。

14.出力を設定する

IRIS Powerscan は、スキャンしたドキュメントを様々な出力フォーマットに変換し、想定される多くの宛先に送ることができます。

出力は、プロジェクト [作成](#) 時に選択しますが、その後は **デザイナー** モードで選ぶこともできます。

デザイナーモードで出力設定にアクセスする

- デザイナーモードに切り替えます。
- デザイナーエクスプローラで **出力** を展開し、設定したい出力タイプを選択します。
- 新しい出力タイプを追加したい場合は、出力を右クリックし、続いて、**作成** をクリックします。

デザイナー



重要： 上図を見るとわかるように、特定の出力設定に **操作** を加えることもできます。この作業は、ウィザードを使えないということを除いては、一般的なページ、ドキュメント、そしてバッチレベルで操作を追加するのと同じように行います。

出力のオプション

名前

出力タイプの名前を入力します。

条件

必要ならば、出力タイプに条件を与えることができます。

例：

あるプロジェクト内に複数の文書タイプを定義したと仮定します。その場合、ある特定の文書タイプだけを特定の出力フォーマットでエクスポートすることを選択できます。例えば、「Body」という文書タイプが、圧縮されたテキスト検索可能な PDF に変換したいテキストを含んでいるとします。そして、「Appendices」という文書タイプは、TIFF ファイルとして保存したい画像だけを持っているとします。そこで、Document.Type は「Body」と等しくなければならない、という条件を使ってみましょう。

- **条件** の隣のウィザードアイコンをクリックします。
- 右の項目から **フィルター** を選択します： カラー、グレースケール、白黒、自動、表裏。
- この例では、「カラー」を選択します。

フィルタ

- カラー
- グレースケール
- 白黒
- 自動
- 表面
- 裏面

- 条件を特定の文書タイプに適用するを選択し、**次へ**をクリックします。
- 文書タイプを選択します。ここで、「Body」を選びます。
- **完了**をクリックします。
次の条件が、条件のフィールドに追加されます： Image.IsColor && Document.Type == "Body"
- もう一つの文書タイプである Appendix についても、同様に条件設定を行います。

名前付け

出力ドキュメントの名前の付け方を決定します。

出力ドキュメントの名前は、引用符の間に決まった名前をタイプ入力し、カウンターを追加するか、或いはウィザードアイコンをクリックして命名用の式を作成します。

重要： 名前付けのオプションにカウンターを追加することを推奨します。そうしなければ、IRIS Powerscan は、既に出先フォルダに入っているファイルを上書きしてしまうかもしれません。

名前付けの項目を選択してください

名前付け	"出力" + " " + String(Document.Index)
接頭語	出力
フィールドを追加します	<なし>
日付を追加する	<なし>
時間を追加する	<なし>
デリミッタ	<スペース>
	<input checked="" type="checkbox"/> カウンタを追加する

接頭語： 各出力ドキュメントの前に置かなければならない接頭語を入力します。

フィールドを追加する： データ抽出ゾーンの内容も名前に追加できます。

注記： データ抽出ゾーンを追加するためには、プロジェクト内に少なくとも一つのデータ抽出ゾーンを作っておかなければなりません。

日付を追加する： 追加したい日付の書式をリストの中から選びます。

時間を追加する： 追加したい時間の書式をリストの中から選びます。

デリミッタ： どのデリミッタを使って、名前の異なる部分を区切るかを選択します。

書式

リストから必要な**書式**を選択します。次に、ペンシルアイコンをクリックして、その設定を行います。

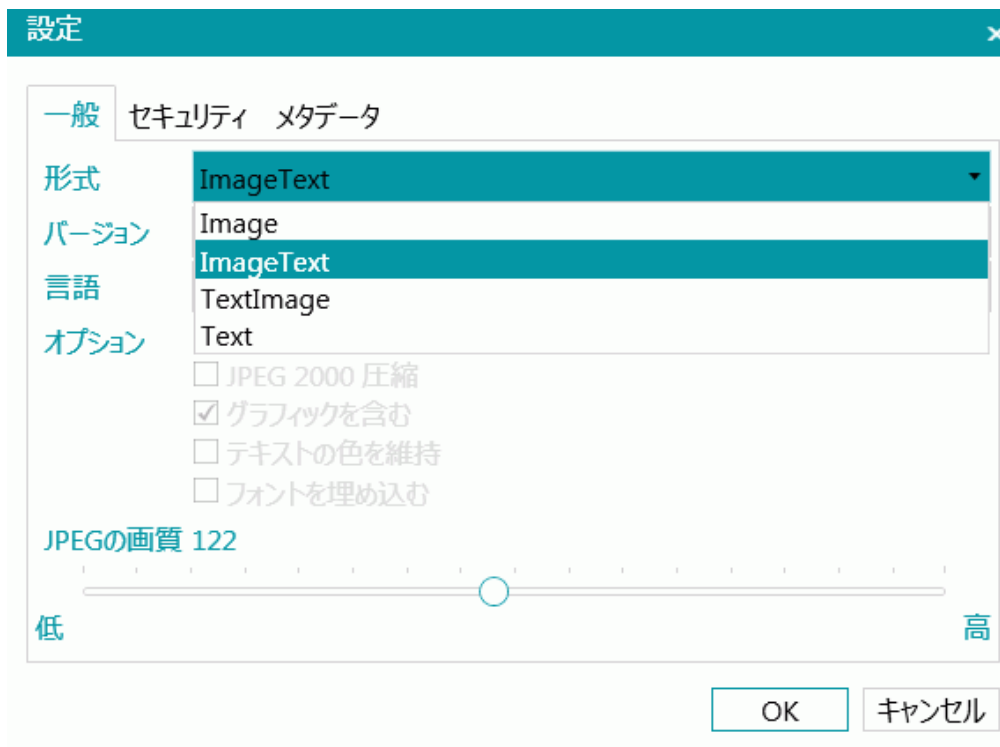
出力先

プラスサインをクリックして、**出力先**を追加します。

14.1 出力フォーマットを選択する

1.PDF

- リストから **PDF** を選択します。
- ペンシルアイコンをクリックして、このオプションに進みます。



一般タブ

形式

画像

この形式の PDF ファイルは、スキャンされた画像を持っています。しかし、テキストと認識されたデータは含んでいません。ですから、この種のファイルのテキスト検索は、無意味です。

画像テキスト

このファイル形式は、最も一般的に使われています。画像テキストファイルは、認識されたテキストと、その上にある元の画像という二つのレイヤーで構成されています。ですから、元の画像を見ながら、認識されたテキストにもアクセスすることができます。画像テキストファイルのもう一つの利点は、ファイル名によるファイル検索に加えて、このファイル形式は、ファイルシステムにより索引を付けることができるので、索引のテキストを含むファイルを見つけることでファイル検索ができることです。

テキスト画像

このファイル形式は、画像-テキスト形式の PDF とは逆になります。この形式は、元の画像を背景に持ち、認識されたテキストは画像の上にあります。

テキスト

このファイル形式は、認識されたテキストで構成され、ドキュメントの元の画像は含んでいません。ドキュメントの原本のすべての画像は、グラフィックとしてこの PDF ファイル内に含まれます。

バージョン

作成したい PDF のバージョンを選択します。

- 1.4：このバージョンの PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat 5.0 またはそれ以上のバージョンが必要です。
- 1.4.A1a：このバージョンの PDF は、ページ指向の文書の長期保存用として適切であることを意図し、しかも実際に現場で既に使われている Adobe PDF バージョン 1.4 に制約を与えます。レベル A 適合 (PDF/A-1a) とは、文書の構造特性および語義特性に関連する要件を含め、ISO 19005-1 の要件に完全準拠していることを意味します。
- 1.4.A1b：このバージョンの PDF も、ページ指向の文書の長期保存用として適切であることを意図し、実際に現場で既に使われている Adobe PDF バージョン 1.4 に制約を与えます。レベル B 適合 (PDF/A-1b) とは、適合ファイルにより視覚表現された表示が長期間保存可能であることを保証する最低限の準拠を意味します。
- 1.5：このバージョンの PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat 6.0 またはそれ以上が必要です。
- 1.6：このバージョンの PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat 7.0 またはそれ以上が必要です。
- 1.7：このバージョンの PDF ファイルを開くには、Adobe Acrobat 8.0 またはそれ以上が必要です。
- 1.7-A2a：このバージョンの PDF は、ページ指向の文書の長期保存用として適切であることを意図し、実際に現場で既に使われている Adobe PDF バージョン 1.7 に制約を与えます。レベル A 適合 (PDF/A-2a) とは、文書の構造特性および語義特性に関連する要件を含め、ISO 19005-2 の要件に完全準拠していることを意味します。
- 1.7-A2b：このバージョンの PDF も、ページ指向の文書の長期保存用として適切であることを意図し、実際に現場で既に使われている Adobe PDF バージョン 1.7 に制約を与えます。レベル B 適合 (PDF/A-2b) とは、適合ファイルにより視覚表現された表示が長期間保存可能であることを保証する最低限の準拠を意味します。
- 1.7.3：これは、PDF 1.7 の拡張レベル 3 です。詳細は、Adobe のウェブサイトをご覧ください。
- 1.7.5：これは、PDF 1.7 の拡張レベル 5 です。詳細は、Adobe のウェブサイトをご覧ください。
- 1.7.8：これは、PDF 1.7 の拡張レベル 8 です。詳細は、Adobe のウェブサイトをご覧ください。

言語

ドキュメントの言語を選択します。正しい言語を選ぶことは、良好な認識結果を得るために重要です。

第二言語を追加するには、プラスサインをクリックし、追加したい第二言語を選択します。選択済みの第一言語と組み合わせで使えない言語は、グレー表示されます。

オプション

選択できるオプションは、使用する PDF のタイプとバージョンによります。

ブックマークの作成：ブックマークは、PDF ドキュメント内のリンクの一種で、そのリンク先のセクションの代表的な情報を含んでいます。ブックマークは、PDF ドキュメントに構造体を与えます。ブックマークは、ナビゲーションペインのブックマークパネルに集められています。

JPEG 2000 圧縮：ファイルを PDF 形式で保存する時、IRIS Powerscan は、そのファイル内のカラーとグレースケール画像に JPEG 2000 の圧縮処理を適用することができます。

グラフィックを含む：このオプションは、出力ドキュメントにグラフィックを含めます。

テキストの色を維持：ソースのドキュメントにあるテキストの元の色を維持します。

フォントを埋め込む：ドキュメントのオリジナルのフォントを PDF ファイルの中に埋め込むか、または含めます。このオプションを有効にすれば、たとえ他のユーザーのコンピューターに特別なフォントがインストールされていなくても、埋め込まれたオリジナルフォントでいつでもドキュメントを見ることができます。

JPEG の画質のスライダー：JPEG 2000 圧縮のオプションが選択されている時、このスライダーを使って JPEG の画質を調整できます。スライダーを左に動かすと、JPEG の画質は低下します。スライダーを右に動かすと、画質は良くなります。

セキュリティタブ

IRIS Powerscan を使って作成した PDF ドキュメントをパスワードで保護することができます。さらに、ドキュメントを開くためのパスワードとは別に、ドキュメントの変更を制限するためのパスワードを設定することが可能です。

- **ドキュメントを開くパスワード**を設定しようとする、PDF 出力を開く時のパスワードを入力するよう求められません。
- **権限のパスワード**の設定時は、セキュリティ設定で許可されたアクションしか実行することができません。これらの設定を変更したい場合は、ここでも権限のパスワードを入力しなければなりません。

IRIS Powerscan のセキュリティ設定は、Adobe Acrobat が提供している標準的な保護機能と似ています。

IRIS Powerscan の**ドキュメントを開くパスワード**と**権限のパスワード**は、違っていなければならない点に注意してください。

署名

IRIS Powerscan を使って作成した PDF ドキュメントを、デジタル署名で暗号化できます。デジタル署名は、その PDF ドキュメントを作成した人物を識別します。即ち、その PDF ドキュメントが原作者によるものであることを認証し、ドキュメントへの望まざる改変を防止すると共に、改変が加えられていないことを証明します。

しかしながら、IRIS Powerscan 自体は、デジタル署名を生成しません。そのため、IRIS Powerscan を使って署名付きのドキュメントを作成するには、まず、自由に使えるデジタル署名ソフトを手に入れる必要があります。Adobe Acrobat を使ってデジタル署名を生成するか、或いは VeriSign のような会社から入手する方法もあります。

メタデータタブ

出力ファイルに含めたい PDF ドキュメントのプロパティとキーワードを入力します。これらのメタデータは、PDF ファイルに埋め込まれ、これらのファイルにインデックスを付ける際に使われます。

2.PDF 対応 iHQC (知的高品質圧縮)

- リストから **PDF iHQC** を選択します。
- ペンシルアイコンをクリックして、このオプションに進みます。

一般タブ

バージョン

PDF についても同じオプションが利用可能です。上記の [PDF セクション](#)を参照してください。

形式

iHQC の適用したいレベルを選択します。

- レベル I：このレベルは、圧縮率は最低ですが、PDF バージョン 1.4 - および二つのサブタイプ - および上位のバージョンと互換性があります。
- レベル II_a：これが、標準の圧縮レベルです。PDF バージョン 1.5 以上と互換です。
- レベル II_b：このレベルは、二番目に高い圧縮率を実現します。PDF バージョン 1.5 以上と互換です。
- レベル III：このレベルは、最高の圧縮率を実現します。PDF バージョン 1.5 以上と互換です。

各レベルについて、スライダーをグッドサイズとグッドクオリティの間で動かして圧縮率の微調整を行うことができます。最適の結果が得られるよう、別の設定も試してください。

言語

PDF についても同じオプションが利用可能です。上記の [PDF セクション](#)を参照してください。

オプション

ブックマークの作成：ブックマークは、PDF ドキュメント内のリンクの一種で、そのリンク先のセクションの代表的な情報を含んでいます。ブックマークは、PDF ドキュメントに構造体を与えます。ブックマークは、**ナビゲーションペインのブックマークパネル**に集められています。

画像のみ：このオプションを選択すると、iHQC の圧縮処理を加えられ、認識されたテキストを含まない画像のみの PDF ドキュメントが作成されます。

セキュリティタブとメタデータタブ

PDF についても同じオプションが利用可能です。上記の [PDF セクション](#)を参照してください。

3.XPS

PDF についても類似のオプションが利用可能です。上記の [PDF セクション](#) を参照してください。

4 XPS iHQC

PDF iHQC についても類似のオプションが利用可能です。上記の [PDF iHQC](#) セクションをご覧ください。

5.テキストドキュメント

IRIS Powerscan は、**Word** (.docx) および **RTF** 形式のドキュメントを生成できます。

Word と RTF ドキュメント用に各種のレイアウト設定が用意されています。また、最適な圧縮比を実現できるスライダーもあります。

なお、テキストドキュメントは、レイアウトや圧縮のオプションはありません。画像データのない認識されたテキストだけのファイルです。

設定 ✕

言語 English ▼ +

レイアウト

- テキストの本文を作成
- 文字と段落の書式を維持
- 原本の文書を再現
 - テキストボックスの代わりに段組を使用
 - 段区切りを挿入
 - ページ背景として画像を追加

オプション

- 行を段落に統合
- グラフィックを含む
- テキストの色を維持
- 背景色を維持

OK キャンセル

言語

ドキュメントの言語を選択します。正しい言語を選ぶことは、良好な認識結果を得るために重要です。

第二言語を追加するには、プラスサインをクリックし、追加したい第二言語を選択します。選択済みの第一言語と組み合わせで使えない言語は、グレー表示されます。

レイアウト

- **テキストの本文を作成**というオプションは、連続して続くテキストの行を生成します。その結果、書式設定のないドキュメントになります。書式設定は、ユーザーが手動で行うようになっています。
- **文字と段落の書式を維持**というオプションは、スキャンしたドキュメントの一般的な書式構造をそのまま維持します。
 - フォントのタイプ、サイズ、そしてスタイルは、文字認識の処理全般にわたって維持されます。
 - 各ブロックのタブとアライメントは、再現されます。
 - テキストブロックと列は、再現されません。段落は、単純に後に続けられることになります。
 - 表は、再度正しくキャプチャされます。
 - 写真はキャプチャされません。
- **原本の文書を再現**のオプションは、ドキュメントのレイアウトをオリジナルのレイアウトにできるだけ近い形で維持しようとします。
 - テキストブロック、表、および写真は、オリジナルと同じ場所に再現されます。
 - 文字と段落の書式は維持されます。
 - ハイパーリンクも再現されます。
- **テキストボックスの代わりに段組を使用**というオプションは、テキストボックスに代わって段組みを作成し、情報をページ上に配置します。
 - 段組みされたテキストは、複数のテキストボックスのあるドキュメントに比べ、編集が楽です。テキストは、一つの段から次へと自然に流れます。
 - 注記：** 万一、IRIS Powerscan が、原本の段組みを検出できなかった場合、やはりテキストボックスが次善の策として使われます。
 - ヒント：** Word のドキュメントを作る時は、このオプションを使ってください。
- **段区切りを挿入**のオプションは、各段の最後にハードな段区切りを挿入し、それより前にあるテキストの書式を維持します。編集、追加、または削除されたテキストは、どのような場合もその段の中に留まり、如何なるテキストも自動的に段区切りを超えて続くことはありません。
 - ヒント：** もし、本文のテキストが段組みを含んでいる場合は、この（**段区切りを挿入**）のオプションを無効にしてください。テキストの一つの段から次の段への自然な流れを確実にすることができます。
- **ページ背景として画像を追加**のオプションは、スキャン済みの画像をページの背景として、認識されたテキストの下に配置します。
 - 注記：** このオプションを採用すると、出力ファイルのサイズが、大幅に増加します。
 - PDF テキスト-画像**のファイル形式は、PDF ファイルを同じ方法で変更したものです。
 - このファイルサイズの増加を抑えるには、**背景色を維持**というオプションをオプションのセクションの中から選びます。これで、劇的な減少とはいかないまでも、より小さくコンパクトなサイズのファイルが生成されます。

オプション

- **行を段落に統合**というオプションは、段落の自動検出を有効にします。
 - IRIS Powerscan は、新しい段落が始まるまで、認識されたテキストをワードラップする機能があり、ハイフオンで繋がって二行に跨る単語は、行の最後で一つの単語にしてくれます。
- **グラフィックを含む**というオプションは、文字通り、ドキュメントの出力に画像を含めます。
 - レイアウトされたテキストだけがが必要な場合は、このオプションを解除してください。
- **テキストの色を維持**というオプションは、原本のテキストに元々ついていた色をそのまま維持します。
- **背景色を維持**というオプションは、各ドキュメントの背景色を再現します。

6.インデックス (.xml)

- リストから **インデックス (.xml)** を選択します。
- ペンシルアイコンをクリックして、このオプションに進みます。
 - **文字コード**で、ASCII、UTF8、または UTF16 を選択します。
 - **インデックスファイルを作成する頻度を、バッチごと、または文書ごとのいずれかから選択**します。

7.インデックス (.csv)

- リストから **インデックス (.csv)** を選択します。
- ベンシルアイコンをクリックして、このオプションに進みます。
 - **文字コード**で、ASCII、UTF8、または UTF16 を選択します。
 - ヘッダーの内容を指定します。標準設定の値は、フィールド.ヘッダーになっています。
 - 各行の内容を指定します。標準設定の値は、フィールド.値になっています。
ここで指定した値で、すべてのインデックスフィールドの名前と値を持つ csv ファイルが作成されます。他の変数はどれでも使用できます。[表現式を使用する](#)を参照してください。

8.インデックス (.xlsx)

- リストから **インデックス (.xlsx)** を選択します。
- ベンシルアイコンを使用してオプションを設定することはできません。オプションは以下に固定されています。
 - バッチごとに、ファイル 1 つが作成されます。
 - **タイプ TableField** のドキュメントフィールドは、エクスポートされません。他のすべてのタイプはエクスポートされます。
 - すべてのフィールドが、Excel ファイルの最初のワークシートにエクスポートされます。
 - フィールド名は、Excel ファイルの一行目に入力されます。
 - 文書インデックスには、二行目で降入力されます。行ごとに、文書インデックスが 1 つ入力されます。

注記： プロジェクトパラメータ、**CollisionHandlingAppend** が、**Yes** に設定されていると、同じ名前の既存のファイルが存在する場合、IRIS Powerscan では新しいコンテンツを追加します。

9.画像ファイル

IRIS Powerscan は、次の画像ファイルを生成できます： JPEG、PNG、BMP、シングルページ TIFF、および マルチページ TIFF。

画像の種類

JPEG

JPEG は、圧縮された画像のファイルフォーマットです。JPEG 画像は、カラフルで高解像度の画像データを持っています。しかしながら、JPEG は、不可逆圧縮のフォーマットである点に注意してください。画像は圧縮しすぎると、完全に原画に復元できず、画質が劣化します。

JPEG 画像は、ウェブ上でよく使われています。

PNG

PNG は、ポータブル・ネットワーク・グラフィックの略です。これは、可逆圧縮のフォーマットで、圧縮しても細部の欠損もありません。PNG は、インデックスの付いたカラーを使い、最大 48 ビットのカラーと 16 ビットのグレースケールをサポートします。

シングルページ TIFF とマルチページ TIFF

TIFF は、タグ付き画像ファイル形式の意味です。TIFF は、高画質なグラフィックフォーマットで、1 ビットから 24 ビットまでの色深度をサポートします。TIFF は、写真のような高画質のカラー画像を、複数の異なるコンピュータプラットフォーム上で保存できる、標準的な画像フォーマットとして開発されました。

シングルページ TIFF ファイルには、一つのページが含まれるだけですが、マルチページ TIFF ファイルには、一つのファイルに複数のページを入れることができます。

TIFF 画像は、数通りの方式で圧縮できます。下記の**画像設定**をご覧ください。

BMP

BMP は、ビットマップの省略形です。BMP 画像は、非圧縮のラスター画像で、ピクセルの長方形格子で構成されます。BMP フォーマットは、画像を構成するピクセルの色のデータを圧縮することなく保存します。この保存方式は、鮮明で高画質なグラフィックを可能にしますが、反面、大きなサイズの画像ファイルを生成します。

BMP 画像は、しばしば印刷可能な画像に使用されます。

画像設定

JPEG と TIFF

最適な圧縮比を実現できるスライダーが利用可能です。



TIFF の設定

TIFF ファイルには、より上級の圧縮用オプションが用意されています。

IRIS Powerscan は、ドキュメント内部のカラー、グレースケール、および白黒画像の圧縮が可能です。

グレースケールとカラー画像の圧縮のオプション

- **TIFF JPEG 圧縮**
TIFF JPEG 圧縮は、非可逆圧縮形式です。圧縮の度合いは、保存の際のファイルサイズと画質のトレードオフを計り乍ら、調整することができます。
- **LZW 圧縮**
LZW 圧縮は、万能の可逆式データ圧縮アルゴリズムです。これは、LZW が、全く画質劣化を発生しないことを意味します。この方式の圧縮による出力ファイルは、結果的に少し大きめのサイズとなります。
- **Packbits**
Packbits は、データのランレングス（連長）符号化法を使った、高速処理の可逆圧縮スキームです。
- **非圧縮**
非圧縮は、圧縮を完全に排除します。

白黒画像の圧縮

- **TIFF Group 4 圧縮**
TIFF Group 4 圧縮は、グループ 4 のファックス装置に採用されている画像圧縮の手法です。これは、モノクロ（白黒）画像だけに使用されます。Group 4 圧縮は、ファイルを 20 : 1 の圧縮比で圧縮します。

- **TIFF Group 3 圧縮**

TIFF Group 3 圧縮は、古いファックスの圧縮方式です。

- **LZW 圧縮**

LZW 圧縮は、万能の可逆式データ圧縮アルゴリズムです。この方式の圧縮による出力ファイルは、結果的に少し大きめのサイズとなります。

- **Packbits**

Packbits は、データのランレングス（連長）符号化法を使った、高速処理の可逆圧縮スキームです。

- **非圧縮**

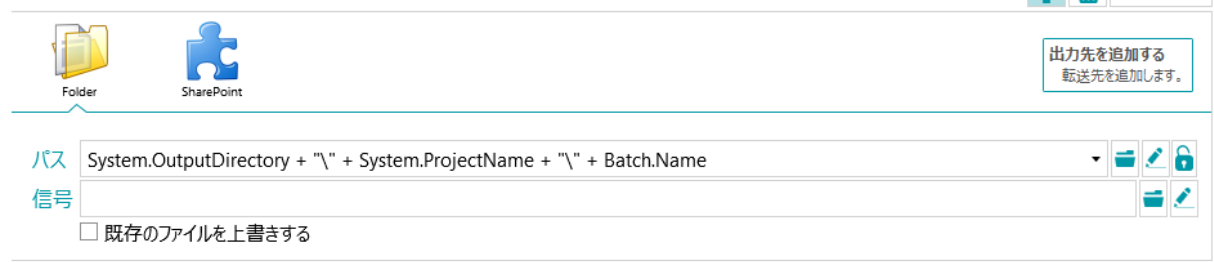
非圧縮は、圧縮を完全に排除します。

14.2 出力先を選択する

必要ならば、[出力を設定する](#)をご覧ください、出力フォーマットにアクセスする方法の参考としてください。

宛先

文書と画像を次の宛先へ送信します



14.2.1 出力先の概要

電子メール

To: **To** フィールドに受信者を入力します。または、**To** をクリックして、アドレスリストから受信者を選びます。

重要: メールアドレスは二重引用符内に入力されている必要があります。例えば、「john.smith@irisporate.com」となります。

Cc: カーボンコピーの受信者を入力します。または、Cc をクリックして、アドレスリストから受信者を選びます。

件名: 電子メールの件名は、標準設定でドキュメントの名前にセットされています。**Document.Name** は、正しいドキュメントの名前が使われているかを確認するだけの変数です。その他の変数も使えます。

本文: 標準設定では、電子メールの本文の内容は、「The Document.Name is attached」に設定されています。ここでも、その他の変数も使えます。

サイズ: 一通の電子メールのサイズとして想定される最大値を入力します。標準設定は、2,048 KB です。

分割: 文書ごとに電子メールを一通送信するには、**分割**を選択します。

オプション (電子メールプロトコル): **mapi プロトコル** (標準、ローカルのメールクライアントから送信)、または **Smtp プロトコル** (ウェブメール用)。

Smtp を選択した場合:

ホスト名とポート番号を入力します。

IRIS Powerscan が送ろうとする電子メールの送信を断念する**タイムアウト**の時間を設定します。標準設定は、60 秒になっています。

必要ならば、**SSL を使用する**を選択し、セキュア・ソケット・レイヤーを使って暗号化します。

ユーザー名とパスワードを入力します。

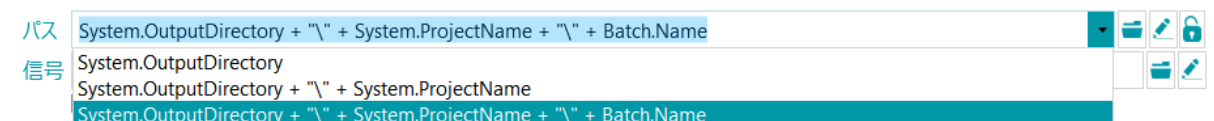
重要: サービスによってエクスポートが完了すると、Mapi は使用できません。SMTP だけが、その設定で働きます。

フォルダ

パス

標準フォルダは、**System.OutputDirectory + "\" + System.ProjectName + "\" + Batch.Name** に設定されています。

- **System.OutputDirectory** は、ユーザーのドキュメントフォルダに対応します。
- **System.ProjectName** は、現在のプロジェクト名に対応します。
- **Batch.Name** エクスポート済のバッチ名に対応します。



表現式をカスタマイズするために、ペンシルアイコンをクリックし、[表現式エディタ](#)を開きます。


重要： 表現式をカスタマイズする時は、必ず、異なる要素の間に「+ "\ " +」を入れてください。

二重引用符 (" ") の間には、決まった値を使うこともできます。例えば、"C:\Images"

重要： System.Now または System.Today 変数をパスに追加した場合は、Windows システムアカウントのカルチャが、Windows ユーザーアカウントの言語に対応していることを必ず確認してください。カルチャの日付の書式は、dd/mm/yyyy の場合もあれば、mm/dd/yyyy の場合もあります。確認するには、[方法ガイド](#)の、**IRIS Powerscan、Windows システムアカウント、Windows ユーザーアカウント間で日付の書式を同期する方法**をご覧ください。

別のフォルダを選択するには、参照アイコンをクリックして、フォルダを参照します。

ヒント： 標準フォルダを元に戻すには、Esc キーをおすだけで、後は、IRIS Powerscan が標準の場所に戻してくれます。すべての表現式について操作は同じです。

スキャンしたいフォルダがパスワードで保護されている場合、南京錠のアイコン () をクリックします。

- 自分の (ドメインの) **ユーザー名**を入力します。例えば、IRIS_DOM\MyName とします。
- 続いて、**パスワード**を入力します。
- パスワードの**確認**を行ったら、**OK** をクリックします。



The image shows a dialog box titled "認証情報" (Authentication Information) with a close button (X) in the top right corner. It contains three input fields: "ユーザー名" (Username), "パスワード" (Password), and "パスワードの確認" (Confirm Password). Below the input fields are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

信号

単独の IRIS Powerscan ワークステーションで、[接続プロジェクト](#)を使用したい場合、**信号**フィールドにパスを入力します。詳細は、[接続プロジェクトを使用する](#)をご覧ください。

オプション

既存ファイルを上書きする： このオプションが選択されており、出力フォルダ内に同じ名前のファイルが存在する場合、IRIS Powerscan は既存のファイルを新しいファイルに上書きします。

既存ファイルに追加する： このオプションが選択されており、出力フォルダ内に同じ名前のファイルが存在する場合、IRIS Powerscan は新しいコンテンツを既存のファイルに追加します。

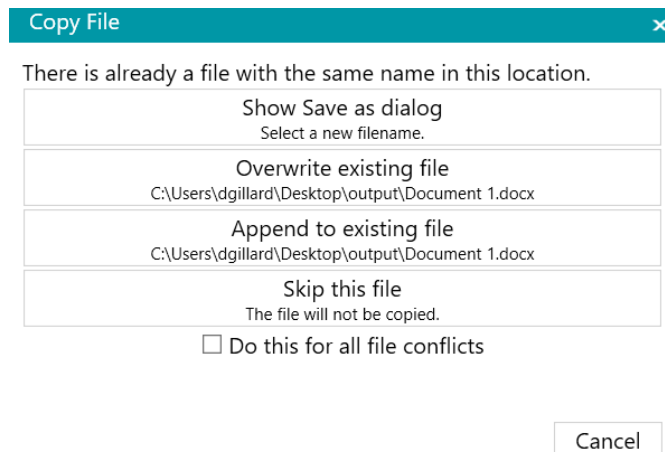
追加オプションは、PDF、PDF-iHQC、DOCX、XLSX、RTF、CSV という出力フォーマットで利用できます。

考慮すべき注記

- **追加オプションは、署名付きの PDF ファイルでは使用できません。**
- DOCX または RTF フォーマットのサイズが大きいファイルで**追加オプション**を使用すると、エラーが発生する可能性があります。
- **追加オプションと上書きオプションは、同時に選択することはできません。どちらか一方を選んで使わなければなりません。**

同時に 2 つのオプションが選択されている状態で、出力フォルダ内に同じ名前のファイルが存在すると、**ファイルのコピー**ウィンドウが表示され、新しい名前を付けてファイルを保存するか、既存のファイルに上書きするか、既存のファイルに追加するか、このファイルをスキップするか選べます。

注記： すべての**不一致**に対してこの操作を実行するオプションは、現在の出力フォーマット以外には適用されません。複数の出力フォーマットのエクスポート中に、別の出力フォーマットの 1 つで既存のファイルが存在した場合、**ファイルのコピー**ウィンドウが再度表示されます。



プリンタ

- ドロップダウンリストからプリンタを選択します。
 - 設定アイコンをクリックして、プリンタオプションにアクセスします。
 - 希望するオプションを選択します。終わったら、**完了**をクリックし、プリンタオプションを終了します。
- 次に、**拡大縮小**のオプションの選択を行います。
 - **実物大**：このオプションは、画像の絶対サイズを維持します。例えば、A4 の画像は、プリンタや画像の解像度に関係なく、A4 のプリンタ用紙のサイズにぴったりと一致します。
 - **ページに合わせる**：このオプションは、プリンタの用紙サイズが何であれ、画像をプリンタ用紙に合わせます。
 - **実際のピクセル**：プリンタと画像の解像度に関係なく、画像の一画素とプリンタの一画素を対応させて印刷します。
- もし、実際に印刷する前に、IRIS Powerscan に印刷プレビューを表示させたい場合は、**プレビューを表示**を選択します。

SharePoint

ステップ 1

- **サーバー**の URL を入力します。
- 必要な場合は、**ユーザー名とパスワード**を入力します。

ユーザー名および/またはパスワードが必要かどうかは、設定によって異なります。必要に応じて、システム管理者に連絡してください。

コンピュータがドメイン内にある場合、ユーザー名の前にバックスラッシュが続くドメイン名を追加する必要があります。例えば、Your_Domain\jsmith となります。
- **Next** (次へ) をクリックして、接続を確立します。

ステップ 2

- 接続に成功してサーバーにライブラリがあれば、利用可能なライブラリの一覧が表示されます。
- ドキュメントを送信するライブラリを選択して、**Next** (次へ) をクリックします。

ステップ 3

- これで、ライブラリ内部の、ドキュメントの送信先となる特定のフォルダを選択できます。もし、フォルダを選択しなければ、ドキュメントは、ライブラリのルートディレクトリに保存されます。

ステップ 4

- **コンテンツタイプ**を選択します。スキャンされたページは、オブジェクトのこのタイプとして保存されます。

ステップ 5

- ターゲットシステムの中で選んだコンテンツタイプに対して定義したインデックスフィールドが表示されます。
- ここで、そのインデックスフィールドを IRIS Powerscan のインデックスフィールドにマッピングすることができます。

DOC-TYPE	<none>
DOC-ID	<none>
LANGUE	Batch.Field1
SERVICE	Document.Barcode

- 終わったら、**完了**をクリックします。

Therefore, IRISNext, CMIS, FileNet

- **サーバーの URL** を入力します。
- 必要な場合は、**ユーザー名とパスワード**を入力します。
ユーザー名および/またはパスワードが必要かどうかは、設定によって異なります。必要に応じて、システム管理者に連絡してください。
コンピュータがドメイン内にある場合、ユーザー名の前にバックスラッシュが続くドメイン名を追加する必要があります。例えば、Your_Domain\jsmith となります。
- **Next** (次へ) をクリックして、接続を確立します。接続が上手くいったら、ウィザードのステップに従ってください。

Box, Dropbox, Google Drive, OneDrive

- アカウントの**ユーザー名とパスワード**を入力します。
- **Next** (次へ) をクリックして、接続を確立します。オプションで、サブフォルダを選択することもできます。サブフォルダを選択しない場合、スキャン結果はルートディレクトリに送信されます。
- 終わったら、**完了**をクリックします。

Evernote

- アカウントの**ユーザー名とパスワード**を入力します。
- **次へ**をクリックして接続を確立し、次に、サブフォルダの選択を行います。
Evernote のルートディレクトリには、ドキュメントを送信できないので、ご注意ください。

- 終わったら、完了をクリックします。

IRISXtract

- IRISXtract が入力フォルダとして使用するフォルダを参照します。

注記： このフォルダにドキュメントを送ると、IRISXtract が必要とする **Signal** と **Data** フォルダは、自動的に作成されません。

注記： **Signal** フォルダの中にある **para.dat** ファイルは、それぞれの文書ごとのインデックスフィールドを持っています。

IRISConnect

IRISConnect を使えば、その他の出力先を設定し、それらとの接続用に IRIS Powerscan 内で特別なコネクタを持つことができます。

もし、既に IRISConnect の .xml 設定ファイルをお持ちならば、

- 参照アイコンをクリックして、そのファイルを選択します。
- 次に、ペンシルアイコンをクリックして、IRISConnect のインターフェースにアクセスします。

ここで、出力先の設定を続けることができます。例えば、出力先ファイルシステムのフィールドを IRIS Powerscan で作成したフィールドにマッピングする設定です。



未だ設定ファイルをお持ちでない場合、

- プラスサインのアイコンをクリックします。
- 次に、リストから出力先を選択し、**OK** をクリックして続行します。
これで、出力先の設定が可能です。

設定方法に関する情報は、IRISConnect の資料をご覧ください。

15. 表現式とスクリプトを使用する

15.1 表現式を使用する

表現式

IRIS Powerscan では、表現式は、ランタイム（プログラム実行時）に評価され、バッチやドキュメントのネーミング、インデックス作成などに利用されます。

表現式は、リテラル値、変数、演算子、および関数で構成されます。

リテラル値は、数字（例 123）または英数字（例 abc）のいずれかです。

文字列は、二重引用符で区切られます。

変数は、操作を行うことで更新されます。

例

白紙ページの検出の操作が実行されると、Image.IsBlank と Page.IsBlank. という変数が更新されます。

ページ添付の操作では、変数、Page.IsAttached が更新されます。

データ抽出の操作では、OCR または BCR ゾーンにそれぞれ関連する複数の変数が更新されます。

変数への代入の操作により、新規に変数を作成することができます。

新しい関数は、[スクリプト記述](#)を使えば、簡単に追加できます。

注記： これらの表現式は、標準的な正規表現式（RegEx）とは関係ありません。しかしながら、標準的な正規表現式は、関数やスクリプト記述を通して追加することは可能です。

条件

条件は、その値が真か偽であるブーリアン式で記述されます。

例えば、条件は、[ページをユニークなものとして識別する](#)、[ドキュメントやバッチを区切る](#)、[インデックスフィールドの確実性をチェックする](#)、[出力タイプにフィルタをかける](#)などの目的に使用できます。

条件は、ウィザード（) と [表現式エディタ](#)（) を使って作成します。

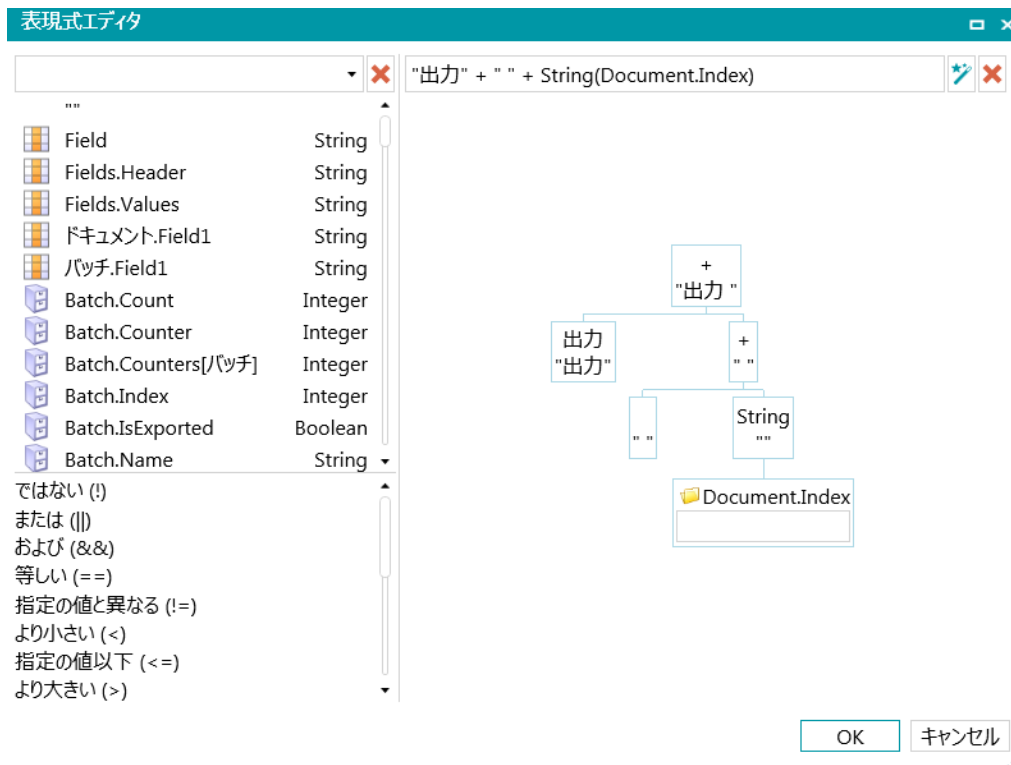


表現式の使用

表現式は、IRIS Powerscan で、名前付けのオプションや、条件、式などの設定に使われます。**表現式エディタ**は、ペンシルアイコンで表示されます。そのアイコンをクリックして、表現式エディタを開きます。



表現式エディタの中では、複雑な表現式も作成することができます。



15.1.1 利用可能な変数の概要

下のリストは、標準リストです。表現式エディタの中には次のような各種の要素があることに気がきます。

- 変数は、黄色の星印で示されています。
- インデックスフィールドは、オレンジのグリッド線で示されています。
- データ抽出ゾーンは、白い四角形で囲まれています。
- 関数は、スクロールで示されています。

新規に作成したデータ抽出ゾーンは、すべて変数リストに追加されます。

ゾーンの変数	説明
Batch.Field1	バッチの標準インデックスフィールド
Document.Field1	ドキュメントの標準インデックスフィールド
Field	現在のインデックスフィールドの値*
Fields.Header	フィールドのヘッダー (CSV フォーマット)
Fields.Values	フィールド値 (CSV フォーマット)
バッチの変数	説明
Batch.Confidence	1 (非常に低い) と 100 (非常に高い) の間の正確度レベル
Batch.Count	バッチ総数
Batch.Counter	バッチの番号
	特定のバッチタイプのバッチ数
Batch.Counters[Batch]	バッチ数は括弧の中に表示されます。
Batch.Index	バッチインデクス
Batch.IsExported	既に参照バッチがエクスポート済みならば真
Batch.Name	参照バッチの名前
Batch.Type	参照バッチのタイプ (分類後)

ドキュメントの変数

Document.Confidence

Document.Count

Document.Counter

Document.Counters[Document]

Document.Index

Document.IsExported

Document.Name

Document.Type

画像の変数

Image.Bpp

Image.Count

Image.Endorser

Image.Front

Image.Height

Image.Index

Image.IsBest

Image.IsBitonal

Image.IsBlackAndWhite

Image.IsBlank

Image.IsColor

Image.IsGrayscale

Image.IsLandscape

Image.IsOriginal

Image.IsPortrait

Image.IsTrueColor

Image.Rear

Image.Resolution

Image.Size

Image.Title.Detected

Image.Fingerprint

Image.Width

説明

1（非常に低い）と 100（非常に高い）の間の正確度レベル

参照バッチ内の文書総数

ドキュメントの番号

特定の文書タイプのドキュメント数

ドキュメント数は括弧の中に表示されます。

参照バッチ内の文書インデックス

既に現在の文書がエクスポート済みならば真

参照文書の名前

参照文書のタイプ（分類後）

説明

1ピクセルごとのビット数

参照ページ内の画像数

IRIS Powerscan がスキャナのインプリンター機能から受け取る印刷された値

現在の画像が表面にある場合は真

参照画像の高さ

画像のインデックス

現在の画像が最良の画像の場合（最高の BPP）は真

参照画像が二色の場合は真

参照画像が白黒の場合は真

白紙ページの検出操作が定義されている場合のみ有効。

画像が空白ならば、Image.IsBlank は真。

参照画像がカラー画像の場合は真
(Bpp == 24)

参照画像がグレースケールの場合は真

参照画像が横モードの場合は真

参照画像が原本（変更なし）の場合は真

現在の画像が縦向きの場合は真

参照画像がトゥーカラーの場合は真

参照画像が裏面にある場合は真

参照画像の解像度

参照画像のサイズ

タイトルが検出された場合は真

フィンガープリントの検出操作が定義されている場合のみ有効。

Image.Fingerprint は、Fingerprint（レイアウト）認識エンジンから返されたページタイプです。

参照画像の幅

変数の入力

Input.Extension
 Input.FileName
 Input.PageIndex
 Input.Path

説明

入力ファイルの拡張子
 入力ファイルのファイル名
 複数ページある入力ファイルでのページインデックス
 入力ファイルのパス

メールの変数

Mail.Cc
 Mail.Cc.DisplayNames
 Mail.Date
 Mail.From
 Mail.From.DisplayNames
 Mail.Name

説明

Cc 受信者のメールアドレス
 Cc 受信者の表示名を表示する
 送信日
 送信者のメールアドレス
 送信者の表示名を表示する
 XMail Fetcher のサブホルダ例えば、Mail00000001)
 各電子メール内のインデックス（文書区切りに使用される）
 ヒント：一通の電子メールごとにドキュメントを一つ作成するには、
 Mail.PageIndex == 0 という条件を使います。

Mail.PageIndex

Mail.Path

XMail Fetcher 出力パス

Mail.Received

受信日

Mail.ReplyTo

受信者のメールアドレス

Mail.ReplyTo.DisplayNames

受信者の表示名を表示する

Mail.Subject

電子メールの件名

Mail.To

受信者のメールアドレス

Mail.To.DisplayNames

受信者の表示名を表示する

変数の出力

Output.Name

説明

出力文書の名前
 エクスポート時のみ使用可能
 出力形式

Output.Type

エクスポート時のみ使用可能

ページの変数

Page.Confidence

説明

ページタイプが定義されている場合のみ有効。

Page.Count***

1（非常に低い）と 100（非常に高い）の間の正確度レベル

Page.Index***

参照文書の総ページ数

参照文書におけるページインデックス

Page.IsBlank

白紙ページの検出操作が定義されている場合のみ有効。

Page.IsAttached

Page.IsBlank は、ページの裏表の両面の画像が空白の場合は真

Page.Type

ページが添付されていれば真

参照ページのタイプ（識別後）

システムの変数

System.DefaultExportDirectory

説明

標準エクスポートディレクトリ

System.DefaultImportDirectory

標準インポートディレクトリ

System.FileName

現在のファイルの名前

System.InputDirectory

現在の入力ディレクトリ

System.MachineName

マシンの名前

System.Now**

現在の時間

System.OutputDirectory

現在の出力ディレクトリ

System.ProjectDirectory

プロジェクトのディレクトリ

System.ProjectName

プロジェクト名

System.ScanningDirectory	スキャンのディレクトリ
System.Today**	現在の日付
System.UserName	ユーザー名
System.WindowsUserName	ウィンドウズのユーザー名

***重要 1**

下記のように、その他のインデックスフィールドを参照できます

<document type>.<field name>

または <batch type>.<field name>

例えば、「フィールド 1」と「フィールド 2」の二つのフィールドを持つ「マイタイプ」と呼ばれる文書タイプが定義されていると仮定すると、**変数、マイタイプ.フィールド 1** には、**インデックスフィールド、フィールド 1** の値が、そして、**変数、マイタイプ.フィールド 2** には、**インデックスフィールド、フィールド 2** の値が入ります。

****重要 2**

System.Now または System.Today 変数をパスに追加した場合は、Windows システムアカウントのカルチャが、Windows ユーザーアカウントの言語に対応していることを必ず確認してください。カルチャの日付の書式は、dd/mm/yyyy の場合もあれば、mm/dd/yyyy の場合もあります。確認するには、**方法ガイド**の、**IRIS Powerscan、Windows システムアカウント、Windows ユーザーアカウント間で日付の書式を同期する方法**をご覧ください。

*****重要 3**

IRIS Powerscan 10 の以前のバージョンでは、1 ページは、スキャンされた用紙と同等のものでした。即ち、表面と裏面の双方の面を含まれていました。

これは、Page.Index または Page.Count 変数がドキュメントまたはバッチを分けるために使用される両面スキャンプロジェクトを意味します。2 ページごとに新規のドキュメントを開始するプロジェクトを設定するとします : Page.Index>2。IRIS Powerscan では、新しいページ構造が使用されているため、この設定は Page.Index>4 に変更する必要があります。

15.1.2 利用可能な演算子の概要

共通演算子

(どのタイプにも適用可能)

等しい(==)

指定の値と異なる(!=)

より大きい(>)

指定の値以上(>=)

より小さい(<)

指定の値以下(<=)

例/説明

値 1 == 値 2。値 1 は、値 2 と等しい。

値 1 != 値 2。値 1 は、値 2 と等しくない。

値 1 > 値 2。値 1 は、値 2 より大きい。

値 1 >= 値 2。値 1 は、値 2 より大きいか、または等しい。

値 1 < 値 2。値 1 は、値 2 より小さい。

値 1 <= 値 2。値 1 は、値 2 より小さいか、または等しい。

文字列演算子

文字列("")

例/説明

連結値例えば、「a」 + 「bc」 == 「abc」

ブール演算子

ではない(!)

例/説明

論理否定

および(&&)

論理積

または(||)

論理和

Null または空白

パラメータが Null または空白の文字列の場合は真

Null でも空白でもない

パラメータが Null でも空白でもない文字列の場合は真

指定の語句を含む("")

パラメータが文字列内に見つかった場合は真

指定の語句を含まない(!Contains "")

パラメータが文字列内に見つからなかった場合は真

数値演算子

加算(+)

値 1 + 値 2。値 1 を値 2 に足す。

減算(-)

値 1 - 値 2。値 1 から値 2 を引く。

乗算(*)

値 1 * 値 2。値 1 に値 2 を掛ける。

除算(/)

値 1 / 値 2。値 1 を値 2 で割る。

モジュロ演算子 (%)

値 1 % 値 2。値 1 を値 2 で割った余り。例えば、(値 1 % 2) == 1 は、値 1 が奇数であることを意味します。

変換演算子

文字列(値)

値を文字列に変換する

整数(値)

値を整数に変換する

二倍(値)

値を 2 倍に変換する

三項演算子

三項(?)

例/説明

?(<条件>、<値は条件が真ならば>、<値は条件が偽ならば>).

例えば、?(Page.Index < 1, 真, 偽)。もし、ページインデックスが 1 より小さければ、真を返します。

例えば、?(Page.Index == 2, Image.Zone1, "")。これは、2 ページ目の Image.Zone1 からデータ抽出します。

注記 : IRIS Powerscan では、不明な変数は、空の文字列で置き換えられます。例えば、変数、Page.Index が不明、若しくは表現式、「Page (" + Page.Index + ")」で見つからない場合、表現式は、「ページ()」として評価されます。

不明な変数を持つ表現式が評価となることを避けるには、設定ペインにジャンプし、StrictIndexEvaluation パラメータを「Yes」に設定します。このパラメータが「はい」に設定されており、不明な変数が引き起こされる場合、表現式は評価されず、インデックスフィールドは空白となります。

15.1.3 変数の例

表現式の持つ可能性は、極めて広範なので、ここではその例を示すだけに止めます。

例えば、**IRIS Powerscan** が、同一ページ上に特定の OCR ゾーン、且つ、特定のバーコードを検出するたびに、新規ドキュメントを開始させたいと仮定します。この処理を実現するためには、複合表現式を使う必要があります。



- まず最初に、その特定の OCR ゾーンと、その特定のバーコードを同時に含む [一枚のサンプルのページを追加します](#)。



例：




- デザイナーエクスプローラの **データ抽出** にジャンプします。
- 使いたい OCR ゾーンの周りに枠を描きます。
- ゾーンの **タイプ** として **テキスト** を選択します。
- ゾーンに付ける **名前** を入力します。
- ゾーンで検出する **言語** を間違えないよう選択します。

ゾーンプロパティを指定してください

名前	<input type="text" value="OCRZone"/>	?
条件	<input type="text"/>	 
言語	<input type="text" value="English"/>	+ 

- OK** をクリックして、設定内容を確認します。
- 使いたいバーコードゾーンの周りに枠を描きます。
- ゾーンの **タイプ** として **バーコード** を選択します。
- 正しいバーコードのタイプが、自動的に選択されます。
- ゾーンに付ける **名前** を入力します。

ゾーンプロパティを指定してください

名前	<input type="text" value="BarcodeZone"/>	?
条件	<input type="text"/>	 
バーコード	<input type="text" value="PDF417"/>	+ 

- OK** をクリックして、設定内容を確認します。
- デザイナーエクスプローラの標準文書タイプにジャンプします。
- 条件** の隣のペンシルアイコンをクリックします。

- リストを下にスクロールして、今作成した OCR ゾーンをダブルクリックします。本書の例では、**画像.OCR ゾーン** となっています。
- **等しい (==)**をダブルクリックします。
- OCR ゾーンの値を引用符の間に入力します。本書の例では、「**フォーム**」 となっています。
- **および (&&)**をダブルクリックします。
- リストを下にスクロールして、今作成したバーコードゾーンをダブルクリックします。本書の例では、**Image.BarcodeZone** となっています。
- **等しい (==)**をダブルクリックします。
- バーコードゾーンの値を引用符の間に入力します。本書の例では「**Insurance contract**」 となっています。
- **OK** をクリックして、設定内容を確認します。
この時点で、表現式は、以下のように表示されているはずです。

注記： 表現式の別の要素を編集して、表現式のテストすることができます。



注記： IRIS Powerscan では、不明な変数は、空の文字列で置き換えられます。例えば、変数、Page.Index が不明、若しくは表現式、「Page (+ Page.Index +)」で見つからない場合、表現式は、「ページ()」として評価されます。

不明な変数を持つ表現式が評価となることを避けるには、設定ペインにジャンプし、StrictIndexEvaluation パラメータを「Yes」に設定します。このパラメータが「はい」に設定されており、不明な変数が引き起こされる場合、表現式は評価されず、インデックスフィールドは空白となります。

15.2 スクリプトを使用する

スクリプトは、表現式に使われている関数を拡張する際に使います。関数は、独自に定義することが可能で、どの表現式の中でも呼び出すことができます。

スクリプトを追加するには、

- デザイナーエクスプローラでスクリプトを右クリックし、続いて、**作成**をクリックします。
- 今追加したスクリプトをダブルクリックして、その設定ウィンドウを開きます。

名前	Script
パス	..\..\script.cs   
関数	エラー 警告

- 参照アイコンをクリックして、呼び出したいスクリプトのパスを指定します。
標準のスクリプトがあるパスは、C:\Users\<名前>\AppData\Roaming\IPSx になっています。

関数	エラー 警告	
名前	形式	説明
GetLastError	String	GetLastError()
ResetLastError	Void	ResetLastError()
IsDouble	Boolean	IsDouble(String input)
IsInteger	Boolean	IsInteger(String input)
IsDateTime	Boolean	IsDateTime(String input)
Length	Integer	Length(String input)
IndexOf	Integer	IndexOf(String input,String value)

スクリプトの例

重要な注記： スクリプトは、C# または VB（ビジュアルベーシック）で記述しなければなりません。

16. IRIS Powerscan Agent

エージェントアプリケーションは、標準仕様としてインストールされています。セットアップ中にシステムトレイ・アイコンのオプションがクリアされていない限り、

エージェントはシステムトレイで有効になっています。



エージェントは、次のような操作を簡単にしてくれます。

- アイコンをクリックするだけで、IRIS Powerscan を開きます。
- アイコンを右クリックすると、以下のコンテキスト（ショートカット）メニューを表示します。

開く...： IRIS Powerscan を開きます。

スキャン： ドキュメントをスキャンして IRIS Powerscan に読み込みます。

更新： 更新プログラムがあればインストールします。

バージョン情報： バージョン情報を表示します。

終了： コンテキストメニューを終了します。

さらに、エージェントは、IRIS Powerscan のメインアプリケーションが動いていない時でも、バッチがスキャンされて使えるようになったら、警告で教えてくれます。

17. ショートカットキー

IRIS Powerscan では、以下のショートカットが利用可能です。

ナビゲーション

ナビゲーションモードの表示	Ctrl + 1
デザイナーモードの表示	Ctrl + 2
編集タブ	Alt + H
表示タブ	Alt + V
次のフィールド	Tab
前のフィールド	Shift + Tab
次の無効フィールド	Ctrl + Tab
前の無効フィールド	Ctrl + Shift + Tab
ページに進む	Ctrl + G
上へ	BackSpace
最初の画像	Alt + Home
最後の画像	Alt + End
前の画像	Alt + Up
次の画像	Alt + Down
前のテキストを検索する	Shift + F3
次のテキストを検索する	F3
上に移動 (ナビゲーションエクスプローラ)	up arrow
下に移動 (ナビゲーションエクスプローラ)	down arrow
前の参照 (履歴内の前の要素)	Alt + 左矢印
次の参照 (履歴内の次の要素)	Alt + 右矢印
展開	Ctrl + *
すべて展開	Ctrl + Shift + *
折り畳む	Ctrl + /
すべて折り畳む	Ctrl + Shift + /
要素を展開 (デザイナーエクスプローラ)	right arrow
要素を終了 (デザイナーエクスプローラ)	left arrow
(アプリケーションメニューの) 開くのセクションを開く	Ctrl + O
(アプリケーションメニューの) 作成のセクションを開く	Ctrl + N
(アプリケーションメニューの) 管理のセクションを開く	Ctrl + M

コマンド

ヘルプ	F1
キーチップを表示する	Alt
クイックアクセスツールバー	Alt + コマンド順の数字または文字
保存	Ctrl + S
切り取り	Ctrl + X
切り取りのキャンセル	Escape
コピー	Ctrl + C
貼り付け	Ctrl + V
削除の中止	Shift + Delete または Delete
復元	Ctrl + Delete
やり直し	Ctrl + Y
変更を元に戻す	Ctrl + Z
スキャン	F4
スキャンの停止	Shift + F4
再スキャン	F5
設定	F6
分割	F7
統合	Shift + F7
前へ統合	Ctrl + F7
次へ統合	Ctrl + F8
添付	挿入
未添付	Ctrl + Insert
削除	削除
エクスポート	F9
ウィザード	F12
拡大	Ctrl + Num+
縮小	Ctrl + Num-
ページに合わせてズーム	Ctrl + Num
実物大にズーム	Ctrl+ Num 0
ビューアーに 1 ページ表示	1
ビューアーに 2 ページ表示	2
ビューアーに 4 ページ表示	4
ビューアーに 8 ページ表示	8
左へ回転	Ctrl + L
右へ回転	Ctrl + R
自動回転	Alt + A
ドキュメントの作成	Ctrl + D

バッチの作成	Ctrl+ B
名前の変更	F2
認識ゾーンをキャプチャ	Enter

18.IRIS Powerscan Server

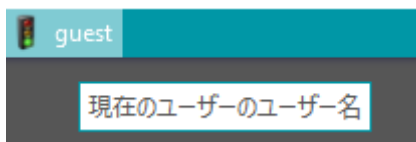
ユーザーが IRIS Powerscan Server によって管理されているプロジェクトで互いに協力し合うためには、ユーザーは、自分の IRIS Powerscan Client を IRIS Powerscan Server に接続し、IRIS Powerscan Server で定義された認証情報を使ってログインしなければなりません。

事前の要件

- IRIS Powerscan Server は、IRIS Powerscan Client がアクセス可能な場所に、正しくインストールしなければなりません。

注記： IRIS Powerscan Server は、IRIS Powerscan のインストール用 CD と www.irislink.com/downloadcenterpro のサイトにあります。

- まず、IRIS Powerscan Server のサービスを起動しなければなりません。これが起動しているかをチェックするには、
 - IRIS Powerscan Server アプリケーションを開きます。
 - 一番下のリボンにある信号機のアイコンをクリックして、現れたポップアップウィンドウに「サービス起動中」が表示されていることを確認します。



- IRIS Powerscan Client では、[Central Management add-on](#) がアクティベーションされていなければなりません。

注記： IRIS Powerscan Server との接続を希望する IRIS Powerscan Client は、個々にこのアドオンをインストールしなければなりません。

- 標準設定では、ポート 8080 が、このサーバーとの接続用に空いているはずですが。もし、このポートが他のアプリケーションで使われていたら、IRIS Powerscan 用にポートを変更できます。**ポートを変更するには：**
 - 上記の要領で、IRIS Powerscan Server サービスを起動します。
 - IRIS Powerscan Server がインストールされているコンピュータ上で、ブラウザを開き、%プログラムデータ%\IPSxServer\LocalProjects にジャンプします。
 - settings.xml** を右クリックし、続いて、**編集** をクリックします。
 - ポートを 8080 から他の空きポートに変更します。

```
settings.xml - Notepad
File Edit Format View Help
<?xml version="1.0" encoding="utf-16"?>
<Settings
  useDb="False"
  serverPort="8020" />
```

- settings.xml ファイルを保存します。
- 信号機のアイコンを再度クリックして、IRIS Powerscan Server サービスを一度停止してから、再起動します。
- 次に、IRIS Powerscan Client 側で、**ファイル > 情報 > 一般** にジャンプします。
- IRIS Powerscan 10 Server のフィールドに、新しいポートが <サーバー>:<ポート> の書式で記述されるように、サーバーアドレスを入力します。例えば、jsmith.iris.com:8020 といった具合です。或いは、もし、サーバーがローカルのマシンにインストールされていれば、アドレスは、127.0.0.1:8020 です。

ステップ 1 : IRIS Powerscan Client を IRIS Powerscan Server

- IRIS Powerscan Client を開きます。
- **ファイル > 情報 > 一般**の順にクリックします。
- **IRIS Powerscan 10 Server** のセクションで、IRIS Powerscan Server がインストールされているアドレスを入力します。
- 次に、**接続**をクリックします。



IRIS Powerscan 10 Server

127.0.0.1 ▼ 接続中...

トレイアイコン通知を有効化する

- 接続が確立されたら、**今すぐ再起動** をクリックし、アプリケーションを再起動します。

ステップ 2 : IRIS Powerscan Client からログインする

- IRIS Powerscan Client を開きます。
- **ファイル > ログイン**の順にクリックします。
- **はい**をクリックして、アプリケーションを再起動します。
- アプリケーションが立ち上がったら、自分の**ドメイン名とユーザー名**、および**パスワード**を入力し、最後に **OK** をクリックします。

Login

User name iris_dom\jsmith

Password ●●●●●●●●

OK Cancel

- 開きたいプロジェクトを選択します。
ここにリストされているのは、サーバーで管理されているプロジェクトです。
- 権限を与えられている範囲でアクションを実行し、**プロセス**をクリックして、ドキュメントの処理を行います。
- 処理中のドキュメントがあるバッチが、アプリケーションメニューの**管理**セクションに表示されます。
ペンシルアイコンをクリックして、バッチの履歴を表示します。

注記: クライアントが見れるのは、アクセスできるバッチだけです。

名前	プロジェクト	日付	アクティビティ	ステータス
Batch 1	Document Types Recognition	2016/08/12 11:57:50	検証	準備できました
Batch 1	Barcode Recognition	2016/08/11 16:44:14	検証	準備できました
Batch 5	Blank Page	2016/08/12 13:02:30	検証	準備できました
Batch 1	Checkmarks	2016/08/12 10:49:18	検証	準備できました

管理者は、IRIS Powerscan Server

アプリケーションのバッチセクションですべてのバッチのステータスを確認することができます。

設定

- バッチ
- ログ
- グループ
- ユーザー
- プロジェクト

名前	プロジェクト	日付
バッチ 1	プロジェクト	2016/08/12 1

バッチ 1

日付	アクティビティ	ステータス	ユーザー
8/12/2016 4:59:36 PM	エクスポート	実行中	guest
8/12/2016 4:59:36 PM	検証	完了	guest
8/12/2016 4:59:35 PM	検証	準備できました	guest
8/12/2016 4:59:35 PM	キャプチャ	完了	guest
8/12/2016 4:59:32 PM	キャプチャ	準備できました	guest

また、管理者は、ログをチェックして、アクティビティに関する詳細情報を確認することもできます。

設定

- バッチ
- ログ
- グループ
- ユーザー
- プロジェクト

日付	ユーザー名	メッセージ
11/08/16 15:52:46	dgillard-lap2	Started
11/08/16 15:53:00	dgillard-lap2	License accepted
11/08/16 21:21:02	dgillard-lap2	Started
11/08/16 21:21:55	dgillard-lap2	License accepted
12/08/16 08:55:42	dgillard-lap2	Started
12/08/16 08:56:15	dgillard-lap2	License accepted
12/08/16 16:50:30	guest	Login
12/08/16 16:50:30	guest	Logout

19. 接続プロジェクトを使用する

単独の IRIS Powerscan ワークステーションで、もっと処理を速くしたいなら、**接続プロジェクト**を使う方法があります。この方法は、例えば、画像処理だけを行うプロジェクトをまず一つ作成し、それとは別に、識別と区切り処理だけを行うプロジェクトを一つ作成して、両者を接続する方法です。

プロジェクトを接続するには、**信号ファイル**と**監視フォルダ**を使います。

注記： 接続プロジェクトは、IRIS Powerscan ワークステーションと IRIS Powerscan Server の接続とは、全く関係ありません。

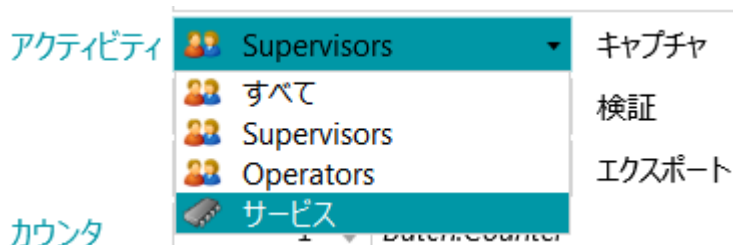
プロジェクトの接続は、以下のように行います。

- **新規プロジェクトを作成**し、出力先として**フォルダ**を選択します。
このプロジェクトで実行するのは、一部の処理に限定します。ここでは、その処理をスキャンと画像処理操作とします。
- **デザイナー** > **プロパティ**へジャンプし、**検証とエクスポート**のアクティビティを**サービス**に設定します。
- **デザイナー** > **出力** > **出力**にジャンプします。
- 出力ドキュメントの保存先の**パス**を入力します。例えば、"C:\Input\" + Batch.Name と入力します。
- 信号ファイルを保存する**信号フォルダ**を入力します。例えば、"C:\Signals\" + Batch.Name と入力します。

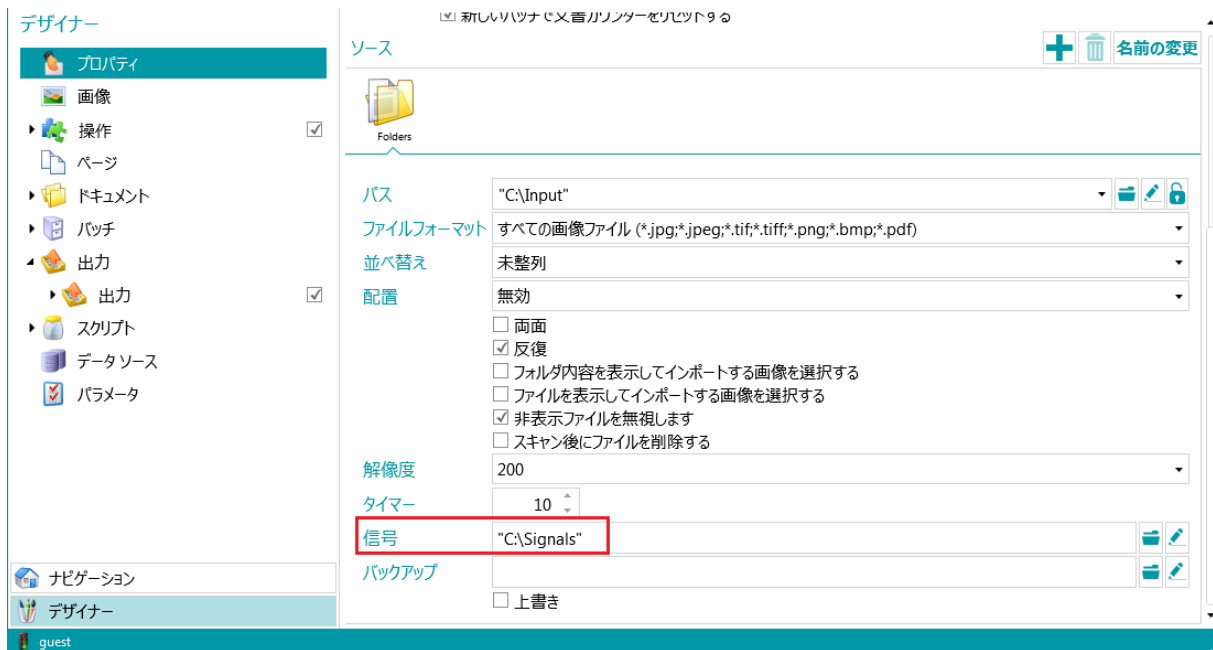
重要な注記： 必ず、フォルダ名の最後にバックスラッシュをつけてください。



- 第二のプロジェクトを作成し、ソースとして**フォルダ**を選択します。
- **デザイナー** > **プロパティ**へジャンプし、**キャプチャ**のアクティビティを**サービス**に設定します。ここで、このフォルダが監視フォルダとなります。



- 最初のプロジェクトで出力フォルダとして定義したフォルダの**パス**を入力します。この例では、「**C:\Input**」です。
- 最初のプロジェクトで定義した信号フォルダの**パス**を入力します。この例では、「**C:\Signals**」です。



- 最初のプロジェクトに戻り、ドキュメントの処理を実行します。すべてのドキュメントがエクスポートされた時、一つの信号ファイルが定義したフォルダの中に生成されますこの例では、C:\Signals\になります。
- 第二のプロジェクトの監視フォルダが、この信号ファイルを検出した時だけ、ドキュメントは第二のプロジェクトに読み込まれます。
この例では、監視フォルダ「C:\Input\」のサブフォルダである「Batch 1」は、信号フォルダ「C:\Signals\」が「Batch 1」という名前の信号ファイルを含んだ場合のみ、処理されます。
- 第二のプロジェクトに戻り、ドキュメントの処理を実行します。これで、ドキュメントは、出力フォルダに送られます。

20.Button Manager を使用する

もし、お使いのスキヤナにスキヤナボタンがいくつも付いているようなら、IRIS Powerscan の Button Manager が、これらのボタンの設定を行って、IRIS Powerscan を起動したり、好みのスキャンプロジェクトを開いたり、ドキュメントのスキャンを開始したり、といった操作をボタン一つで実行してくれます。

Button Manager は、事実上すべての Twain バージョン 1.9 以上の Twain 仕様のスキヤナと互換性があります。

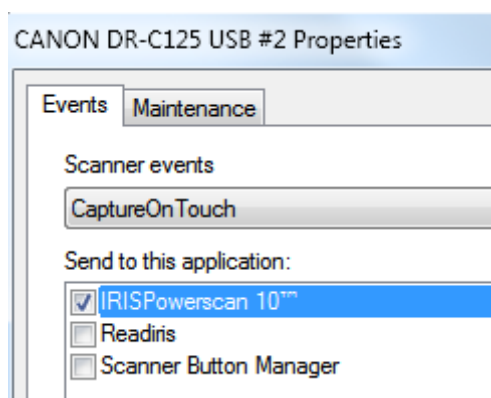
もし、お使いのスキヤナが ISIS 仕様の場合は、**ISIS-ドライバアドオン**がアクティベーションされていることを確認してください。

Button Manager の設定を行う前に、次の操作を行ってください。

- ウィンドウズのコントロールパネル> デバイスとプリンタを選択します。
- お使いのスキヤナを右クリックし、**プロパティ**をクリックします。
- イベントのリストから**プログラムを開始する**を選択します。
- アプリケーションとして **IRIS Powerscan 10** を選択します。

もし、お使いのスキヤナについて、このメニューが存在しなければ、

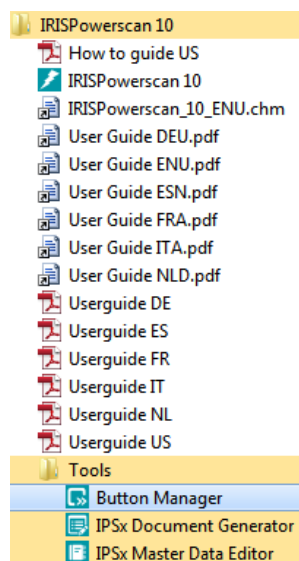
- お使いのスキヤナのスキャンユーティリティを開いてください。
例えば、Canon の imageFormula ユーティリティ
- ユーティリティが開いたら、スキャンボタンを押すと同時に IRIS Powerscan にアクセスするよう設定を行います。



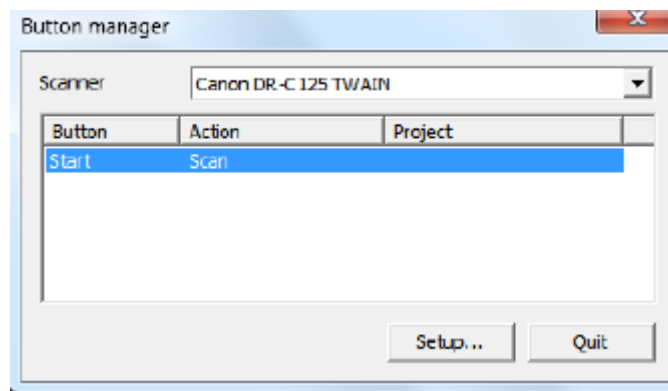
例

次に、**IRIS Powerscan Button Manager** の設定を行います。

- ウィンドウズの**プログラム**のリストから Button Manager を開きます。



- 今設定したスキヤナが**スキヤナ**のリストの中に表示されます。
- 設定したいボタンを選択し、続いて、**セットアップ**をクリックします。



- ボタンの名前を入力します。
- 以下の実行できる操作の中から一つ選択します。
 - **プロジェクトを開く**： スキャナボタンが押された時、IRIS Powerscan は、起動して単にプロジェクトを開きます。
 - **スキャン - 新規バッチ**： IRIS Powerscan は、起動するとプロジェクトを開き、新しいバッチを作成します。
 - **スキャン - 新規ドキュメント**： IRIS Powerscan は、起動するとプロジェクトを開き、新しいドキュメントを作成します。
 - **スキャン**： IRIS Powerscan は、起動後、プロジェクトを開いて、スキャンを行います。スキャンされたページは、現在のバッチとドキュメントに追加されます。
- Button Manager が開かなくてはならない**プロジェクト**として、前回最後に使ったプロジェクトか、または別の特定のプロジェクトを選択します。

注記： このプロジェクトの選択時、入力ソースとしてスキャナが設定されているプロジェクトだけが、リストに表示されます。
- 終わったら、**OK** をクリックし、設定を終了します。
- いつでもスキャナボタンを押して、スキャンを開始できます。